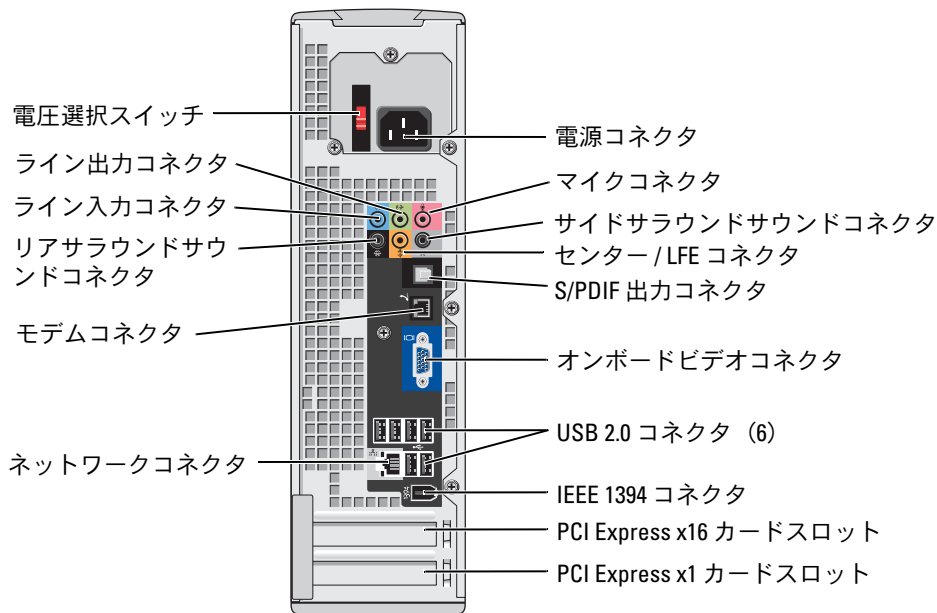
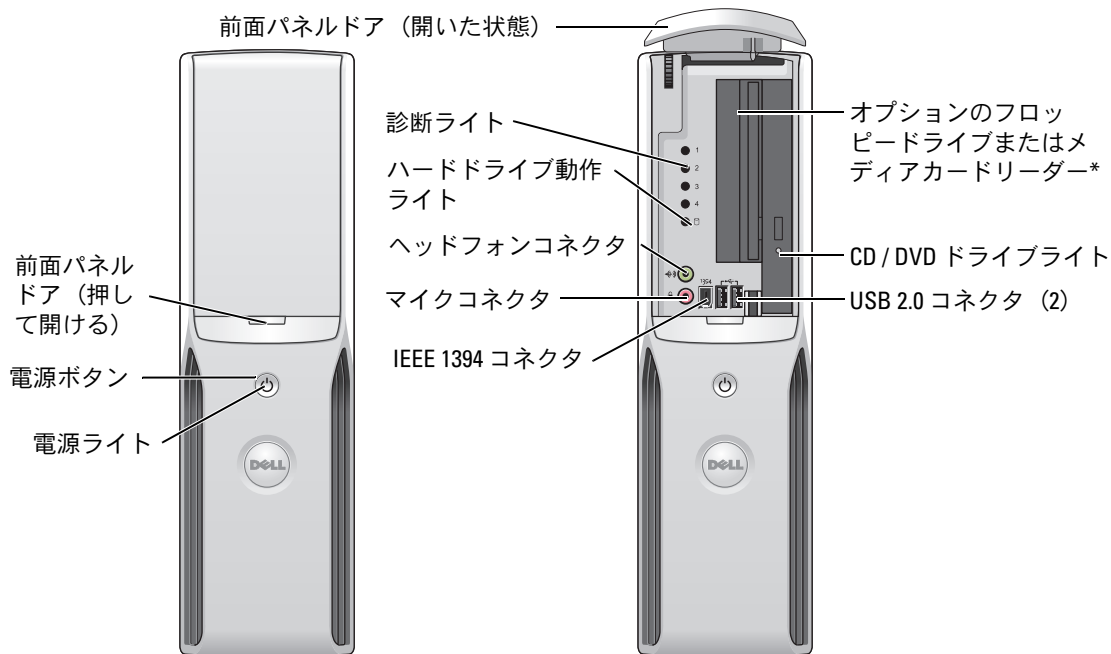


Dell™ Dimension™ 9200C




オーナーズマニュアル



* 機種によってはない場合があります。

Model DCCY

メモ、注意、警告

-  **メモ**：コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意**：ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。
-  **警告**：物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

Dell™ n シリーズコンピュータをご購入された場合、このマニュアル内の Microsoft® Windows® OS に関する記述は適用されません。

本書の内容は予告なく変更されることがあります。

© 2006 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書に使用されている商標：Dell、DELL ロゴ、Inspiron、Dell Precision、Dimension、OptiPlex、Latitude、PowerEdge、PowerVault、PowerApp、DellNet、および PowerConnect はすべて Dell Inc. の商標です。Intel、Pentium、Intel SpeedStep、および Celeron は Intel Corporation の登録商標です。Microsoft、Windows、および Outlook は Microsoft Corporation の登録商標です。

本書では、必要に応じて上記以外の商標や会社名が使用されている場合がありますが、これらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

Model DCCY

2006 年 8 月

P/N YH435

Rev. A01

目次

情報の入手方法	9
1 コンピュータのセットアップと使い方	
コンピュータの前面および背面	13
前面	13
コンピュータの背面	15
背面 I/O コネクタ	16
プリンタのセットアップ	17
プリンタケーブル	17
USB プリンタの接続	18
メディアカードリーダー（オプション）の使い方	18
TV の接続（オプション）	20
画面設定の変更	20
家庭用および企業用ネットワークのセットアップ	21
ネットワークアダプタへの接続	21
ネットワークセットアップウィザード	22
インターネットへの接続	22
インターネット接続のセットアップ	23
CD または DVD の再生	24
ボリュームの調整	26
画像の調整	26
CD および DVD のコピー	26
CD または DVD のコピーの仕方	27
空の CD および DVD の使い方	27
便利なヒント	28
電力の管理	29
スタンバイモード	29
休止状態モード	29
電源オプションのプロパティ	30

Intel® Viiv™ テクノロジ (オプション)	32
Intel® Viiva Quick Resume Technology (オプション) の使い方	32
セットアップユーティリティで QRT 機能を有効にする方法	32
OS で QRT 機能を有効にする方法	33
ハイパースレディングテクノロジーとデュアルコアテクノロジー	33

2 問題の解決

トラブルシューティングのヒント	35
バッテリーの問題	35
ドライブの問題	36
CD および DVD ドライブの問題	37
ハードドライブの問題	37
E-メール、モデム、およびインターネットの問題	38
エラーメッセージ	39
メディアカードリーダーの問題	40
IEEE 1394 デバイスの問題	40
キーボードの問題	41
フリーズおよびソフトウェアの問題	41
コンピュータが起動しない	41
コンピュータが応答しない	42
プログラムが応答しない	42
プログラムが繰り返しクラッシュする	42
プログラムが以前の Windows OS 向けに設計されている	42
画面が青色 (ブルースクリーン) になった	43
その他のソフトウェアの問題	43
メモリの問題	44
マウスの問題	44
ネットワークの問題	45
電源の問題	46
プリンタの問題	47
スキャナーの問題	48

サウンドおよびスピーカーの問題	49
スピーカーから音が出ない場合	49
ヘッドフォンから音が出ない場合	50
ビデオおよびモニターの問題	50
画面に何も表示されない場合	50
画面が見づらい場合	51
3 トラブルシューティングツール	
診断ライト	53
Dell Diagnostics (診断) プログラム	58
Dell Diagnostics (診断) プログラムを使用する場合	58
ドライバ	60
ドライバとは?	60
ドライバの識別	60
ドライバの再インストール	61
ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには	62
お使いの OS の復元	62
Microsoft Windows XP システムの復元の使い方	63
4 部品の取り外しと取り付け	
作業を開始する前に	67
推奨する工具とツール	67
コンピュータの電源を切るには	67
コンピュータ内部の作業を始める前に	68
コンピュータカバーの取り外し	68
コンピュータの内面図	70
システム基板のコンポーネント	71
メモリ	72
DDR2 メモリの概要	72
4 GB 構成でのメモリアドレッシング	74
メモリの取り付け	74
メモリの取り外し	76




カード	77
ドライブ	81
ドライブケーブルの接続	82
ドライブインタフェースコネクタ	82
電源ケーブルコネクタ	83
ドライブケーブルの接続と取り外し	84
ハードドライブ	84
ハードドライブの取り外し	85
ハードドライブの取り付け	86
CD/DVD ドライブ	89
CD/DVD ドライブの取り外し	89
CD/DVD ドライブの取り付け	91
メディアカードリーダー	93
メディアカードリーダーの取り外し	93
メディアカードリーダーの取り付け	95
フロッピードライブ (オプション)	97
フロッピードライブの取り外し	97
フロッピードライブの取り付け	99
モデム	101
モデムの交換	101
バッテリー	102
バッテリーの交換	103
コンピュータカバーの取り付け	104

5 仕様

セットアップユーティリティ	111
概要	111
セットアップユーティリティの起動	112
セットアップユーティリティのオプション	113
Boot Sequence (起動順序)	117
ジャンパ設定	119
忘れたパスワードの取り消し	120
CMOS 設定の取り消し	121
コンピュータのクリーニング	121
コンピュータ、キーボード、およびモニター	121
マウス	122
CD と DVD	122
デルテクニカルサポートポリシー (米国内のみ)	123
「プリインストールされている」ソフトウェアと周 辺機器の定義	123
「サードパーティ製」ソフトウェアと周辺機器の定義	123
FCC に関する注意事項 (米国内のみ)	124
FCC クラス B	124
デルへのお問い合わせ	125

索引	127
---------------------	------------

情報の入手方法

-  **メモ：**一部の機能やメディアはオプションなので、出荷時にコンピュータに搭載されていない場合があります。特定の国では使用できない機能やメディアもあります。
-  **メモ：**このオーナーズマニュアルは、PDF 形式のものを support.jp.dell.com で参照いただけます。
-  **メモ：**追加の情報がコンピュータに同梱されている場合があります。

何をお探しですか？

- コンピュータの診断プログラム
- コンピュータのドライバ
- デバイスのマニュアル
- デスクトップシステムソフトウェア (DSS)

こちらをご覧ください

『Drivers and Utilities CD』 (『ResourceCD』)

メモ：『Drivers and Utilities CD』はオプションなので、同梱されていないコンピュータもあります。

マニュアルおよびドライバは、コンピュータにプリインストールされています。『Drivers and Utilities CD』は、ドライバの再インストール (61 ページの「ドライバの再インストール」を参照)、Dell Diagnostics (診断) プログラムの実行 (58 ページの「Dell Diagnostics (診断) プログラム」を参照)、マニュアルの参照に使用できます。

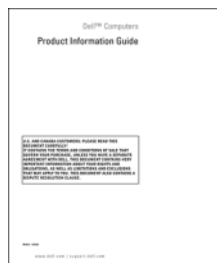


CD に収録されている Readme ファイルには、マニュアルの作成後にシステムに追加された変更や、技術者や専門知識をお持ちのユーザーを対象とするテクニカルリファレンスなどが記載されています。

メモ：ドライバとマニュアルのアップデートに関しては、support.jp.dell.com をご覧ください。

-
- 保証に関する情報
 - 契約条項 (米国内のみ)
 - 安全にお使いいただくための注意
 - 認可機関の情報
 - 快適な使い方
 - エンドユーザーライセンス契約

Dell™ 『製品情報ガイド』



何をお探しですか？

- コンピュータのセットアップ方法

こちらをご覧ください

セットアップ



- サービスタグとエクスプレスサービスコード
- Microsoft Windows Product Key
(プロダクトキー) のラベル

サービスタグと Microsoft Windows プロダクトキーラベルはお使いのコンピュータに貼られています。

- **support.jp.dell.com** を使用するか、テクニカルサポートに連絡する場合は、サービスタグでコンピュータを識別します。



- エクスプレスサービスコードを利用すると、テクニカルサポートに通話が接続されます。



何をお探ですか？

- 技術情報 — Q & A 検索、トラブル解消ナビ、Diagnostics (診断) プログラム、インストールガイド、お問い合わせの多い質問
- アップグレード — メモリ、ハードドライブ、または OS などのコンポーネントに関するアップグレード情報
- 各種サービスのご案内 — サービスプラン、登録内容変更申込、リサイクル・買取サービス、引き取り修理状況確認など
- サービスおよびサポート — サービスコールの状況とサービス履歴、サービス契約
- 参照資料 — コンピュータのマニュアル、コンピュータの設定の詳細情報、製品の仕様、およびホワイトペーパー
- ダウンロード — 認定されたドライバ、パッチ、およびソフトウェアのアップデート
- デスクトップシステムソフトウェア (DSS) — コンピュータに OS を再インストールする場合、DSS ユーティリティも再インストールする必要があります。DSS はお使いのコンピュータと OS を自動的に検出して、OS の重要なアップデート、Dell™ 3.5 インチ USB フロッピードライブ、Intel® プロセッサ、オプティカルドライブ、USB デバイスに対するサポートなど、構成に適したアップデートをインストールします。DSS は、Dell コンピュータを正しく動作させるために必要です。

-
- Windows XP の使い方
 - プログラムとファイルの操作方法
 - デスクトップのカスタマイズ方法

こちらをご覧ください

デルサポートサイト — support.jp.dell.com

メモ：お住まいの地域または事業区分を選択し、お近くのサポートサイトを表示します。

デスクトップシステムソフトウェアは、次の手順でダウンロードできます。

1 support.jp.dell.com にアクセスし、お住まいの地域または事業区分を選択し、サービスタグを入力します。

2 各種ドライバ・ファームウェアダウンロード を選択します。

3 OS と言語をクリックし、キーワード **デスクトップシステムソフトウェア** を検索します。

メモ： support.jp.dell.com のユーザーインターフェースは、ユーザーの選択によって異なる場合があります。

Windows ヘルプとサポートセンター

1 スタート → **ヘルプとサポート** をクリックします。

2 問題に関連する用語や文節をボックスに入力して、矢印アイコンをクリックします。

3 問題に関連するトピックをクリックします。

4 画面に表示される指示に従ってください。

何をお探しですか？

- OS の再インストール方法

こちらをご覧ください

『再インストール用 CD』

メモ：『再インストール用 CD』はオプションなので、同梱されていないコンピュータもあります。

OS はコンピュータにプリインストールされています。OS を再インストールするには、『再インストール用 CD』を使用します（「Microsoft Windows XP システムの復元の使い方」を参照）。



OS を再インストールした後、『Drivers and Utilities CD』を使用して、コンピュータに付属しているデバイス用のドライバを再インストールします。

OS の Product Key（プロダクトキー）ラベルは、コンピュータに貼付されています。

メモ：『再インストール用 CD』の色は、ご注文になった OS によって異なります。

-
- Linux の使い方
 - Dell Precision™ 製品および Linux OS のユーザーとの E-メールディスカッション
 - Dell Precision および Linux に関するその他の情報


デルがサポートする Linux サイト

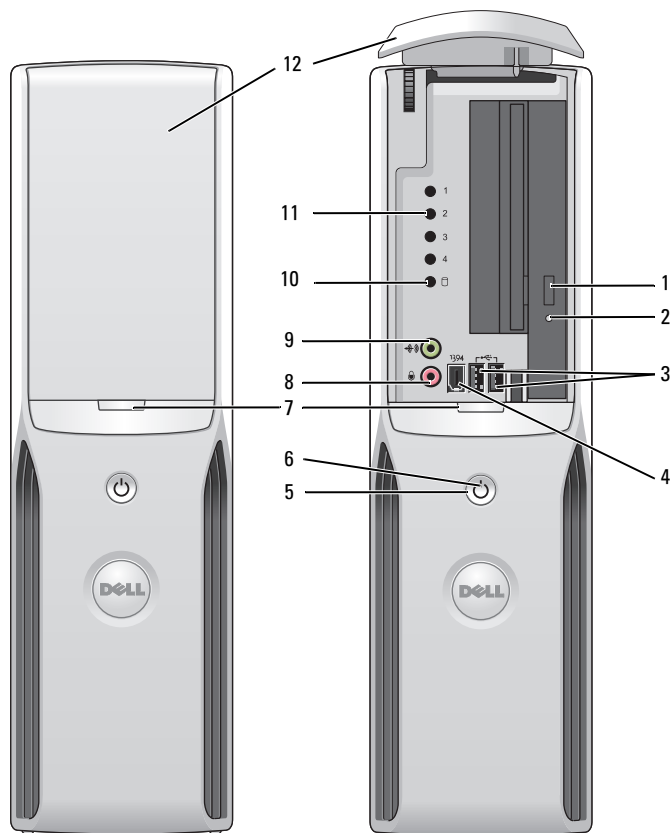
- linux.dell.com
- lists.us.dell.com/mailman/listinfo/linux-precision


コンピュータのセットアップと使い方

コンピュータの前面および背面

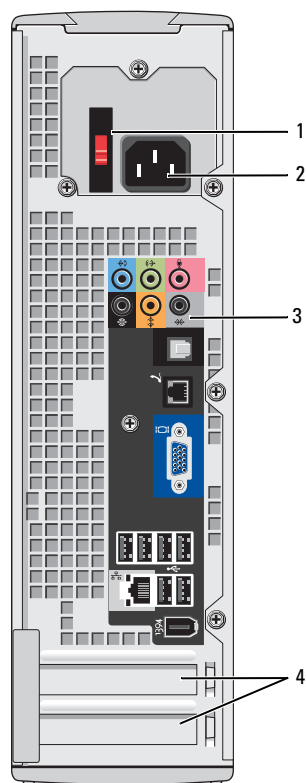
前面

 **メモ**：フラッシュメディア、IEEE 1394、USB、またはヘッドフォンのコネクタを使用している場合、前面パネルドアは閉まりません。



- | | | |
|----|----------------------|---|
| 1 | CD/DVD ドライブ取り出しボタン | このボタンを押すと、CD または DVD をドライブから取り出せます。 |
| 2 | CD または DVD ドライブ動作ライト | ドライブアクティビティライトは、コンピュータが CD または DVD ドライブからデータを読み取る際に点灯します。 |
| 3 | USB 2.0 コネクタ (2) | ジョイスティックやカメラなどの時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します (USB デバイスの起動についての詳細は、111 ページの「セットアップユーティリティ」を参照してください)。
プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面の USB コネクタを使用することをお勧めします。 |
| 4 | IEEE 1394 コネクタ | デジタルビデオカメラなど、高速シリアルマルチメディアデバイスを接続します。
外部ハードドライブやその他のストレージデバイスなど、通常接続したままのデバイスには、背面の IEEE 1394 コネクタを使用することをお勧めします。 |
| 5 | 電源ボタン | このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。
 注意： データの損失を防ぐため、電源ボタンを使用してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押さずに、OS のシャットダウンを実行してください。 |
| 6 | 電源ライト | 電源ライトは、点滅と点灯とで異なる状態を示します。
<ul style="list-style-type: none"> • 点灯しない — コンピュータの電源は切れています。 • 緑色の点灯 — コンピュータは通常の動作状態です。 • 緑色の点滅 — コンピュータは省電力状態です。 • 点滅または黄色の点灯 — 46 ページの「電源の問題」を参照してください。 |
| 7 | 前面パネルドアリリースボタン | このボタンを押して前面パネルコネクタを使用します。 |
| 8 | マイクコネクタ | 桃色のマイクコネクタにパーソナルコンピュータ用マイクを接続し、音声や音楽をサウンドまたはテレフォニープログラムに入力します。
サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合は、カードのマイクコネクタを使用します。 |
| 9 | ヘッドフォンコネクタ | 緑色のヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンやほとんどの種類のスピーカーを接続できます。 |
| 10 | ハードドライブアクティビティライト | ハードドライブ動作ライトは、コンピュータがハードドライブからデータを読み取るか、またはハードドライブにデータを書き込む際に点灯します。このライトは、CD プレーヤーなどのデバイスの動作中にも点灯することがあります。 |
| 11 | 診断ライト | それぞれの診断ライトの意味の詳細については、53 ページの「診断ライト」を参照してください。 |
| 12 | 前面パネルドア | このパネルは、CD または DVD ドライブ、メディアカードリーダー、およびオプションのフロッピードライブを保護します。 |

コンピュータの背面



- 1 電圧切り替えスイッチ（装備されていないコンピュータもあります）
- 2 電源コネクタ
- 3 背面パネルコネクタ
- 4 カードスロット

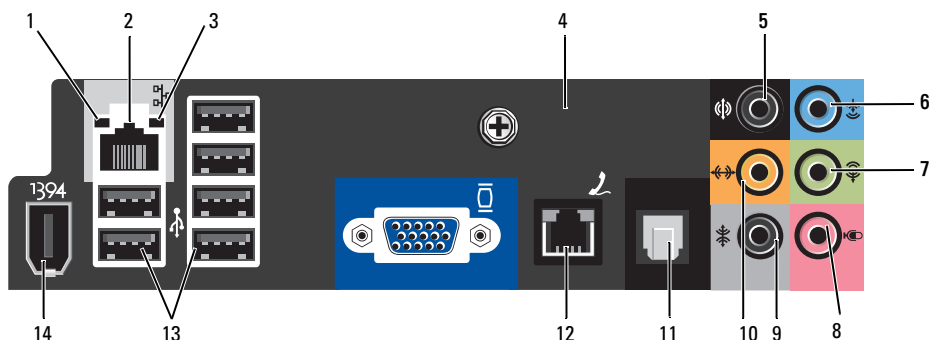
詳細については、『製品情報ガイド』に記載されている安全にお使いいただくための注意を参照してください。

電源ケーブルを差し込みます。

IEEE 1394、USB、およびその他のデバイスのプラグを対応するコネクタに差し込みます。

インストール済みの PCI Express カードのコネクタに接続します。

背面 I/O コネクタ



- 1 リンク保全ライト
 - 緑色 — 10 Mbps のネットワークとコンピュータが正しく接続されていることを示します。
 - 橙色 — 100 Mbps のネットワークとコンピュータが正しく接続されていることを示します。
 - 消灯 — ネットワークとの物理的な接続が検知されていません。
- 2 ネットワークアダプタコネクタ

コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに接続するには、ネットワークケーブルの一方の端をネットワークジャックやブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端は、コンピュータの背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッという音がすれば、ネットワークケーブルはしっかり接続されています。

メモ： ネットワークコネクタにモデムケーブルを接続しないでください。ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合は、カードのコネクタを使用します。

ネットワークには、カテゴリ 5 の配線とコネクタを使用することをお勧めします。カテゴリ 3 の配線を使用する必要がある場合、信頼性のあるオペレーションを保証するために、ネットワーク速度を 10 Mbps に設定してください。
- 3 ネットワーク動作ライト

黄色のライトは、コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している際に点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
- 4 モデムコネクタ

モデムコネクタを使用して、コンピュータをインターネットに接続します。
- 5 リアサラウンドサウンドコネクタ

黒いサラウンドサウンドコネクタを使用して、マルチチャンネル対応スピーカーを接続します。
- 6 ライン入力コネクタ

青色のライン入力コネクタにカセットプレーヤー、CD プレーヤー、または VCR (ビデオカセットレコーダー) などの録音 / 再生デバイスを接続します。サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合は、カードのコネクタを使用します。

- | | | |
|----|------------------|---|
| 7 | ライン出力コネクタ | <p>緑色のライン出力コネクタにヘッドフォンやほとんどのアンプ内蔵型スピーカーを接続します。</p> <p>サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合は、カードのコネクタを使用します。</p> |
| 8 | マイク | <p>桃色のコネクタにパーソナルコンピュータ用マイクを接続し、音声や音楽をサウンドまたはテレフォニープログラムに入力します。</p> <p>サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合は、カードのマイクコネクタを使用します。</p> |
| 9 | サイドサラウンドサウンドコネクタ | <p>グレーのサラウンドサウンドコネクタを使用して、マルチチャンネル対応スピーカーを接続します。</p> |
| 10 | センター / LFE コネクタ | <p>80 Hz 以下の低周波数情報のみを搬送するデジタルサラウンドサウンドオーディオ方式で使用される LFE（低周波数効果）オーディオチャンネル。LFE チャンネルでは、超低音を引き伸ばすサブウーハーが使用されます。サブウーハーを使用しないシステムでは、LFE 情報をサラウンドサウンド設定のメインスピーカーに分流できます。</p> |
| 11 | S/PDIF コネクタ | <p>このコネクタは、アナログオーディオ変換処理を行わずにデジタルオーディオを伝送する場合に使用します。</p> |
| 12 | VGA コネクタ | <p>お使いのモニターに VGA コネクタがある場合は、そのコネクタをコンピュータの VGA コネクタに差し込みます。</p> |
| 13 | USB 2.0 コネクタ (6) | <p>プリンタやキーボードなど、通常接続したままのデバイスには背面 USB コネクタを使用します。</p> <p>ジョイスティックやカメラなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用することをお勧めします。</p> |
| 14 | IEEE 1394 コネクタ | <p>デジタルビデオカメラなど、高速シリアルマルチメディアデバイスを接続します。</p> |

プリンタのセットアップ

➡ 注意： プリンタをコンピュータに接続する前に、OS のセットアップを完了してください。次の手順を含むセットアップについての情報は、プリンタに付属のマニュアルを参照してください。

- 最新ドライバの入手およびインストール
- プリンタのコンピュータへの接続
- 給紙の仕方と、トナーまたはインクカートリッジの取り付け方
- プリンタ製造元のテクニカルサポートへの問い合わせ

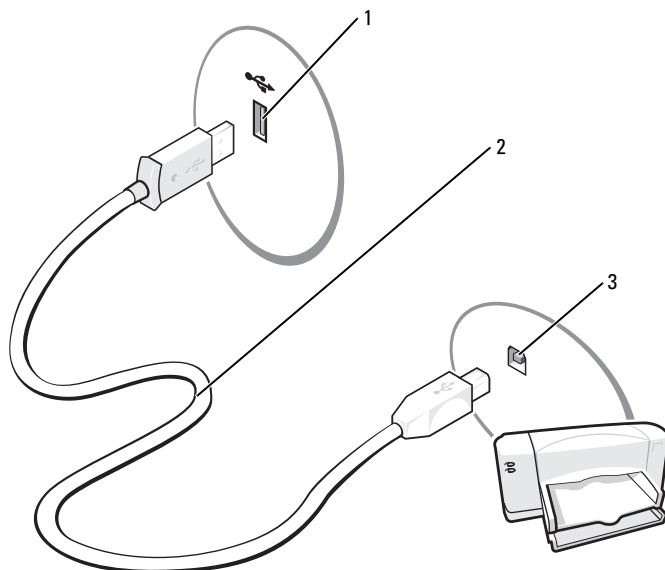
プリンタケーブル

お使いのプリンタは、USB ケーブルを使用してコンピュータに接続します。プリンタにはプリンタケーブルが付属されていない場合があります。ケーブルを別に購入する際は、プリンタと互換性があることを確認してください。コンピュータと一緒にプリンタケーブルを購入された場合、ケーブルはコンピュータの箱に同梱されていることがあります。

USB プリンタの接続

メモ：USB デバイスは、コンピュータに電源が入っている状態でも、接続することができます。

- 1 OS をまだセットアップしていない場合は、セットアップを完了します。
- 2 必要に応じて、プリンタドライバをインストールします。プリンタに付属のマニュアルを参照してください。
- 3 USB プリンタケーブルをコンピュータとプリンタの USB コネクタに取り付けます。USB コネクタは一方方向にしかはめ込むことができません。



1 コンピュータの USB コネクタ 2 USB プリンタケーブル 3 プリンタの USB コネクタ

メディアカードリーダー（オプション）の使い方

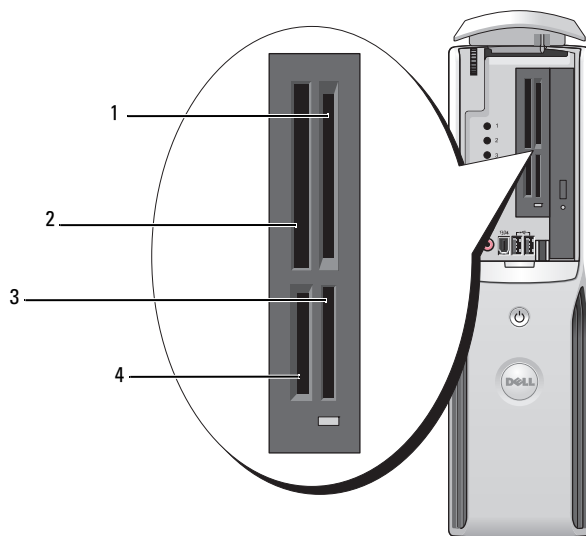
メディアカードリーダーを使用して、データを直接コンピュータに転送します。

メディアカードリーダーは、以下のメモリタイプをサポートしています。

- xD ピクチャーカード
- スマートメディア（SMC）
- コンパクトフラッシュタイプ I/II（CF I/II）
- マイクロドライブ（ミニ SD および MS Pro Duo はアダプタを使えば使用できます）
- SD カード
- ミニ SD カード

- マルチメディアカード (MMC)
- 小型マルチメディアカード
- メモリスティック (MS/MS Pro/Duo Pro)

メディアカードリーダーの取り付けについては、95 ページの「メディアカードリーダーの取り付け」を参照してください。




- | | | | | | |
|---|------------------------------|---|---|---|----------------------|
| 1 | xD ピクチャーカードおよびスマートメディア (SMC) | 2 | コンパクトフラッシュタイプ I/II (CF I/II) およびマイクロドライブカード | 3 | メモリスティック (MS/MS Pro) |
| 4 | SD カード / マルチメディアカード | | | | |

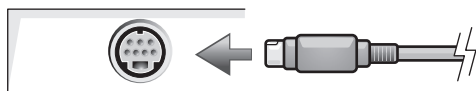
メディアカードリーダーを使用するには、次の手順を実行します。

- 1 メディアまたはカードをチェックして、適切な挿入の方向を確認します。
- ➡ **注意：**メディアまたはカードがきちんと入らない場合は、無理に差し込まないでください。カードの向きが合っているかを確認して再度試してみてください。
- 2 メディアまたはカードを該当するスロットに差し込み、コネクタに完全に装着します。

TV の接続 (オプション)

 **メモ**：TV をコンピュータへ接続するには、TV 出力機能のあるビデオカードが必要です。また、S ビデオケーブルが必要です。S ビデオケーブルは、ほとんどの電気店で入手できます。S ビデオケーブルはコンピュータには付属していません。

- 1 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 S ビデオケーブルの一方の端を、コンピュータの背面にある TV 出力コネクタに接続します。
- 3 S ビデオケーブルのもう一方の端を、TV の S ビデオ入力コネクタに接続します。



画面設定の変更

- 1 TV を接続したら、コンピュータの電源を入れます。
Microsoft® Windows® のデスクトップがモニターに表示されます。
- 2 ディスプレイ設定でクローンモードまたは拡張デスクトップモードを有効にします。
 - クローンモードでは、モニターと TV が同じ画像を表示します。
 - 拡張デスクトップモードでは、オブジェクトを 1 つの画面から別の画面にドラッグすることができ、表示可能なワークスペースの量を倍増させることができます。

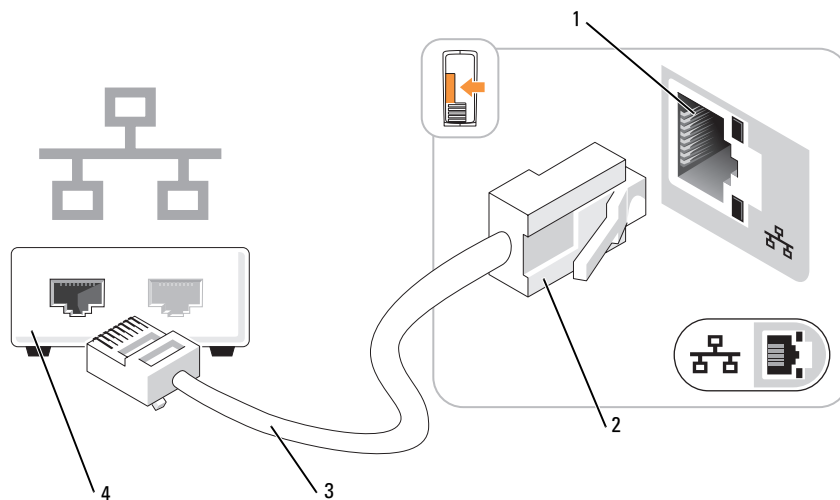
お使いのグラフィックスカードに合わせた画面設定の変更については、ヘルプとサポートセンターのユーザーズガイドを参照してください（**スタート ボタン、ヘルプとサポート、ユーザーズガイドおよびシステムガイド、Device guides**（デバイスガイド）の順にクリックし、グラフィックスカードのガイドをクリックします）。

家庭用および企業用ネットワークのセットアップ

ネットワークアダプタへの接続

メモ：ネットワークケーブルをコンピュータのネットワークアダプタコネクタに差し込みます。ネットワークケーブルをコンピュータのモデムコネクタに差し込まないでください。ネットワークケーブルを壁の電話ジャックに差し込まないでください。

- 1 ネットワークケーブルをコンピュータ背面のネットワークアダプタコネクタに接続します。ケーブルをカチッと所定の位置に収まるまで差し込みます。次に、ケーブルを軽く引いて、ケーブルの接続を確認します。
- 2 ネットワークケーブルのもう一方の端をネットワークデバイスに接続します。




- 1 コンピュータのネットワークアダプタコネクタ
- 4 ネットワークデバイス

2 ネットワークアダプタコネクタ


3 ネットワークケーブル

ネットワークセットアップウィザード

Microsoft® Windows® XP OS には、家庭または小企業のコンピュータ間で、ファイル、プリンタ、またはインターネット接続を共有するための手順を案内するネットワークセットアップウィザードがあります。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **通信** の順にポイントして、**ネットワークセットアップウィザード** をクリックします。
 - 2 **ネットワークセットアップウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
 - 3 **ネットワーク作成のチェックリスト** をクリックします。
-  **メモ**：インターネットに直接接続しているという接続方法を選択すると、Windows XP Service Pack 1 (SP1) 以降の OS に用意されている内蔵ファイアウォールを使用することができます。
- 4 チェックリストのすべての項目に入力し、必要な準備を完了します。
 - 5 ネットワークセットアップウィザードに戻り、画面の指示に従います。

インターネットへの接続

 **メモ**：ISP および ISP が提供するオプションは、国によって異なります。

インターネットに接続するには、モデムまたはネットワーク接続、および AOL や MSN などの ISP (インターネットサービスプロバイダ) との契約が必要です。ISP は、以下のうち 1 つまたは複数のインターネット接続オプションを提供します。

- 電話回線を経由してインターネットにアクセスできるダイヤルアップ接続。ダイヤルアップ接続は、DSL やケーブルモデム接続に比べて速度がかなり遅くなります。
- 既存の電話回線を経由して高速のインターネットアクセスを提供する DSL 接続。DSL 接続では、インターネットにアクセスしながら同時に同じ回線で電話を使用することができます。
- 既存のケーブル TV 回線を経由して高速のインターネットアクセスを提供するケーブルモデム接続。

ダイヤルアップ接続をお使いの場合は、インターネット接続をセットアップする前に、コンピュータのモデムコネクタおよび壁の電話コンセントに電話線を接続します。DSL またはケーブルモデム接続をお使いの場合、セットアップ手順についてはご利用の ISP にお問い合わせください。

インターネット接続のセットアップ

AOL または MSN 接続をセットアップするには、次の手順を実行します。

- 1 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
- 2 Microsoft® Windows® デスクトップ上の **MSN Explorer** または **AOL** アイコンをダブルクリックします。
- 3 画面の指示に従ってセットアップを完了します。

デスクトップ上に **MSN Explorer** または **AOL** アイコンがない場合、または別の ISP でインターネット接続をセットアップする場合は、次の手順を実行します。

- 1 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
- 2 **スタート** ボタンをクリックして、**Internet Explorer** をクリックします。
新しい接続ウィザード が表示されます。

- 3 **インターネットに接続する** をクリックします。


- 4 次のウィンドウで、該当するオプションをクリックします。

- ISP と契約されておらず、その 1 つを選びたい場合は、**インターネットサービスプロバイダ (ISP) の一覧から選択する** をクリックします。
- お客様の ISP からセットアップ情報を入手済みであるがセットアップ CD をお持ちでない場合は、**接続を手動でセットアップする** をクリックします。
- CD をお持ちの場合は、**ISP から提供された CD を使用する** をクリックします。

- 5 **次へ** をクリックします。

接続を手動でセットアップする を選んだ場合は、手順 6 に進みます。それ以外の場合は、画面の手順に従ってセットアップを完了してください。

- 6 **インターネットにどう接続しますか?** で該当するオプションをクリックし、**次へ** をクリックします。

 **メモ**：どの種類の接続を選んだらよいかわからない場合は、ご契約の ISP にお問い合わせください。

- 7 ISP から提供されたセットアップ情報を使って、セットアップを完了します。

インターネットにうまく接続できない場合は、38 ページの「E-メール、モデム、およびインターネットの問題」を参照してください。過去にインターネットに正常に接続できていたのに接続できない場合は、ISP のサービスが停止している可能性があります。サービスの状態について ISP に確認するか、後でもう一度接続してみてください。


CD または DVD の再生

- ➡ **注意：**CD または DVD のトレイを開閉する場合は、トレイの上から力を掛けしないでください。ドライブを使用しないときは、トレイを閉じておいてください。
- ➡ **注意：**CD や DVD を再生しているときに、コンピュータを動かさないでください。
 - 1 ドライブの前面にある取り出しボタンを押します。
 - 2 トレイの中心に、ラベルの付いている面を上にしてディスクを置きます。
 - 3 ディスクをトレイの中央の所定の位置にカチッと収まるまで押し込みます。











- 4 取り出しボタンを押すか、トレイを優しく押し込みます。








データを保存するために CD をフォーマットしたり、音楽 CD を作成したり、CD をコピーしたりするには、コンピュータに付属の CD ソフトウェアを参照してください。

 **メモ：**CD または DVD をコピーする際は、著作権法に基づいていることを確認してください。

CD プレーヤーは次のようなボタンを使用して操作します。


	再生。
	現在のトラック内で巻き戻し。
	一時停止。
	現在のトラック内で早送り。
	停止。
	前のトラックへ移動。
	取り出し。
	次のトラックへ移動。

DVD プレーヤーは次のようなボタンを使用して操作します。

	停止。
	再生。
	早送り。
	一時停止。
	早戻し。
	次のタイトルまたはチャプターへ移動。
	前のタイトルまたはチャプターへ移動。

CD または DVD の再生については、CD または DVD プレーヤーの **ヘルプ** (利用可能な場合) をクリックしてください。

ボリュームの調整

 **メモ**：スピーカーが無音（ミュート）に設定されている場合は、CD または DVD の音声を聞くことができません。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **エンターテインメント** の順にポイントしてから、**ボリュームコントロール** をクリックします。
- 2 **ボリュームコントロール** ウィンドウで、**ボリュームコントロール** 列のバーをクリックし、上下に移動して音量を調節します。


ボリュームコントロールオプションの詳細については、**ボリュームコントロール** ウィンドウの **ヘルプ** をクリックしてください。

画像の調整


エラーメッセージが表示され、現在の解像度や色の深度により多くのメモリが使用され DVD の再生を阻止していると通知された場合には、画面のプロパティを調節します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** で、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。
- 3 **作業する分野を選びます** で、**画面解像度を変更する** をクリックします。
- 4 **画面のプロパティ** ウィンドウで、**画面の解像度** にあるつまみをクリックしてドラッグし、**800 x 600 ピクセル** に設定します。
- 5 **画面の色** のドロップダウンメニューをクリックし、**中 (16 ビット)** をクリックします。
- 6 **OK** をクリックします。

CD および DVD のコピー


 **メモ**：CD や DVD を作成する場合は、必ずすべての著作権法に従ってください。

本項は CD-RW、DVD±RW、または CD-RW/DVD コンボドライブを持つコンピュータにのみ適用されます。


 **メモ**：デルが提供する CD ドライブまたは DVD ドライブの種類は、国によって異なる場合があります。

以下の説明では、Roxio Creator Plus - Dell Edition を使用して CD や DVD の完全なコピーを作成する方法を示しています。コンピュータに格納されたオーディオファイルから音楽 CD を作成したり、重要なデータをバックアップしたりなど、別の目的で Roxio Creator Plus を使用することもできます。ご不明な点があれば、Roxio Creator Plus を開き、ウィンドウの右上角にある疑問符 (?) アイコンをクリックします。

CD または DVD のコピー方法

 **メモ**：CD-RW/DVD コンボドライブでは DVD メディアへの書き込みができません。CD-RW/DVD コンボドライブを使用していて、書き込みの際に問題が発生した場合は、www.roxio.jp/support/ の Roxio サポートウェブサイトを利用して利用可能なソフトウェアパッチを確認してください。

Dell コンピュータの DVD 書き込み可能ドライブでは、DVD+/-R、DVD+/-RW および DVD+R DL (二層) メディアへの書き込みと読み取りが可能です。DVD-RAM または DVD-R DL メディアへの書き込みはできず、読み取りもできない場合があります。

 **メモ**：多くの市販の DVD は著作権で保護されているため、Roxio Creator Plus を使用してコピーすることはできません。

- 1 **スタート** をクリックし、**すべてのプログラム** → **Roxio** → **Creator Projects** の順にポイントしてから、**RecordNow Copy** をクリックします。
- 2 **コピー** タブで、**ディスクコピー** をクリックします。
- 3 CD または DVD をコピーするには、次の手順を実行します。

- CD/DVD ドライブが 1 台の場合は、設定が正しいことを確認して、**ディスクコピー** をクリックします。ソースの CD や DVD が読み取られ、データがコンピュータのハードドライブにある一時フォルダにコピーされます。

プロンプトが表示されたら、ドライブに空の CD または DVD ディスクを挿入して、**OK** をクリックします。

- CD または DVD ドライブが 2 台ある場合は、ソースの CD や DVD を挿入したドライブを選択して、**ディスクコピー** をクリックします。ソースの CD や DVD のデータが空の CD や DVD にコピーされます。

ソースの CD や DVD のコピーが終了したら、作成した CD や DVD が自動的に取り出されます。

空の CD および DVD の使い方

CD-RW ドライブでは CD 記録メディア (高速 CD-RW メディアを含む) にしか書き込みができませんが、DVD 書き込み可能ドライブでは CD と DVD の両方の記録メディアに書き込みができます。

音楽を録音したり、データファイルを永久保存する場合は、空の CD-R を使用します。CD-R の最大ストレージ容量に達すると、その CD-R には再度書き込むことができません (詳細については、Sonic のマニュアルを参照してください)。その CD の情報を後で消去したり、書き換えたり、アップデートしたりする場合は、空の CD-RW を使用してください。

空の DVD+/-R を使用すると、大量のデータを永久保存することができます。ディスク作成プロセスの最終段階でディスクを「ファイナライズ」または「クローズ」した場合は、作成した DVD+/-R ディスクに再度書き込むことができません。そのディスクの情報を後で消去したり、書き換えたり、アップデートしたりする場合は、空の DVD+/-RW を使用してください。

CD 書き込み可能ドライブ

メディアの種類	読み取り	書き込み	書き換え可能
CD-R	○	○	×
CD-RW	○	○	○

DVD 書き込み可能ドライブ


メディアの種類	読み取り	書き込み	書き換え可能
CD-R	○	○	×
CD-RW	○	○	○
DVD+R	○	○	×
DVD-R	○	○	×
DVD+RW	○	○	○
DVD-RW	○	○	○
DVD+R DL	○	○	×


役に立つヒント

- Microsoft® Windows® エクスプローラでファイルを CD-R や CD-RW にドラッグアンドドロップする場合は、まず Roxio Creator Plus を起動して Creator プロジェクトを開いてください。
- 通常のステレオで再生する音楽 CD を作成するには、CD-R を使用してください。CD-RW は、多くの家庭用ステレオやカーステレオで再生できない場合があります。
- Roxio Creator Plus では、オーディオ DVD を作成することはできません。
- 音楽 MP3 ファイルは、MP3 プレーヤー、または MP3 ソフトウェアがインストールされたコンピュータでのみ再生することができます。
- ホームシアターシステム用の市販の DVD プレーヤーでは、利用可能なすべての DVD フォーマットがサポートされていない可能性があります。お使いの DVD プレーヤーでサポートされているフォーマットの一覧については、DVD プレーヤーに付属のマニュアルを参照するか、または製造元にお問い合わせください。
- 空の CD-R や CD-RW を最大容量まで焼かないでください。たとえば、650 MB のファイルを容量が 650 MB の空の CD にコピーしないでください。CD-RW ドライブは、録音を完了させるために 1～2 MB のブランクスペースを必要とします。
- CD の書き込み方法に慣れるまで、空の CD-RW を使用して CD への書き込みを練習してください。間違えた場合は、CD-RW のデータを消去してやり直すことができます。また、音楽ファイルプロジェクトを空の CD-R に永久保存する場合には、空の CD-RW を使用してプロジェクトをテストできます。
- 追加情報については、www.roxio.jp/ の Roxio ウェブサイトを参照してください。

電力の管理


Microsoft® Windows® XP の電力管理機能を使うと、電源の入っているコンピュータで操作していないときにコンピュータが消費する電力を節約することができます。モニターやハードドライブへの電力だけを節約することができたり、スタンバイモードや休止状態モードを使ってコンピュータ全体の電力を節約することもできます。コンピュータが省電力モードから通常の動作状態に戻ると、Windows デスクトップは省電力モードに入る前と同じ状態に戻ります。

 **メモ**：PCI Express x16 スロットにカードが装着されているコンピュータに S3 サスペンドをサポートしない周辺機器を追加した場合、コンピュータはスタンバイモードになりません。

 **メモ**：Windows XP Professional には、Windows XP Home Edition では利用できないセキュリティ機能やネットワーク機能が用意されています。Windows XP Professional が動作しているコンピュータがネットワークに接続されている場合は、セキュリティおよびネットワークに関する特定のウィンドウでは、表示される項目が異なります。

スタンバイモード

スタンバイモードでは、あらかじめ設定した一定の時間（タイムアウト）が経過すると、節電のためにディスプレイとハードドライブの電源が切れます。スタンバイモードから復帰すると、コンピュータはそのモードに入る前の動作状態に戻ります。

 **注意**：スタンバイモードのときにコンピュータの電源が切れると、データを損失するおそれがあります。

あらかじめ設定した一定の時間コンピュータを操作しないと自動的にスタンバイモードが起動するよう設定するには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** をクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **コントロールパネルを選んで実行します** で、**電源オプション** をクリックします。

非アクティブな状態が一定時間経過するのを待たずに、ただちにスタンバイモードを有効にするには、**スタート** をクリックし、**終了オプション** をクリックして、**スタンバイ** をクリックします。

スタンバイモードを終了するには、キーボードのキーを押すか、マウスを動かします。

休止状態モード

休止状態モードでは、ハードドライブ上の確保された領域にシステムデータがコピーされ、コンピュータの電源が完全に切れることで、節電が実行されます。コンピュータが休止状態モードから復帰すると、デスクトップはそのモードに入る前の状態に戻ります。

休止状態モードを起動するには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** をクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **コントロールパネルを選んで実行します** で、**電源オプション** をクリックします。
- 4 **電源設定** タブ、**詳細設定** タブ、および **休止状態** タブで休止状態の設定を指定します。

休止状態モードから通常の動作状態に戻るには、電源ボタンを押します。コンピュータが通常の動作状態に戻るのに、若干時間がかかることがあります。休止状態モードではキーボードやマウスは機能しないため、キーボードのキーを押したりマウスを動かしたりしても、コンピュータは休止状態モードから復帰しません。

休止状態モードでは、ハードドライブにコンピュータのメモリの内容を格納するための十分な空きディスク容量を確保する必要があります。お使いのコンピュータには、出荷前に適切な大きさの休止状態モードファイルが作成されています。コンピュータのハードドライブが破損した場合、Windows XP は休止モードファイルを自動的に再作成します。

電源オプションのプロパティ

スタンバイモード設定、休止状態モード設定、および他の電源設定は、**電源オプションのプロパティ** ウィンドウで行います。**電源オプションのプロパティ** ウィンドウを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** をクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **コントロールパネルを選んで実行します** で、**電源オプション** をクリックします。
- 4 **電源設定** タブ、**詳細設定** タブ、および **休止状態** タブで電源設定を行います。

電源設定タブ

各標準の電源設定のことを、スキームと呼びます。お使いのコンピュータにプリインストールされている標準の Windows スキームを選択するには、**電源設定** ドロップダウンメニューから設定を選びます。各電源設定の下のフィールドに設定が表示されます。各スキームには、スタンバイモードや休止状態モードを開始したり、モニターやハードドライブの電源を切るための異なる設定があります。

電源設定 ドロップダウンメニューには以下のような電源設定が表示されます。


- **常にオン** (デフォルト) — 電力を節約しないでコンピュータをお使いになる場合は、この設定を選びます。
- **自宅または会社のデスク** — 自宅または会社のコンピュータをほとんど節電せずに使用する場合。
- **ポータブル/ラップトップ** — 移動中に使用するポータブルコンピュータの場合。
- **プレゼンテーション** — 中断されることなく (節電機能を使わずに) コンピュータをお使いになる場合。
- **最小の電源管理** — 節電機能を最小限しか使わずにコンピュータを使用する場合。
- **バッテリーの最大利用** — ノートブックコンピュータを長時間バッテリーでお使いになる場合。

スキームのデフォルト設定を変更する場合は、**モニタの電源を切る**、**ハードディスクの電源を切る**、**システムスタンバイ**、または**システム休止状態** フィールドのドロップダウンメニューをクリックして、表示される一覧からタイムアウトを選択します。設定フィールドのタイムアウトを変更すると、そのスキームのデフォルト設定が変更されます。**名前を付けて保存** をクリックし、変更した設定に新しい名前を入力しない限り、変更後の設定は変わりません。

- ➡ **注意**：ハードドライブ（ハードディスク）がモニターより先にタイムアウトになるよう設定すると、コンピュータがフリーズしたように見えることがあります。通常の動作状態に戻すには、キーボードの任意のキーを押すか、マウスをクリックします。この問題を回避するには、モニターを常にハードドライブより前にタイムアウトになるよう設定します。

詳細設定タブ

詳細設定 タブでは次のことができます。

- すばやくアクセスできるように、電源オプションアイコン  を Windows のタスクバーに表示する。
- コンピュータがスタンバイモードまたは休止状態モードから復帰する前に、Windows のパスワードの入力を求めるように設定する。
- スタンバイモードまたは休止状態モードの起動、あるいはコンピュータの電源を切るよう、電源ボタンを設定する。

これらの機能を有効にするには、対応するドロップダウンメニューでオプションをクリックし、**OK** をクリックします。

休止状態タブ

休止状態 タブで、休止状態モードを有効にします。**電源設定** タブで指定した休止状態設定を使用する場合は、**休止状態** タブで **休止状態を有効にする** チェックボックスをクリックします。

電力管理オプションの詳細については、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
- 2 **ヘルプとサポート** ウィンドウで **パフォーマンスと保守** をクリックします。
- 3 **パフォーマンスと保守** ウィンドウで、**コンピュータの電力を節約する** をクリックします。

Intel® Viiv™ テクノロジ（オプション）

Intel Viiv テクノロジはデジタルホーム愛好者向けのテクノロジで、次のものが含まれています。

- Intel® Quick Resume Technology をサポートする BIOS
- デバイスドライバ

このテクノロジにより、しばらく使用していなかったシステムをすぐにアクティブな状態に戻すことができます。

Intel Viiv テクノロジは、Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2005 およびデュアルコアプロセッサといっしょにご注文いただいたシステムのオプションです。

Intel® Viiva Quick Resume Technology（オプション）の使い方

システムを Intel Viiv Quick Resume Technology（QRT）モードで実行している場合、電源ボタンはクイックオン/オフ機能として使われます。電源ボタンを 1 回押すと、ディスプレイには何も表示されなくなり、サウンドもミュートになります。このモードでは、電源ボタンインジケータが示すようにコンピュータはまだ動作中であり、診断ライト 1、2、および 4 は点灯しています。また、ハードドライブが外付けデバイスからのアクセスを受けている時に、ハードドライブインジケータの点滅に気づくことがあります。

通常のコンピュータの動作を再開するには、電源ボタンを一瞬押すか、キーボードの任意のキーを押すか、マウスを動かすか、またはオプションの Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2005 のリモートコントロールのボタンを押します。

セットアップユーティリティで QRT 機能を有効にする方法

この機能をアクティブにする前に、QRT ドライバがインストールされている必要があります。このオプションを注文した場合、ドライバはインストール済みです。また、この機能を注文した場合、Quick Resume（クイックレジューム）はセットアップユーティリティで有効に設定されています。

- 1 セットアップユーティリティを起動します（112 ページを参照）。
- 2 矢印キーを押して **Power Management**（電力の管理）メニューオプションをハイライト表示し、<Enter> を押してメニューにアクセスします。
- 3 上下の矢印キーを押して **Quick Resume**（クイックレジューム）オプションをハイライト表示し、<Enter> を押してメニューにアクセスします。
- 4 左右の矢印キーを押して **On**（オン）オプションをハイライト表示し、<Enter> を押して Quick Resume（クイックレジューム）機能を有効にします。

OS で QRT 機能を有効にする方法

- 1 スタート ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **コントロールパネルを選んで実行します** で、**電源オプション** をクリックします。
- 4 **休止状態** タブをクリックします。
- 5 **休止状態を有効にする** と **Options** (オプション) のチェックボックスにチェックが入っていることを確認します。
- 6 **詳細設定** タブをクリックします。
- 7 **コンピュータの電源ボタンを押したとき** ドロップダウンメニューで、**何もしない** を選択します。
- 8 **コンピュータのスリープボタンを押したとき** ドロップダウンメニューで、**何もしない** を選択します。

ハイパースレッディングテクノロジーとデュアルコアテクノロジー

ハイパースレッディングは、Intel[®] のテクノロジーで、1 個の物理プロセッサを 2 つの論理プロセッサとして機能させることで全体的なパフォーマンスの向上を図り、複数のタスクを同時に処理することを可能にします。デュアルコアは演算を行う物理ユニットを単一の CPU パッケージ内に搭載した Intel のテクノロジーで、演算の効率とマルチタスク機能を向上させます。デュアルコアテクノロジーがサポートされている場合、2 個のプロセッサが表示されます。Windows XP OS はハイパースレッディングテクノロジーを利用できるように最適化されているので、Microsoft[®] Windows[®] XP Service Pack 1 (SP1) 以降の OS を使用することをお勧めします。多くのプログラムがハイパースレッディングテクノロジーとデュアルコアテクノロジーの恩恵を受けていますが、それらのテクノロジー用に最適化されていないプログラムもあります。それらのプログラムは、ソフトウェア製造元によるアップデートが必要な場合があります。ソフトウェアの製造元に、アップデートや、ハイパースレッディングテクノロジーまたはデュアルコアテクノロジーでソフトウェアを使用する方法についてお問い合わせください。

お使いのコンピュータがハイパースレッディングテクノロジーを使用しているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
- 2 **ハードウェア** をクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。
- 3 **デバイスマネージャ** ウィンドウで、**プロセッサ** の横の (+) サインをクリックします。ハイパースレッディングが有効な場合、プロセッサは 2 個表示されます。

セットアップユーティリティを使って、ハイパースレッディングを有効または無効にすることができます。セットアップユーティリティの使用の詳細については、112 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照してください。


問題の解決


トラブルシューティングのヒント

コンピュータのトラブルシューティングを実行する際は、以下のヒントに従ってください。

- 部品を追加したり取り外した後に問題が発生した場合は、取り付け手順を見直して、部品が正しく取り付けられているか確認します。
- 周辺機器が機能しない場合は、その機器が正しく接続されているか確認します。
- 画面にエラーメッセージが表示される場合は、メッセージを正確にメモします。このメッセージは、テクニカルサポート担当者が問題を分析および解決するのに役立つ場合があります。
- プログラムの実行中にエラーメッセージが表示される場合は、プログラムのマニュアルを参照してください。


バッテリーの問題

 **警告：**バッテリーの取り付け方が間違っていると、破裂する危険があります。交換するバッテリーは、デルが推奨する型、または同等の製品をご利用ください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

バッテリーを交換します。 コンピュータの電源を入れた後、繰り返し時刻と日付の情報をリセットする必要がある場合、または起動時に間違った時刻や日付が表示される場合は、バッテリーを交換します（103 ページの「バッテリーの交換」を参照）。交換してもバッテリーが正常に作動しない場合は、デルにお問い合わせください（125 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

ドライブの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

MICROSOFT® WINDOWS® がドライブを認識していることを確認します。 スタート ボタンをクリックして、**マイコンピュータ** をクリックします。お使いのフロッピードライブ、CD ドライブ、または DVD ドライブが一覧に表示されない場合は、アンチウイルスソフトウェアでウイルスチェックを行い、ウイルスの検出と除去を行います。ウイルスが原因で Windows がドライブを認識できないことがあります。

ドライブのテストを行います。

- 別のフロッピーディスク、CD、または DVD を挿入して、元のドライブに問題がないことを確認します。
- 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。

メモ：このシステムはオプションで USB フロッピードライブをサポートしています。



ドライブまたはディスクをクリーニングします。 121 ページの「コンピュータのクリーニング」を参照してください。

ケーブル接続を確認します。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します。 62 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには」を参照してください。

DELL DIAGNOSTICS（診断）プログラムを実行します。 58 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照してください。

CD および DVD ドライブの問題

-  **メモ**：高速 CD または DVD ドライブの振動は正常です。この振動によってノイズが生じることがありますが、ドライブの欠陥や CD または DVD の欠陥を示すものではありません。
-  **メモ**：国や地域によってディスクフォーマットが異なるため、お使いの DVD ドライブでは再生できない DVD もあります。

Windows の音量を調整します。

- ・ 画面右下角にあるスピーカーのアイコンをクリックします。
- ・ スライダーをクリックし、上にドラッグして、音量が上がることを確認します。
- ・ サウンドがミュートに設定されていないか確認し、設定されている場合はチェックマークの付いたボックスをクリックします。

スピーカーおよびサブウーハーを確認します。 49 ページの「サウンドおよびスピーカーの問題」を参照してください。

CD/DVD-RW ドライブに書き込みができない場合

その他のプログラムを閉じます。 CD/DVD-RW ドライブは、データの書き込み中に一定したデータの流れを必要とします。データの流れが中断されるとエラーが発生します。CD/DVD-RW への書き込みを開始する前に、すべてのプログラムを終了してみます。


CD/DVD-RW ディスクへの書き込みを開始する前に、Windows のスタンバイモードを無効にします。 省電力モードについては、29 ページの「電力の管理」を参照するか、Windows のヘルプとサポートセンターで「スタンバイ」というキーワードで検索して該当するトピックを参照してください。


ハードドライブの問題

チェックディスクを実行します。

- 1 **スタート** をクリックして、**マイコンピュータ** をクリックします。
- 2 **ローカル ディスク (C:)** を右クリックします。
- 3 **プロパティ** をクリックします。
- 4 **ツール** タブをクリックします。
- 5 **エラーチェック** の項目で、**チェックする** をクリックします。
- 6 **不良なセクタをスキャンし、回復する** をクリックします。
- 7 **開始** をクリックします。

E-メール、モデム、およびインターネットの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

 **メモ：**モデムはアナログ電話ジャックにのみ接続してください。デジタル電話網に接続していると、モデムは動作しません。

MICROSOFT OUTLOOK[®] EXPRESS のセキュリティ設定を確認します。 E-メールの添付ファイルを開くことができない場合は、次の操作を行ってください。

- 1 Outlook Express で、**ツール、オプション**とクリックして、**セキュリティ** をクリックします。
- 2 必要に応じて、**添付ファイルを許可しない** をクリックしてチェックマークを外します。

電話線の接続を確認します。

電話ジャックを確認します。

モデムを直接電話ジャックへ接続します。

他の電話線を使用してみます。

- 電話回線ケーブルがモデムのジャックに接続されていることを確認します（ジャックには緑色のラベルが付いているか、または隣にコネクタ形のアイコンが付いています）。
- モデムに電話回線ケーブルのコネクタを挿入したときにカチッという音がするか、またはその感触があるか確認します。
- モデムから電話線を外して、電話に接続します。電話の発信音を聞きます。
- 留守番電話、ファックス、サージプロテクタ、スプリッタなどの、電話回線を共有する他の電話機器がある場合は、それらの機器を経由せずに、モデムを壁の電話ジャックに直接接続します。3 m 以内の電話線を使用します。


MODEM HELPER 診断プログラムを実行します。 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** をポイントして、**Modem Helper** をクリックします。画面の指示に従って、モデムの問題を識別して、その問題を解決します。Modem Helper は一部のコンピュータでは使用できません。

モデムが WINDOWS と通信しているか確認します。

- 1 **スタート** をクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
- 3 **電話とモデムのオプション** をクリックします。
- 4 **モデム** タブをクリックします。
- 5 モデムの COM ポートをクリックします。
- 6 Windows がモデムを検出したか確認するため、**プロパティ** をクリックし、**診断** タブをクリックして、**モデムの照会** をクリックします。
すべてコマンドに対して応答があった場合、モデムは正常に動作しています。

インターネットに接続しているか確認します。インターネットサービスプロバイダとの契約が済んでいることを確認します。E-メールプログラム Outlook Express を起動し、**ファイル** をクリックします。**オフライン作業** の隣にチェックマークが付いている場合は、そのチェックマークをクリックし、マークを外して、インターネットに接続します。ご質問がある場合は、ご利用のインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

エラーメッセージ

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

エラーメッセージが一覧にない場合は、メッセージが表示されたときに実行していた OS またはプログラムのマニュアルを参照してください。

A FILENAME CANNOT CONTAIN ANY OF THE FOLLOWING CHARACTERS: \/: * ? " < > |。これらの文字はファイル名には使用しないでください。

A REQUIRED .DLL FILE WAS NOT FOUND。アプリケーションプログラムに必要なファイルがありません。次の操作を行い、アプリケーションプログラムを削除して再インストールします。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プログラムの追加と削除** をクリックします。
- 2 削除するプログラムを選択します。
- 3 **プログラムの変更と削除** アイコンをクリックします。
- 4 インストール手順については、プログラムに付属のマニュアルを参照してください。

drive letter \ is not accessible. The device is not ready。ドライブがディスクを読み取ることができません。ディスクをドライブに挿入して、再度試してみます。

INSERT BOOTABLE MEDIA。起動フロッピーディスクまたは CD を挿入します。

メモ：このシステムはオプションで USB フロッピードライブをサポートしています。


NON-SYSTEM DISK ERROR。ドライブからフロッピーディスクを取り出し、コンピュータを再起動します。

メモ：このシステムはオプションで USB フロッピードライブをサポートしています。

NOT ENOUGH MEMORY OR RESOURCES. CLOSE SOME PROGRAMS AND TRY AGAIN。すべてのウィンドウを閉じ、使用するプログラムのみを開きます。場合によっては、コンピュータを再起動してコンピュータリソースを復元する必要があります。その場合、最初に使用したいプログラムを実行します。

OPERATING SYSTEM NOT FOUND。デルにお問い合わせください（125 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

メディアカードリーダーの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

ドライブ文字が割り当てられていません。


Microsoft Windows XP でメディアカードリーダーが検出されると、このデバイスには、システム内の他のすべての物理ドライブの後に、その次の論理ドライブとしてドライブ文字が自動的に割り当てられます。物理ドライブの後の次の論理ドライブがネットワークドライブに割り当てられた場合、Windows XP はメディアカードリーダーに自動的にドライブ文字を割り当ててることはありません。

メディアカードリーダーに手でドライブ文字を割り当てるには、以下の手順を実行します。

- 1 **マイコンピュータ** アイコンを右クリックし、**管理** を選択します。
- 2 **ディスクの管理** オプションを選択します。
- 3 右のペインで、変更する必要があるドライブ文字を右クリックします。
- 4 **ドライブ文字とパスの変更** を選択します。
- 5 ドロップダウンリストから、メディアカードリーダーに割り当てる新しいドライブ文字を選択します。
- 6 **OK** をクリックして選択内容を確定します。

メモ：接続されているときのみ、メディアカードリーダーは割り当て済みのドライブとして表示されます。メディアがインストールされていない場合でも、4個のメディアカードリーダースロットはそれぞれドライブに割り当てられます。メディアが挿入されていないときにメディアカードリーダーにアクセスしようとすると、メディアを挿入するように求められます。

IEEE 1394 デバイスの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

デバイスおよびコンピュータのコネクタに IEEE 1394 デバイスのケーブルが適切に挿入されていることを確認します。


IEEE 1394 デバイスが Windows によって認識されているか確認します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
お使いの IEEE 1394 デバイスが一覧に表示されている場合は、Windows がそのデバイスを認識します。

DELL IEEE 1394 デバイスに問題が発生している場合。 デルにお問い合わせください（125 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

デル以外の IEEE 1394 デバイスに問題が発生している場合。 IEEE 1394 デバイスの製造元にお問い合わせください。

キーボードの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。


キーボードケーブルを確認します。

- キーボードケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
- コンピュータに付属のセットアップ図に示されているように、キーボードケーブルを接続します。
- ケーブルに損傷がないか、擦り切れていないか、ケーブルコネクタのピンが曲がったり壊れていたりしないかを確認します。曲がったピンがあればまっすぐにします。
- キーボード延長ケーブルがあればそれを外し、キーボードを直接コンピュータに接続します。

キーボードをテストします。 正常に機能している別のキーボードをコンピュータに接続して、使用してみます。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します。 62 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには」を参照してください。

フリーズおよびソフトウェアの問題


 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

コンピュータが起動しない

診断ライトを確認します。 53 ページの「診断ライト」を参照してください。

電源ケーブルがコンピュータとコンセントにしっかりと接続されているか確認します。

コンピュータが応答しない

 **注意**：OS のシャットダウンが実行できない場合、データが失われるおそれがあります。


コンピュータの電源を切ります。 キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合は、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押し続けます。電源が切れたら、コンピュータを再起動します。

プログラムが応答しない

プログラムを終了します。

- 1 <Ctrl><Shift><Esc> を同時に押して Windows タスクマネージャを開きます。
- 2 **アプリケーション** タブをクリックします。
- 3 応答しなくなったプログラムをクリックして選択します。
- 4 **タスクの終了** をクリックします。

プログラムが繰り返しクラッシュする

 **メモ**：ほとんどの場合、ソフトウェアのインストール手順は、そのマニュアルまたはフロッピーディスクか CD に収録されています。

ソフトウェアのマニュアルを参照します。 必要に応じて、プログラムをアンインストールして、再インストールしてください。

プログラムが以前の Windows OS 向けに設計されている

プログラム互換性ウィザードを実行します。

プログラム互換性ウィザードは、Windows XP 以外の OS の環境に似た環境で動作するようにプログラムを設定します。

- 1 **スタート** をクリックし、**すべてのプログラム→アクセサリ** の順にポイントしてから、**プログラム互換性ウィザード** をクリックします。
- 2 **プログラム互換性ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
- 3 画面に表示される指示に従ってください。

画面が青色（ブルースクリーン）になった

コンピュータの電源を切ります。 キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合は、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押し続けます。電源が切れたら、コンピュータを再起動します。

その他のソフトウェアの問題

トラブルシューティングについて、ソフトウェアのマニュアルを確認するか、ソフトウェアの製造元に問い合わせます。


- コンピュータにインストールされている OS と互換性があるか確認します。
- コンピュータがソフトウェアの実行に必要な最小ハードウェア要件を満たしているか確認します。詳細については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- プログラムが正しくインストールおよび設定されているか確認します。
- デバイスドライバがプログラムと競合していないか確認します。
- 必要に応じて、プログラムをアンインストールして、再インストールしてください。

ファイルを直ちにバックアップします。

ウイルススキャンプログラムを使って、ハードドライブ、フロッピーディスク、または CD を調べます。

開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了して、スタートメニューからコンピュータをシャットダウンします。

メモリの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。


メモリが不足しているというメッセージが表示された場合。

- 作業中のすべてのファイルを保存してから閉じ、使用していない実行中のプログラムをすべて終了して、問題が解決するか調べます。
- メモリの最小要件については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。必要に応じて、メモリを増設します（74 ページの「メモリの取り付け」を参照）。
- メモリモジュールを装着しなおし（72 ページの「メモリ」を参照）、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（58 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

メモリにその他の問題がある場合。

- メモリモジュールを装着しなおし（72 ページの「メモリ」を参照）、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- メモリの取り付けガイドラインに従っているか確認します（74 ページの「メモリの取り付け」を参照）。
- 使用するメモリがお使いのコンピュータでサポートされていることを確認します。コンピュータでサポートされているメモリタイプの詳細については、107 ページの「メモリ」を参照してください。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（58 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

マウスの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

マウスをクリーニングします。 122 ページの「マウス」を参照してください。

マウスケーブルを確認します。

- ケーブルに損傷がないか、擦り切れていないか、ケーブルコネクタのピンが曲がったり壊れていたりしないかを確認します。曲がったピンがあればまっすぐにします。
- マウス延長ケーブルがあればそれを外し、マウスを直接コンピュータに接続します。
- マウスケーブルが、コンピュータに付属のセットアップ図のとおり接続されていることを確認します。

コンピュータを再起動します。

- 1 <Ctrl><Esc> を同時に押して、**スタート** メニューを表示します。
- 2 <u> を押し、上下矢印キーを押して**シャットダウン** または **電源を切る** をハイライト表示し、<Enter> を押します。
- 3 コンピュータの電源を切った後、セットアップ図 のとおりにマウスケーブルを接続しなおします。
- 4 コンピュータの電源を入れます。

マウスを確認します。 正常に機能している別のマウスをコンピュータに接続して、使用してみます。


マウスの設定を確認します。

- 1 **スタート** をクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
- 2 **マウス** をクリックします。
- 3 必要に応じて設定を調整します。

マウスドライバを再インストールします。 61 ページの「ドライバの再インストール」を参照してください。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します。 62 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには」を参照してください。

ネットワークの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

ネットワークケーブルコネクタを確認します。 ネットワークケーブルが、コンピュータ背面のネットワークコネクタとネットワークジャックの両方にしっかりと挿入されていることを確認します。


コンピュータ背面のネットワークインジケータを確認します。 リンク保全ライトが消灯している場合（110 ページの「ポタンとライト」を参照）は、ネットワーク通信が存在しません。ネットワークケーブルを交換します。

コンピュータを再起動して、ネットワークに再度ログオンします。

ネットワークの設定を確認します。 ネットワーク管理者、またはお使いのネットワークを設定した方にお問い合わせになり、ネットワークへの接続設定が正しく、ネットワークが正常に機能しているか確認します。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します。 62 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには」を参照してください。

電源の問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

電源ライトが緑色に点灯していて、コンピュータの反応が停止した場合。
53 ページの「診断ライト」を参照してください。

電源ライトが緑色に点滅している場合。 コンピュータはスタンバイモードになっています。キーボードのキーを押したり、マウスを動かしたり、電源ボタンを押したりすると、通常の動作が再開されます。

電源ライトが消灯している場合。 コンピュータの電源が切れているか、またはコンピュータに電力が供給されていません。

- 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとコンセントにしっかりと装着しなします。
- 電源タップ、電源延長ケーブル、およびその他のパワープロテクションデバイスを使用している場合は、それらを外してコンピュータの電源が正常に入ることを確認します。
- 使用している電源タップがあれば、電源コンセントに接続され、オンになっていることを確認します。
- 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
- 主電源ケーブルおよび前面パネルケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します（71 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。

電源ライトが黄色に点灯している場合。 デバイスが誤動作しているか、正しく取り付けられていない可能性があります。

- プロセッサ電源ケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します（71 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。
- すべてのメモリモジュールを取り外してから装着しなします（72 ページの「メモリ」を参照）。
- グラフィックカードを含め、すべての拡張カードを取り外してから装着しなします（77 ページの「カード」を参照）。


電源ライトが黄色に点滅している場合。 コンピュータに電源は供給されていますが、コンピュータ内部で電源の問題が発生している可能性があります。


- 電圧切り替えスイッチの設定が、ご使用の地域の AC 電源に一致しているか確認します（該当する場合のみ）。
- すべてのコンポーネントとケーブルが正しく取り付けられ、システム基板にしっかりと接続されていることを確認します（71 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。

電気的な妨害を解消します。 電気的な妨害の原因には、以下のものがあります。

- 電源、キーボード、およびマウスの延長ケーブルが使用されている
- 1つの電源タップに接続されているデバイスが多すぎる
- 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

プリンタの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

 **メモ：**プリンタのテクニカルサポートが必要な場合は、プリンタの製造元にお問い合わせください。

プリンタのマニュアルを確認します。 プリンタのセットアップとトラブルシューティングの詳細については、プリンタのマニュアルを参照してください。

プリンタの電源がオンになっているか確認します。

プリンタのケーブル接続を確認します。

- ケーブル接続については、プリンタのマニュアルを参照してください。
- プリンタケーブルがプリンタとコンピュータにしっかりと接続されているか確認します（17 ページの「プリンタケーブル」を参照）。


コンセントを確認します。 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。


プリンタが Windows によって認識されていることを確認します。

- 1 **スタート** をクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
- 2 **インストールされているプリンタまたは FAX プリンタを表示する** をクリックします。
プリンタが一覧に表示されている場合は、プリンタアイコンを右クリックします。
- 3 **プロパティ** をクリックし、**ポート** タブをクリックします。USB プリンタの場合、**印刷先のポート** が **USB** に設定されていることを確認します。

プリンタドライバを再インストールします。プリンタドライバを再インストールする手順については、プリンタのマニュアルを参照してください。

スキャナーの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

 **メモ：**スキャナーのテクニカルサポートが必要な場合は、スキャナーの製造元にお問い合わせください。

スキャナーのマニュアルを確認します。スキャナーのセットアップとトラブルシューティングの詳細については、スキャナーのマニュアルを参照してください。

スキャナのロックを解除します。スキャナーにロックタブまたはボタンがある場合は、スキャナーがアンロックされていることを確認します。

コンピュータを再起動して、もう一度スキャンしてみます。

ケーブル接続を確認します。


- ケーブルの接続については、スキャナーのマニュアルを参照してください。
- スキャナーのケーブルがスキャナーとコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。

スキャナーが Microsoft Windows によって認識されていることを確認します。


- 1 **スタート** をクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
- 2 **スキャナとカメラ** をクリックします。
お使いのスキャナーが一覧に表示されている場合、Windows がそのスキャナーを認識しています。

スキャナードライバを再インストールします。スキャナードライバを再インストールする手順については、スキャナーのマニュアルを参照してください。

サウンドおよびスピーカーの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

スピーカーから音が出ない場合

 **メモ：**MP3などのメディアプレーヤーの音量調節は、Windowsの音量調節より優先されることがあります。メディアプレーヤーの音量が下げられたりオフにされたりしていないように常にチェックしてください。

スピーカーケーブルの接続を確認します。 スピーカーに付属しているセットアップ図のとおりスピーカーが接続されているか確認します。サウンドカードをご購入された場合は、スピーカーがカードに接続されているか確認します。

サブウーハーおよびスピーカーの電源が入っているか確認します。 スピーカーに付属しているセットアップ図を参照してください。スピーカーにボリュームコントロールが付いている場合は、音量、低音、または高音を調整して音のひずみを解消します。

Windowsのボリュームを調整します。 画面右下にあるスピーカーのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。ボリュームが上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ヘッドフォンをヘッドフォンコネクタから取り外します。 コンピュータの前面パネルにあるヘッドホンコネクタにヘッドホンを接続すると、自動的にスピーカーからの音声は聞こえなくなります。

コンセントを確認します。 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。

電気的な妨害を解消します。 コンピュータの近くで使用している扇風機、蛍光灯、またはハロゲンランプの電源を切ってみます。

スピーカーの診断プログラムを実行します。 詳細については、スピーカーのマニュアルを参照してください。

サウンドドライバを再インストールします。 61 ページの「ドライバの再インストール」を参照してください。


ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します。 62 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには」を参照してください。


ヘッドフォンから音が出ない場合

ヘッドフォンケーブルの接続を確認します。 ヘッドフォンケーブルがヘッドフォンコネクタにしっかりと接続されているか確認します（13 ページの「コンピュータの前面および背面」を参照）。

Windows のボリュームを調整します。 画面右下にあるスピーカーのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。ボリュームが上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ビデオおよびモニターの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

 **メモ：**トラブルシューティングについては、モニターのマニュアルを参照してください。

画面に何も表示されない場合

モニターのケーブル接続を確認します。

- ・モニターケーブルが、コンピュータに付属のセットアップ図に示されているように接続されていることを確認します。
- ・ビデオ延長ケーブルがあればそれを外し、モニターを直接コンピュータに接続します。
- ・コンピュータおよびモニターの電源ケーブルを交換して、モニターの電源ケーブルに問題がないか確認します。
- ・コネクタのピンが曲がったり壊れていないかチェックします（モニターケーブルのコネクタは通常、数本のピンが欠けています）。

モニターの電源ライトを確認します。

- 電源ライトが点灯または点滅している場合は、モニターに電力が供給されています。
- 電源ライトが消灯している場合、ボタンをしっかりと押して、モニターに電源が入っているか確認します。
- 電源ライトが点滅する場合は、キーボードのキーを押すかマウスを動かして、通常の動作状態に戻します。

コンセントを確認します。 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。

診断ライトを確認します。 53 ページの「診断ライト」を参照してください。

画面が見つからない場合

モニターの設定を確認します。 モニターのコントラストと輝度の調整、モニターの消磁、およびモニターのセルフテストを実行する手順については、モニターのマニュアルを参照してください。

サブウーハーをモニターから離します。 スピーカーシステムにサブウーハーが含まれている場合は、サブウーハーをモニターから 60 cm 以上離します。

外部電源をモニターから離します。 扇風機、蛍光灯、ハロゲンライト、およびその他の電化製品によって画面が「ぶれる」ことがあります。コンピュータの近くで使用している機器の電源を切ってみて、それらが干渉しているか確認します。


モニターの向きを変えて、画面への太陽光の映りこみや干渉を除きます。

Windows のディスプレイ設定を調整します。


- 1 **スタート** をクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。
- 2 **画面** をクリックし、**設定** タブをクリックします。
- 3 必要に応じて、**画面の解像度** および **画面の色** の設定を調整します。

トラブルシューティングツール

診断ライト

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

問題のトラブルシューティングを容易にするため、コンピュータの前面パネルに「1」、「2」、「3」、および「4」とラベルのついた4つのライトがあります（13ページの「前面」を参照）。コンピュータが正常に起動している場合、ライトは点滅してから消灯します。コンピュータが誤作動している場合、ライトの組み合わせ順で問題を識別することができます。


 **メモ：**POSTが完了したら、OSが起動する前に4つのライトはすべて消灯します。

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
①②③④	コンピュータが通常のオフの状態、またはBIOSに障害が発生している可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> 電源コンセントにコンピュータを接続します（46ページの「電源の問題」を参照）。 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（125ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
①②③④	プロセッサに障害が発生した可能性があります。	デルにお問い合わせください（125ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。


ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
① ② ③ ④	メモリモジュールが検出されましたが、メモリに障害が発生しました。	<ul style="list-style-type: none"> • 取り付けているメモリモジュールが2枚以上の場合、モジュールを取り外し（76ページの「メモリの取り外し」を参照）、モジュールの1枚を取り付けなおして（74ページの「メモリの取り付け」を参照）、コンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合は、障害のあるモジュールが確認されるか、またはエラーが発生しないまますべてのモジュールを取り付けなおすまで、残りのメモリモジュールを1枚ずつ取り付けます。 • 同じ種類で動作確認済みのメモリがある場合は、そのメモリをコンピュータに取り付けます（74ページの「メモリの取り付け」を参照）。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（125ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
① ② ③ ④	グラフィックカードに障害が発生している可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> • 取り付けられているすべてのグラフィックカードを装着しなおします（77ページの「カード」を参照）。 • 動作確認済みのグラフィックカードがあれば、そのカードをコンピュータに取り付けます。 • それでも問題が解決しないか、コンピュータにオンボードグラフィックがある場合は、デルにお問い合わせください（125ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
① ② ③ ④	フロッピードライブまたはハードドライブの障害が発生した可能性があります。	すべての電源ケーブルとデータケーブルを装着しなおします。
① ② ③ ④	USB の障害が発生した可能性があります。	すべての USB デバイスを取り付けなおし、すべてのケーブル接続を確認します。

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
①②③④	メモリモジュールが検出されません。	<ul style="list-style-type: none"> • 取り付けられているメモリモジュールが2枚以上の場合は、モジュールを取り外し（76ページの「メモリの取り外し」を参照）、モジュールの1枚を取り付けなおして（74ページの「メモリの取り付け」を参照）、コンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合は、障害のあるモジュールが確認されるか、またはエラーが発生しないまますべてのモジュールを取り付けなおすまで、残りのメモリモジュールを1枚ずつ取り付けます。 • 同じ種類で動作確認済みのメモリがある場合は、そのメモリをコンピュータに取り付けます（74ページの「メモリの取り付け」を参照）。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（125ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
①②③④	メモリモジュールは検出されましたが、メモリ構成または互換性のエラーが発生しました。	<ul style="list-style-type: none"> • メモリモジュール/メモリコネクタの配置に特別な要件がないことを確認します（72ページの「メモリ」を参照）。 • 使用するメモリがお使いのコンピュータでサポートされていることを確認します（107ページの「メモリ」を参照）。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（125ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
① ② ③ ④	拡張カードの障害が発生した可能性があります。	<ol style="list-style-type: none"> 1 グラフィックカード以外の拡張カードを 1 枚取り外し（77 ページの「カード」を参照）、コンピュータを再起動して、競合が発生しているかどうかを調べます。 2 問題が解決しない場合は、取り外したカードを取り付けなおし、別のカードを取り外して、コンピュータを再起動します。 3 取り付けられていたそれぞれの拡張カードについて、この手順を繰り返します。コンピュータが正常に起動する場合は、コンピュータから取り外した最後のカードのリソース競合のトラブルシューティングを行います（62 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには」を参照）。 4 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（125 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
① ② ③ ④	システムは Quick Resume（クイックレジューム）モードで動作しています。詳細については、32 ページの「Intel® Viiva Quick Resume Technology（オプション）の使い方」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> • 電源ボタンを押します。 • マウスを動かします。 • キーボードのいずれかのキーを押します。 • MCE リモートコントロール（オプション）の任意のキーを押します。

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
	別の障害が発生しました。	<ul style="list-style-type: none">• すべてのハードドライブおよび CD/DVD ドライブのケーブルがシステム基板上に正しく接続されていることを確認します（71 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。• デバイス（フロッピードライブやハードドライブなど）のエラーメッセージが画面に表示されている場合は、そのデバイスが正常に機能しているかどうかを確認します。• OS がデバイス（フロッピードライブやハードドライブなど）からの起動を試みている場合は、セットアップユーティリティを使って、コンピュータに取り付けられているデバイスの起動順序が適切かどうかを確認してください（111 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。• 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（125 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

Dell Diagnostics（診断）プログラム

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。


Dell Diagnostics（診断）プログラムを使用する場合

コンピュータに問題が発生した場合は、デルテクニカルサポートにお問い合わせになる前に、35 ページの「問題の解決」のチェック事項を実行してから、Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行してください。

 **メモ：** Dell 診断プログラムは Dell コンピュータでのみ動作します。


Dell Diagnostics（診断）プログラムの起動

- 1 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
- 2 DELL ロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。


 **メモ：** キーを長時間押したままにすると、キーボードエラーが発生する場合があります。キーボードエラーを回避するには、<F12> を押して放す操作を等間隔で行って **Boot Device Menu**（起動デバイスメニュー）を開いてください。

キーを押すタイミングが遅れて OS のロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまでそのまま待機し、コンピュータをシャットダウンして操作をやりなおしてください。

- 3 **Boot Device Menu**（起動デバイスメニュー）で、上下の矢印キーを使用するか、キーボードの適切な数値キーを押して、**Boot to Utility Partition**（ユーティリティパーティションから起動）をハイライト表示して、<Enter> を押します。

 **メモ：** クイックブート機能により、今回の起動に限り起動順序が変更されます。再起動すると、コンピュータはセットアップユーティリティで指定された起動順序に従って起動します。

- 4 Dell 診断プログラムの **Main Menu**（メインメニュー）で、マウスを左クリックするか、<Tab> を押し、次に <Enter> を押して、実行するテストを選択します（59 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラムのメインメニュー」を参照）。

 **メモ：** エラーコードと問題の説明を正確にそのまま書き留め、画面の指示に従います。


- 5 すべてのテストが完了したら、テストウィンドウを閉じ、Dell 診断プログラムの **Main Menu**（メインメニュー）に戻ります。
- 6 **Main Menu**（メインメニュー）ウィンドウを閉じて Dell 診断プログラムを終了し、コンピュータを再起動します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムのメインメニュー

以下のテストは、Dell 診断プログラムの **Main Menu**（メインメニュー）から実行できます。

オプション	機能
Express Test （エクスプレステスト）	システムデバイスのクイックテストを実行します。このテストは通常 10 ～ 20 分かかり、お客様の操作は必要ありません。最初に Express Test を実行すると、問題を素早く特定できる可能性が増します。
Extended Test （拡張テスト）	システムデバイスの全体チェックを実行します。このテストは通常 1 時間以上かかり、時々表示される個々の質問に回答を入力する必要があります。
Custom Test （カスタムテスト）	システム内の特定のデバイスをテストします。このオプションを使用して、実行するテストをカスタマイズすることができます。
Symptom Tree （症状ツリー）	一般的な症状が一覧表示され、発生している問題の症状に基づいてテストを選択できます。

テスト中に問題が検出されると、エラーコードと問題を説明するメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を正確にそのまま書き留め、画面の指示に従います。問題を解決できない場合は、デルにお問い合わせください（125 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

 **メモ**：各テスト画面の上部には、コンピュータのサービスタグが表示されます。デルサポートに連絡される際には、サービスタグを用意してください。

以下のタブには、**Custom Test**（カスタムテスト）または **Symptom Tree**（症状ツリー）オプションから実行されるテストの追加情報が表示されます。

タブ	機能
Results（結果）	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors（エラー）	発生したエラーの状態、エラーコード、および問題の説明を表示します。
Help（ヘルプ）	テストの説明が表示されます。テスト実行の要件があれば、その説明も表示されます。
Configuration （構成） （Custom Test のみ）	選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。 Dell Diagnostics（診断）プログラムでは、セットアップユーティリティ、メモリ、および各種内部テストからすべてのデバイスの構成情報を取得して、画面左のウィンドウのデバイス一覧に表示します。 メモ ：デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに接続されたすべてのデバイス名が表示されるとは限りません。
Parameters （パラメータ） （Custom Test のみ）	必要に応じてテストの設定を変更し、テストをカスタマイズすることができます。

ドライバ

ドライバとは？

ドライバは、プリンタ、マウス、またはキーボードなどのデバイスを制御するプログラムです。すべてのデバイスにドライバプログラムが必要です。

ドライバは、デバイスとそのデバイスを使用するプログラム間の通訳のような役目をします。各デバイスには、そのデバイスのドライバだけが認識する専用のコマンドセットが組み込まれています。必要なドライバはお使いのコンピュータにすでにインストールされており、ユーザーがインストールや設定を行う必要はありません。

キーボードドライバなど、ドライバの多くは Microsoft® Windows® OS に付属しています。以下の場合に、ドライバをインストールする必要があります。

- OS のアップグレード
- OS の再インストール
- 新規デバイスの接続またはインストール

ドライバの識別


デバイスに問題が発生した場合は、問題の原因がドライバかどうかを判断し、必要に応じてドライバをアップデートしてください。

Windows XP

- 1 **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** にある **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **システム** をクリックします。
- 4 **システムのプロパティ** ウィンドウの **ハードウェア** タブをクリックします。
- 5 **デバイスマネージャ** をクリックします。
- 6 デバイスの一覧をスクロールダウンし、デバイス名の横に感嘆符 (![!]) の付いた円) がないかどうかをチェックします。

デバイス名の横に感嘆符が表示されている場合は、ドライバの再インストールまたは新しいドライバのインストールが必要な場合があります (61 ページの「ドライバの再インストール」を参照)。

ドライバの再インストール

-  **注意：**デルサポートサイト support.jp.dell.com では、Dell™ コンピュータ用に承認されているドライバを提供しています。ドライバの入手先が上記以外の場合は、コンピュータが正常に動作しない場合があります。


Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方

新たにドライバをインストールまたはアップデートした後に、コンピュータに問題が発生した場合は、Windows XP のデバイスドライバのロールバックを使用して、以前にインストールしたバージョンのドライバに置き換えることができます。

- 1 **スタート** をクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** にある **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **システム** をクリックします。
- 4 **システムのプロパティ** ウィンドウの **ハードウェア** タブをクリックします。
- 5 **デバイスマネージャ** をクリックします。
- 6 新しいドライバがインストールされたデバイスを右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
- 7 **ドライバ** タブをクリックします。
- 8 **ドライバのロールバック** をクリックします。

ドライバの手動インストール

ハードドライブにドライバファイルをコピーした後で、手動によるドライバのアップデートが必要な場合があります。

-  **メモ：**コンピュータに取り付けられているどのハードウェアデバイスについても、ドライバを手動でアップデートできます。

- 1 **スタート** をクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** にある **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **システム** をクリックします。
- 4 **システムのプロパティ** ウィンドウの **ハードウェア** タブをクリックします。
- 5 **デバイスマネージャ** をクリックします。
- 6 ドライバをインストールするデバイスのタイプをダブルクリックします。
- 7 ドライバを再インストールするデバイスを右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
- 8 **ドライバ** タブをクリックします。
- 9 **ドライバの更新** をクリックします。
- 10 **一覧または特定の場所からインストールする (詳細)** をクリックして、**次へ** をクリックします。

- 11 **次の場所を含める** をクリックしてチェックマークを入れ、**参照** をクリックし、ハードドライブ上のドライバファイルがある場所に移動します。
- 12 該当するドライバの名前が表示されたら、**次へ** をクリックします。
- 13 **完了** をクリックして、コンピュータを再起動します。

ドライバのロールバックと手動によるドライバの再インストールで問題が解決しない場合は、システムの復元を使用して、新しいデバイスドライバをインストールする前の稼動状態にコンピュータを戻します（63 ページの「Microsoft Windows XP システムの復元の使い方」を参照）。

ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには

OS のセットアップ中にデバイスが検出されないか、検出されても間違っていて設定されている場合は、ハードウェアに関するトラブルシューティングを使用して非互換性を解決することができます。

- 1 **スタート** をクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
- 2 **検索** フィールドでハードウェアに関するトラブルシューティング と入力し、次に、矢印をクリックして検索を開始します。
- 3 **検索結果** 一覧で、**ハードウェアに関するトラブルシューティング** をクリックします。
- 4 **ハードウェアに関するトラブルシューティング** の一覧で、**コンピュータにあるハードウェアの競合を解決します** をクリックして、**次へ** をクリックします。

お使いの OS の復元

次の方法で、お使いの OS を復元することができます。



- Microsoft Windows XP システムの復元は、データファイルに影響を及ぼすことなく、コンピュータを以前の状態に戻します。
- Symantec による Dell PC リストアは、お使いのハードドライブを、コンピュータを購入されたときの状態に戻します。Dell PC リストアは、ハードドライブのすべてのデータを永久に削除し、コンピュータを受け取られてから後にインストールされたアプリケーションもすべて削除します。



メモ：Dell PC リストアは、特定の地域で購入したコンピュータでのみ使用できます。

Microsoft Windows XP システムの復元の使い方


ハードウェア、ソフトウェア、またはその他のシステム設定を変更したために、コンピュータが正常に動作しなくなってしまった場合は、Microsoft Windows XP OS のシステムの復元を使用して、コンピュータを以前の動作状態に復元することができます（データファイルへの影響はありません）。システムの復元の使い方については、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。


-  **注意：**データファイルのバックアップを定期的に作成してください。システムの復元によって、データファイルの変更の監視や復元はできません。
-  **メモ：**本書に記載されている手順は、Windows のデフォルト表示用にかかれているため、クラシック表示に設定している場合には適用されません。

復元ポイントの作成


- 1 **スタート** をクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
- 2 **システムの復元** をクリックします。
- 3 画面に表示される指示に従ってください。

コンピュータの以前の動作状態への復元


-  **注意：**コンピュータを以前の動作状態に復元する前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまで、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

-  **メモ：**デバイスドライバをインストールした後に問題が発生した場合は、最初に Windows XP デバイスドライバのロールバックを使用して問題の解決を試みてください（61 ページの「Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方」を参照）。


- 1 **スタート** をクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** の順にポイントしてから、**システムの復元** をクリックします。
- 2 **コンピュータを以前の状態に復元する** が選択されていることを確認して、**次へ** をクリックします。
- 3 **復元ポイントの選択** で、お使いのコンピュータを以前の状態に復元する時点の日付と復元ポイントをクリックし、**次へ** をクリックします。

-  **メモ：**カレンダーでは利用可能な復元ポイントの日付が太字で表示されます。日付に利用可能な復元ポイントが1つしか表示されない場合は、その復元ポイントが自動的に選択されます。

- 4 **復元ポイントの選択の確認** で、**次へ** をクリックします。
システムの復元プロセスによって必要なデータが収集され、コンピュータが再起動します。
- 5 コンピュータが再起動した後で、**復元は完了しました** のメッセージが表示されたら、**OK** をクリックします。

-  **メモ：**コンピュータが以前の作業状態に復元された後で、別の復元ポイントを使用して復元プロセスを繰り返すことができます。または、復元を取り消してコンピュータを元の作業状態に戻すことも可能です。

以前のシステムの復元の取り消し


 **注意：**最後に実行したシステムの復元を取り消す前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまで、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

- 1 **スタート** をクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** の順にポイントしてから、**システムの復元** をクリックします。
- 2 **以前の復元を取り消す** が選択されていることを確認し、**次へ** をクリックします。
- 3 **復元の取り消しの確認** で、**次へ** をクリックします。
システムの復元プロセスによって必要なデータが収集され、コンピュータが再起動します。
- 4 コンピュータが再起動した後で、**取り消し完了** が表示されたら、**OK** をクリックします。

システムの復元の有効化

空き容量が 200 MB 未満のハードディスクに Windows XP を再インストールした場合、システムの復元は自動的に無効に設定されます。システムの復元が有効になっているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。


- 1 **スタート** をクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** にある **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **システム** をクリックします。
- 4 **システムのプロパティ** ウィンドウの **システムの復元** タブをクリックします。
- 5 **システムの復元を無効にする** のチェックマークが付いていないことを確認します。

 **メモ：**システムの復元の無効にするには、システムの復元を無効にする にチェックマークを入れます。

Symantec による Dell PC リストアの使い方

 **メモ：**Dell PC Restore は、特定の地域で購入したコンピュータでのみ使用できます。

Symantec による Dell PC リストアは、お使いの OS を復元するための最終手段としてのみ使用してください。PC リストアは、お使いのハードドライブを、コンピュータを購入されたときの状態に戻します。コンピュータを受け取られてから追加されたようなプログラムやファイル（データファイルを含む）も永久にハードドライブから削除されます。データファイルには、コンピュータ上の文書、表計算、メールメッセージ、デジタル写真、ミュージックファイルなどが含まれます。PC リストアを使用する前にすべてのデータをバックアップしてください。

 **注意：**PC リストアを使用すると、ハードドライブのすべてのデータは永久に削除され、コンピュータを受け取られてから後にインストールされたアプリケーションやドライバもすべて削除されます。PC リストアを使用する前にデータをバックアップしてください。

PC リストアは、以下の手順で実行します。


- 1 コンピュータの電源を入れます。

起動プロセスの間、**www.dell.com/jp** と書かれた青いバーが画面の上部に表示されます。

- 2 青色のバーが表示されたら、すぐに <Ctrl><F11> を押します。

キーを押すタイミングが遅れて OS のロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまでそのまま待機し、コンピュータをシャットダウンして操作をやりなおしてください。

- 3 次の画面で、**復元** をクリックします。

 **メモ**：OS を復元せずに PC リストアを終了する場合は、再起動 をクリックします。

- 4 次の画面で、**承認** をクリックします。

復元プロセスが完了するまでに 約 6 ~ 10 分かかります。

- ➡ **注意**：コンピュータを手動でシャットダウンしないでください。終了 をクリックし、コンピュータを完全に再起動させます。

- 5 プロンプトが表示されたら、**終了** をクリックしてコンピュータを再起動します。

- 6 プロンプトが表示されたら、**はい** をクリックします。


コンピュータが再起動されます。コンピュータは初期の稼動状態に復元されるため、エンドユーザーライセンス契約のようにいちばん初めにコンピュータのスイッチを入れたときと同じ画面が表示されます。

- 7 **次へ** をクリックします。

システムの復元 画面が表示され、コンピュータが再起動します。


- 8 コンピュータが再起動したら、**OK** をクリックします。


Dell PC リストアの削除

-  **注意**：Dell PC リストアをハードドライブから削除すると、PC リストアユーティリティはお使いのコンピュータから永久に削除されます。Dell PC リストアを削除してしまうと、このユーティリティを使用してお使いのコンピュータの OS を復元することはできなくなります。

PC リストアを使用すると、ハードドライブをコンピュータをご購入になった時の状態に戻すことができます。ハードドライブの空き容量を増やしたい場合でも、PC リストアをコンピュータから削除することはお勧めできません。ハードドライブから PC リストアを削除してしまうと、今後、PC リストアを呼び出すことができず、PC リストアを使用してコンピュータの OS を出荷時の状態に戻すことができなくなります。

- 1 コンピュータにローカルのシステム管理者としてログオンします。
- 2 Windows エクスプローラで **c:\dell\utilities\DSR** に移動します。
- 3 **DSRIRRemv2.exe** ファイルをダブルクリックします。

 **メモ**：ローカルのシステム管理者としてログオンしていない場合は、ローカルのシステム管理者としてログオンするようメッセージが表示されます。終了 をクリックして、ローカルのシステム管理者としてログオンします。

 **メモ**：お使いのコンピュータのハードドライブに PC リストア用パーティションがない場合は、パーティションが見つからないことを知らせるメッセージが表示されます。終了 をクリックしてください。削除するパーティションがありません。

- 4 **OK** をクリックして、ハードドライブの PC リストア用パーティションを削除します。
- 5 確認のメッセージが表示されたら、**はい** をクリックします。

PC リストア用パーティションが削除され、新しくできた使用可能ディスクスペースが、ハードドライブの空き領域の割り当てに加えられます。

- 6 Windows エクスプローラで **ローカルディスク (C)** を右クリックし、**プロパティ** をクリックして、**空き領域** に追加されたスペースが加えられていることを確認します。
- 7 **終了** をクリックして **PC リストアの削除** ウィンドウを閉じます。
- 8 コンピュータを再起動します。

部品の取り外しと取り付け

作業を開始する前に

本章では、お使いのコンピュータからコンポーネントを取り外したり、取り付けたりする手順について説明します。特に指示がない限り、それぞれの手順では以下の条件を満たしていることを前提とします。


- 67 ページの「コンピュータの電源を切るには」および 68 ページの「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順をすでに終えていること。
- お使いの Dell™ の『製品情報ガイド』の安全に関する情報を読んでいること。
- 取り外しの手順を逆の順序で実行することで部品の取り付けができること。

推奨する工具とツール

本書で説明する操作には、以下のツールが必要です。

- 細めのマイナスドライバ
- プラスドライバ


コンピュータの電源を切るには


 **注意：**データの損失を避けるため、コンピュータの電源を切る前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。


- 1 次の手順で OS をシャットダウンします。
 - a 開いているすべてのファイルを保存してから閉じ、実行中のすべてのプログラムを終了します。次に、**スタート** をクリックして、**終了オプション** をクリックします。
 - b **コンピュータの電源を切る** ウィンドウで、**電源を切る** をクリックします。
OS のシャットダウンプロセスが終了した後に、コンピュータの電源が切れます。
- 2 コンピュータおよび接続されているデバイスの電源が切れていることを確認します。OS をシャットダウンしたときに、コンピュータおよび接続デバイスの電源が自動的に切れなかった場合は、電源ボタンを 4 秒以上押し続けます。


コンピュータ内部の作業を始める前に


コンピュータの損傷を防ぎ、ご自身の身体の安全を守るために、以下の点にご注意ください。

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。


 **警告：**部品やカードの取り扱いには十分注意してください。カード上の部品や接続部分には触れないでください。カードを持つ際は縁を持つか、金属製の取り付けブラケットの部分を持ってください。プロセッサチップのようなコンポーネントは、ピンの部分ではなく縁を持つようにしてください。

 **注意：**コンピュータの修理は、資格を持っているサービス技術者のみが行ってください。デルが認可していないサービスによる故障は、保証の対象になりません。

 **注意：**ケーブルを外すときは、コネクタまたはストレインリリーフループの部分を持ち、ケーブルそのものを引っ張らないでください。ケーブルによっては、ロックタブ付きのコネクタがあるケーブルもあります。このタイプのケーブルを取り外すときは、ロックタブを押し入れてからケーブルを抜きます。コネクタを抜く際は、コネクタのピンを曲げないようにまっすぐに引き抜きます。ケーブルを接続する際は、両方のコネクタが正しい向きに揃っているか確認します。


 **注意：**コンピュータの損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を始める前に、次の手順を実行します。

1 コンピュータの電源を切ります（67 ページの「コンピュータの電源を切るには」を参照）。


 **注意：**ネットワークケーブルを取り外すには、まずコンピュータからケーブルを外し、次に、壁のネットワークジャックから外します。

2 電話ケーブルやネットワークケーブルをコンピュータから取り外します。

3 コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。

 **警告：**感電防止のため、カバーを開く前に必ず、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。


4 コンピュータカバーを開きます（68 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。

 **注意：**コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を除去してください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷するおそれのある静電気を逃がしてください。

コンピュータカバーの取り外し

 **警告：**本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

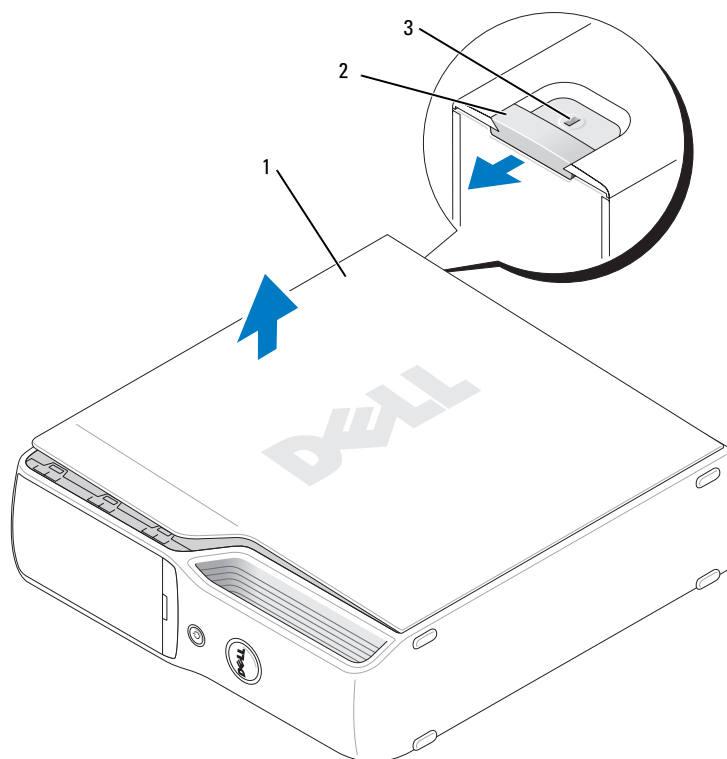
1 スタートメニューからコンピュータをシャットダウンします（67 ページの「コンピュータの電源を切るには」を参照）。

 **注意：**ネットワークケーブルを取り外すには、まずコンピュータからケーブルを外し、次に、壁のネットワークジャックから外します。

- 2 電話回線や通信回線のケーブルをコンピュータから外します。
- 3 コンピュータと取り付けられているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、電源ボタンを押して、システム基板の静電気を除去します。

警告：感電防止のため、カバーを開く前に必ず、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 注意：**取り外したカバーを置ける十分なスペース（作業台の上に 30 cm 以上）があることを確認します。
- 注意：**コンピュータまたはコンピュータが載っている表面を傷つけないように、保護された水平な表面で作業するようにしてください。
- 4 コンピュータカバーの面が上になるようにコンピュータを置きます。
- 5 上部のパネルにあるカバーリリースラッチを引っ張ります。



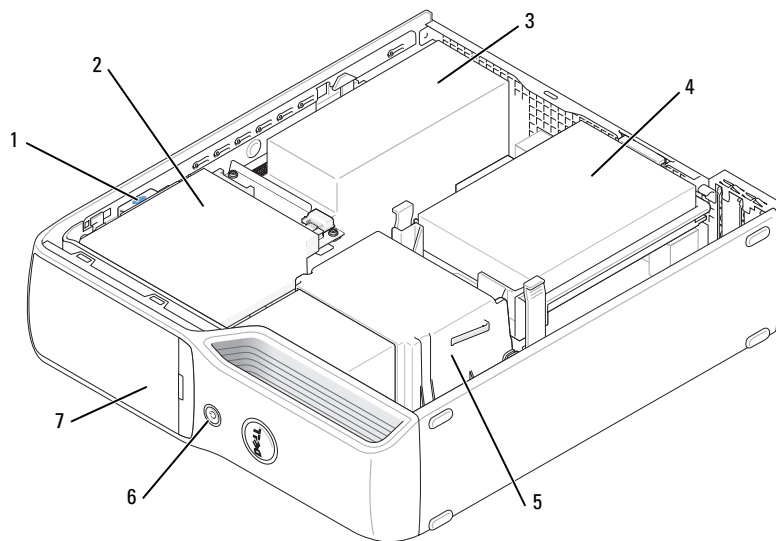
1 コンピュータカバー 2 カバーリリースラッチ 3 セキュリティケーブルスロット

- 6 コンピュータ下端の2つのヒンジタブの位置を確認します。
- 7 コンピュータカバーの側面をつかみ、下部ヒンジをてこの支点にしてカバーを上を回転させます。
- 8 ヒンジタブからカバーを外し、安全な場所に保管します。

コンピュータの内面図

⚠ 警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

⚠ 警告：感電防止のため、カバーを開く前に必ず、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。



1 ドライブリリースラッチ

2 CD/DVD ドライブ

3 電源ユニットおよびファン

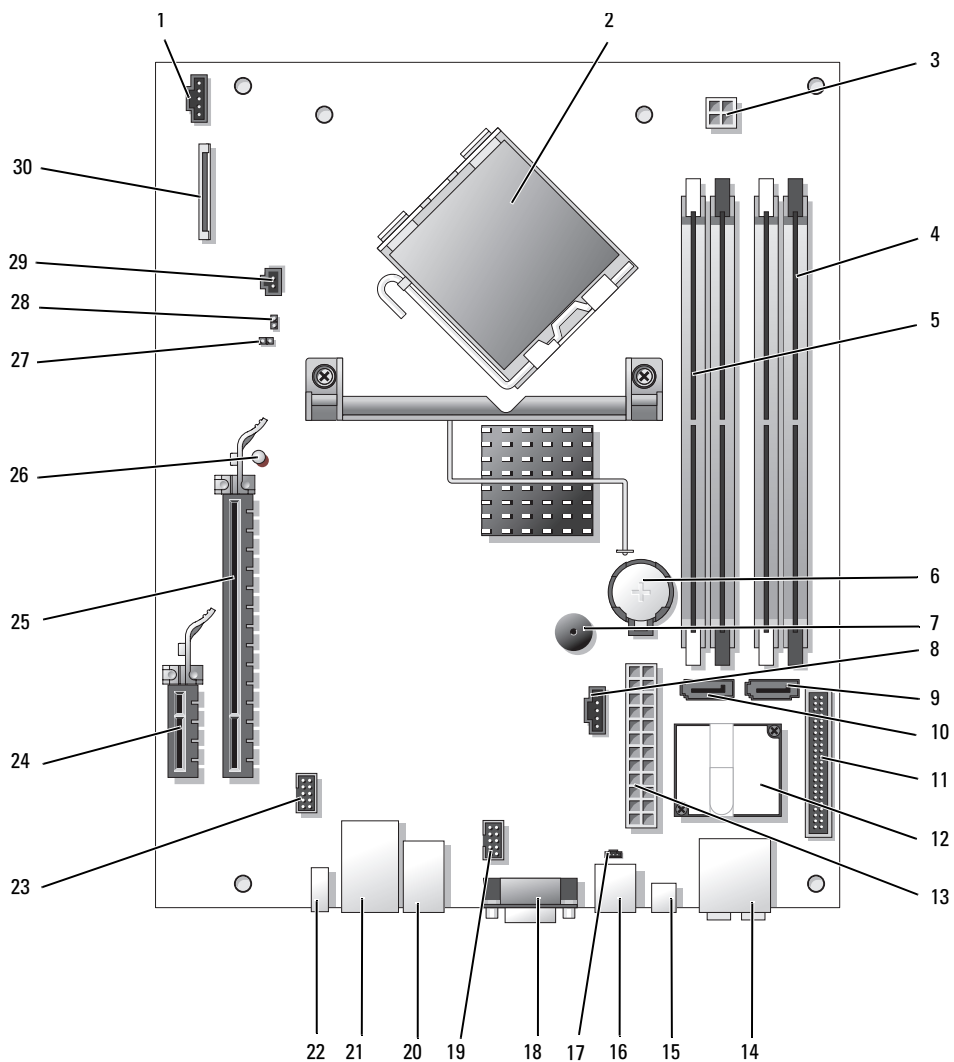
4 ハードドライブ

5 ヒートシンクアセンブリ

6 電源ボタン

7 前面パネルドア

システム基板のコンポーネント




- | | | | |
|----|--|----|--|
| 1 | プロセッサファンコネクタ (CPUFAN) | 16 | モデムコネクタ (RJ11) |
| 2 | プロセッサコネクタ (CPU) | 17 | RJ11 内部コネクタ (RJ11INT) |
| 3 | プロセッサ電源コネクタ (POWER12V) | 18 | ビデオコネクタ (VGA) |
| 4 | メモリモジュールコネクタ (2, 4) | 19 | メディアカードリーダーコネクタ (USBINT) |
| 5 | メモリモジュールコネクタ (1, 3) | 20 | USB コネクタ (4) (USB_BACK) |
| 6 | バッテリーソケット (BATTERY) | 21 | ネットワークコネクタ (NIC) および USB コネクタ (2) (NIC_USB1) |
| 7 | 内蔵スピーカー (SPKR) | 22 | 背面パネル IEEE 1394 コネクタ (BACK1394) |
| 8 | ハードディスクファンコネクタ (HDDFAN) | 23 | IEEE 1394 コネクタ (INT1394) |
| 9 | ハードディスクコネクタ (SATA0) | 24 | PCI Express x1 コネクタ (SLOT2) |
| 10 | CD/DVD コネクタ (SATA1) | 25 | PCI Express x16 コネクタ (SLOT1) |
| 11 | 前面パネルコネクタ (FRONT PANEL) | 26 | スタンバイ LED (STBYLED) |
| 12 | モデム | 27 | パスワードジャンパ (CLRPSWD) |
| 13 | 電源コネクタ (POWER) | 28 | RTC リセットジャンパ (CLRCMOS) |
| 14 | ライン入力、ライン出力、マイク、センサー、および LFE コネクタ (AUDIOBACK1) | 29 | 温度センサーコネクタ (THRM) |
| 15 | S/PDIF オーディオコネクタ (SPDIF) | 30 | フロッピードライブコネクタ (FLOPPY) |

メモリ

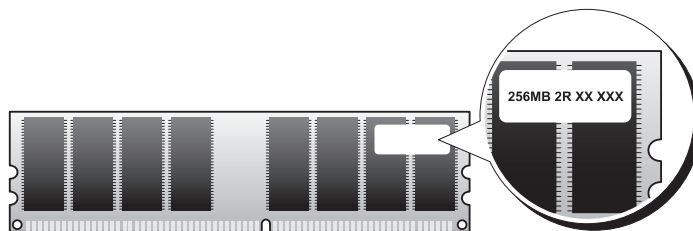
システム基板にメモリモジュールを取り付けることで、コンピュータメモリを増やすことができます。


お使いのコンピュータは、アンバッファ、非 ECC、DDR2 メモリに対応しています。

 **メモ**：このコンピュータではバッファメモリはサポートされていません。

DDR2 メモリの概要

DDR2 メモリモジュールは、必ず同じメモリサイズ、同じ速度、および同じテクノロジーのものを 2 枚 1 組のペアで取り付ける必要があります。DDR2 メモリモジュールをペアで取り付けていない場合、コンピュータは動作し続けますが、性能が少し落ちます。モジュールのラベルを見て、モジュールの容量を確認してください。



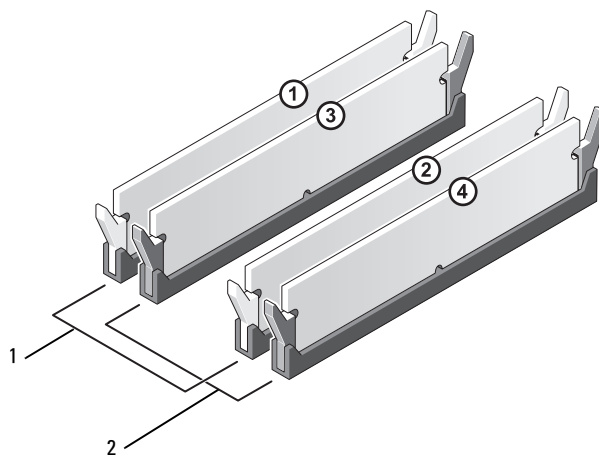
 **メモ**：必ず、システム基板に示されている順番で DDR2 メモリモジュールを装着してください。

推奨されるメモリ構成は次のとおりです。

- DIMM コネクタ 1 および 2 に装着した同じメモリモジュールのペア（白色の固定クリップ）
または
- DIMM コネクタ 1 と 2 に装着した同じメモリモジュールの 1 組のペア、および DIMM コネクタ 3 と 4 に装着したもう 1 組のペア（黒色の固定クリップ）

➡ 注意：ECC メモリモジュールを装着しないでください。

- DDR2 800-MHz（PC2-6400）と DDR2 533-MHz（PC2-4300）のメモリモジュールのペアを組み合わせて装着した場合、装着したモジュールのうち一番遅いスピードで動作します。
- 別のコネクタにメモリモジュールを装着する前に、プロセッサに最も近いコネクタの DIMM コネクタ 1 に単一のメモリモジュールを装着していることを確認してください。



1 DIMM コネクタ 1 および 2 の同じメモリモジュールのペア（白色の固定クリップ）

2 DIMM コネクタ 3 および 4 の同じメモリモジュールのペア（黒色の固定クリップ）


➡ 注意：メモリのアップグレード中にコンピュータから元のメモリモジュールを取り外した場合、新しいモジュールがデルから購入されたものであっても、お持ちの新しいモジュールとは別に保管してください。できれば、新しいメモリモジュールと元のメモリモジュールはペアにしないでください。ペアにすると、コンピュータが正常に起動しないことがあります。元のメモリモジュールは、DIMM コネクタ 1 と 2、または DIMM コネクタ 3 と 4 のいずれかにペアで装着する必要があります。


✎ メモ：デルからご購入されたメモリは、お使いのコンピュータの保証に含まれます。

4 GB 構成でのメモリアドレッシング

2 GB DIMM を 2 枚使用する場合には、お使いのコンピュータで最大 4 GB のメモリまで対応します。Microsoft® Windows® XP など、最新の OS では、アドレス空間を最大で 4 GB しか使用することができません。ただし、OS で利用可能なメモリ容量は、4 GB 未満です。コンピュータ内の一部の部品は、4 GB の範囲のアドレス空間を必要とします。このような部品に確保されるアドレススペースは、コンピュータメモリが使用することはできません。

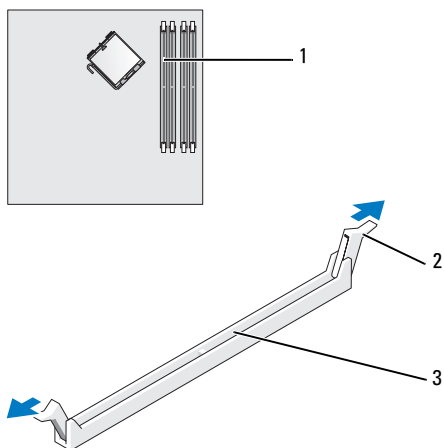
メモリの取り付け

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

 **注意：**コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

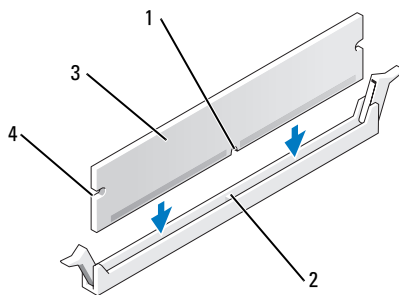
- 1 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 CD/DVD ドライブを取り外します (89 ページの「CD/DVD ドライブの取り外し」を参照)。
- 3 オプションのメディアカードリーダー、またはオプションのフロッピードライブが取り付けられている場合は、それらを取り外します (93 ページの「メディアカードリーダーの取り外し」または 97 ページの「フロッピードライブの取り外し」を参照)。

4 メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。



1 プロセッサに最も近いメモリコネクタ 2 固定クリップ(2) 3 コネクタ

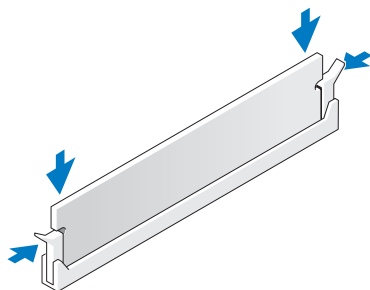
5 メモリモジュールの底面の切り込みを、コネクタ内のクロスバーに合わせます。



1 切り込み 2 クロスバー 3 メモリモジュール
4 切り欠き(2)

➡ 注意：メモリモジュールへの損傷を防ぐため、モジュールの両端に均等に力を加えて、モジュールをコネクタに向けてまっすぐ下へ挿入します。

- メモリモジュールをカチッと所定の位置に収まるまで、しっかりと押し込みます。
モジュールを正しく挿入すると、固定クリップはモジュール両端の切り欠きにカチッと収まります。



- コンピュータカバーを取り付けます（104 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
- 注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
- コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
- マイコンピュータ** アイコンを右クリックし、**プロパティ** をクリックします。
- 全般** タブをクリックします。
- 表示されているメモリ（RAM）の容量を確認して、メモリが正しく装着されているか確認します。

メモリの取り外し

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

注意：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

- 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを、押し開きます。
- モジュールをしっかりとつかんで、引き上げます。

モジュールが取り外しにくい場合は、モジュールを前後に軽く動かして緩め、コネクタから取り外します。

カード

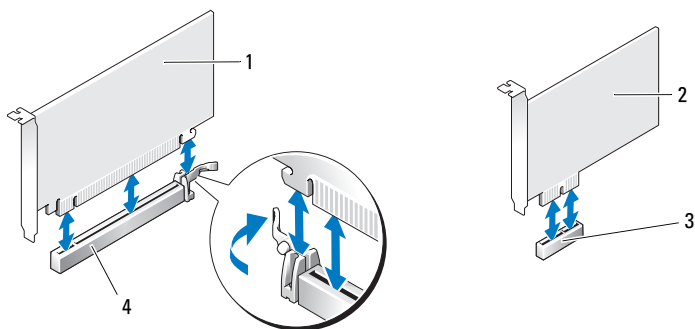
警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

注意：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

お使いの Dell™ コンピュータには、PCI Express カード用の以下のスロットが用意されています。

- PCI Express x16 カードスロット 1 個
- PCI Express x1 カードスロット 1 個

メモ：PCI Express x16 および PCI Express x1 カードのスロットは、ハーフハイトのスロットです。

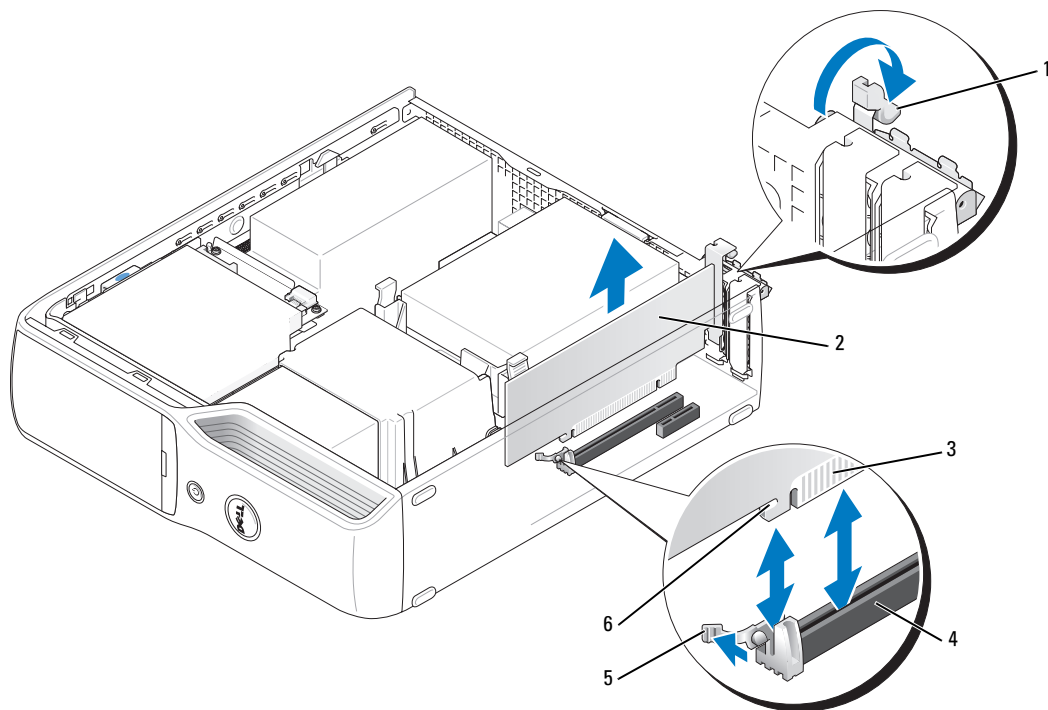


- 1 PCI Express x16 カード 2 PCI Express x1 カード 3 PCI Express x1 カードスロット
4 PCI Express x16 カードスロット

PCI Express カードの取り付けや交換を行う場合には、次の項の手順に従います。カードの交換ではなく取り外しを行う場合は、81 ページの「PCI Express カードの取り外し」を参照してください。カードを交換する場合は、現在のカード用のドライバを OS から削除します。

PCI Express カードの取り付け

- 1 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 カード固定ドアのリリースタブを内側から慎重に押し、ドアを回転させて開きます。ドアは取り付けられているため、開いた位置のままになります。



- | | | | | | |
|---|---------|---|-----------------|---|---------|
| 1 | 保持アームタブ | 2 | PCI Express カード | 3 | エッジコネクタ |
| 4 | カードコネクタ | 5 | 固定タブ | 6 | 固定スロット |

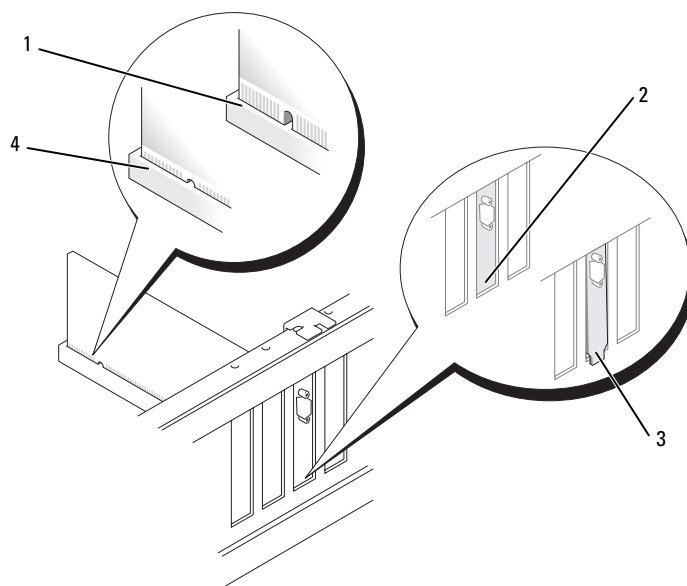
- 3 新しいカードを取り付ける場合は、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を作り、次に手順 5 に進みます。
- 4 既にコンピュータに取り付けられているカードを交換する場合は、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。カードの上端の角を持って、コネクタから取り外します。

- 5 カードを取り付ける準備をします。

カードの構成、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

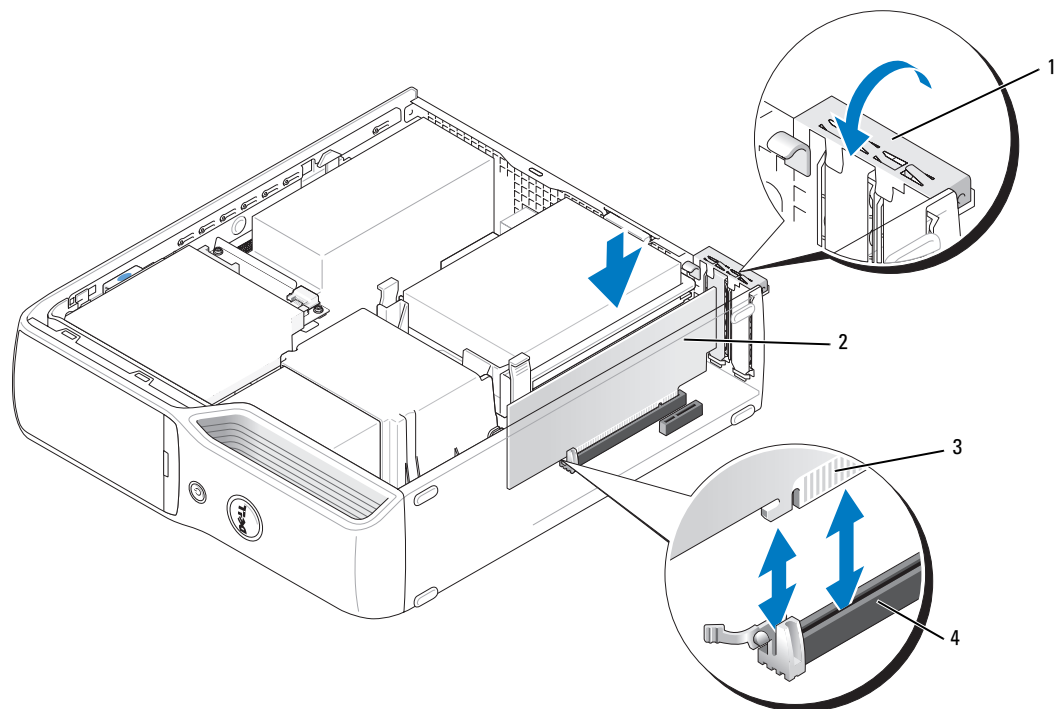
警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電を防ぐため、カードを取り付ける前に必ず、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

- 6 カードをコネクタに置き、しっかりと押し下げます。カードがスロットにしっかりと装着されていることを確認します。
- 7 x16 カードコネクタにカードを取り付ける場合は、固定スロットが固定タブに合うようにしてカードを置き、固定タブを軽く引っ張ります。
- 8 カードをコネクタに置き、しっかりと押し下げます。カードがスロットにしっかりと装着されていることを確認します。



- | | | |
|------------------|---------------|----------------------|
| 1 完全に装着されていないカード | 2 スロット内のブラケット | 3 スロットの外側にはみ出したブラケット |
| 4 完全に装着されたカード | | |

- 9 カード保持ドアを閉じる前に、次のことを確認します。
- すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
 - カードの上部の切り込みまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている
- 10 カード固定ドアを所定の位置にカチッと収めて閉じます。



- 1 保持アーム 2 PCI Express カード 3 エッジコネクタ
4 カードコネクタ

➡ **注意：**カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上に配線すると、コンピュータカバーがきちんと閉まらなかったり、装置が損傷する原因になります。

- 11 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。


カードのケーブル接続については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

➡ **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

- 12 コンピュータカバーを取り付け（104 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

- 13 カードのマニュアルの説明に従って、カードに必要なすべてのドライバをインストールします。

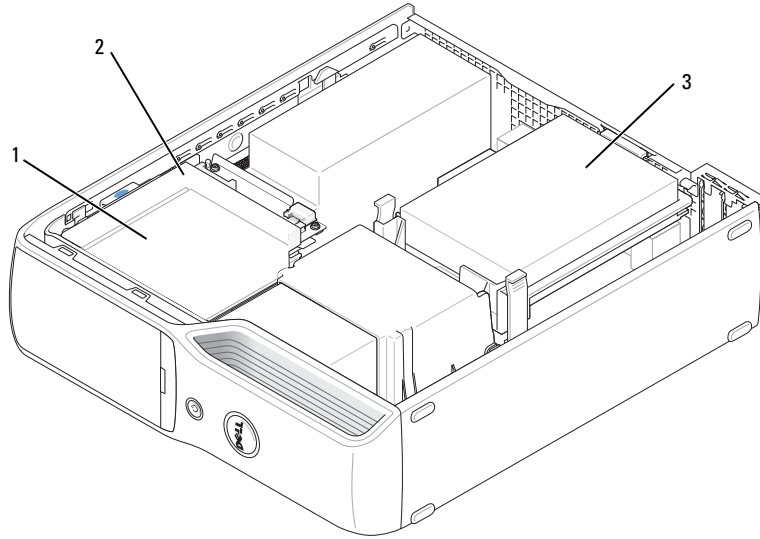
PCI Express カードの取り外し

- 1 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
 - 2 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。
 - 3 固定タブを軽く引っ張り、カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。
 - 4 カードを取り外したままにする場合は、空のカードスロット開口部にフィルラブラケットを取り付けます。
-  **メモ：**コンピュータの FCC 認証を満たすには、フィルラブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィルラブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。
- 5 コンピュータカバーを取り付け（104 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
 - 6 カードのドライバをアンインストールします。

ドライブ

お使いのコンピュータは、以下のデバイスの組み合わせをサポートしています。

- SATA（シリアル ATA）ドライブ 1 台
- FlexBay ドライブ 1 台（オプションのフロッピードライブまたはメディアカードリーダー）
- CD または DVD ドライブ 1 台



- 1 オプションのフロッピードライブまたはメディアカードリーダー用の FlexBay (CD/DVD ドライブの下) 2 CD/DVD ドライブ 3 ハードドライブ

SATA オプティカルドライブをシステム基板の「SATA」と表示されたコネクタに接続します。シリアル ATA ハードドライブを、システム基板上の「SATA0」とラベルの付いた青色のコネクタに接続します。

ドライブケーブルの接続

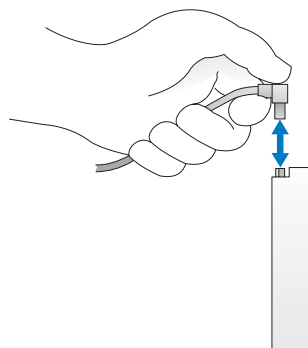
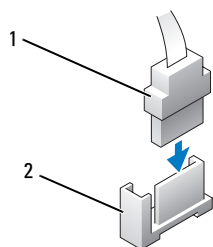
ドライブを取り付ける場合は、2本のケーブル（DC電源ケーブルとデータケーブル）、または1本のインタフェースケーブルをドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

ほとんどのインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタに切り込みや欠けたピンがあり、もう一方のコネクタにあるつめや塞がれたピン穴と一致するようになっています。シリアル ATA ケーブルはコネクタの1番ピン側に接続します。基板またはカード上にあるコネクタの1番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

➡ 注意：SATA インタフェースケーブルを接続するときには、必ず色帯をコネクタの1番ピンに合わせてください。インタフェースケーブルを裏返しにするとドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷するおそれがあります。

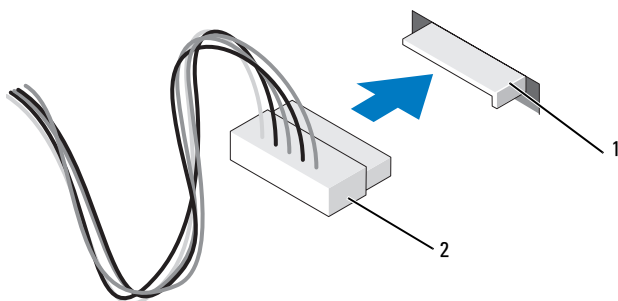
シリアル ATA コネクタ



- 1 SATA インタフェースケーブル 2 インタフェースコネクタ

電源ケーブルコネクタ

電源ケーブルを使用してドライブを接続するには、システム基板上で電源入力コネクタの位置を確認します。

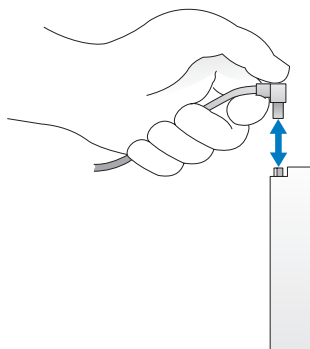


- 1 電源入力コネクタ 2 電源ケーブルコネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

シリアル ATA データケーブルの抜き差しを行う場合は、ケーブルの両端にある黒いコネクタ部分を持ちます。

シリアル ATA インタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタに切り込みや欠けたピンがあり、もう一方のコネクタにあるつめや塞がれたピン穴と一致するようになっています。



ハードドライブ

⚠ 警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

⚠ 警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

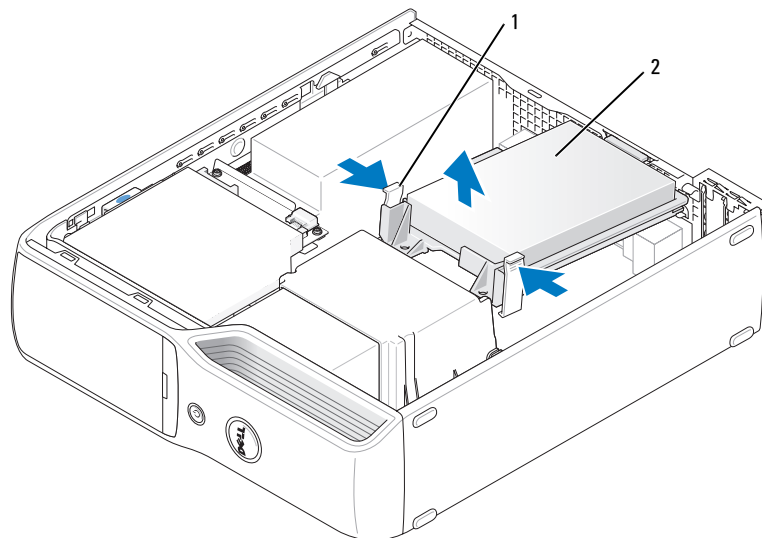
➡ 注意：ドライブの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

➡ 注意：残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合は、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

ドライブのマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っていることを確認します。

ハードドライブの取り外し

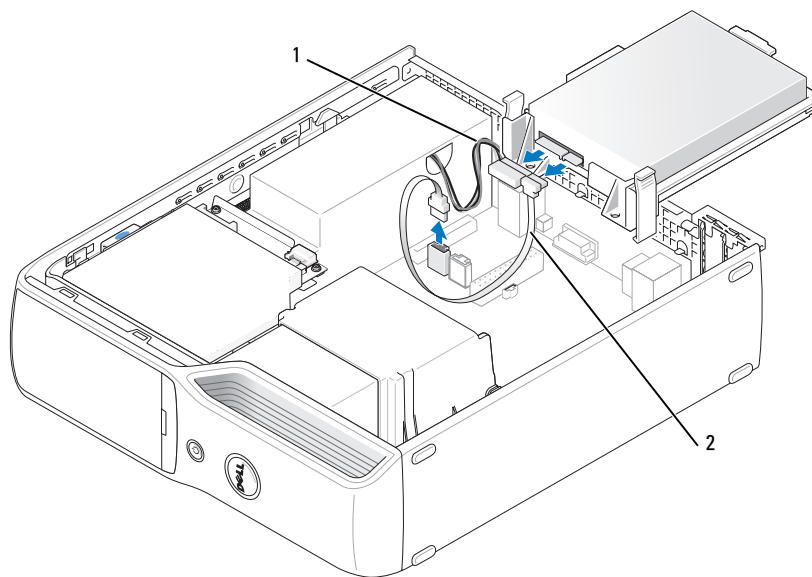
- 1 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。
- 2 ドライブの側面にある青色のタブを内側に押しながら、ドライブを上方向にスライドさせてコンピュータから取り外します。



1 タブ(2) 2 ハードドライブ

- ➡ **注意：**ドライブをコンピュータから取り外すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ドライブケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタが損傷する場合があります。


- 3 ドライブを持ち上げてコンピュータから出し、電源ケーブルおよびハードドライブケーブルをドライブから外します。

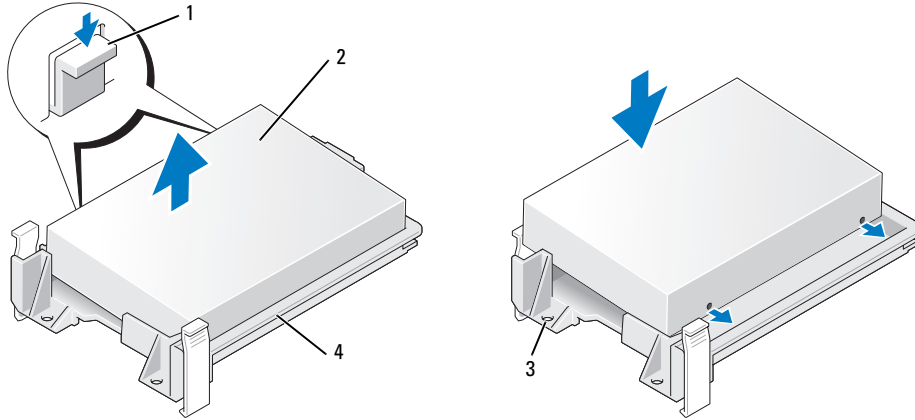


1 電源ケーブル 2 ハードドライブケーブルまたはシリアル ATA データケーブル

ハードドライブの取り付け

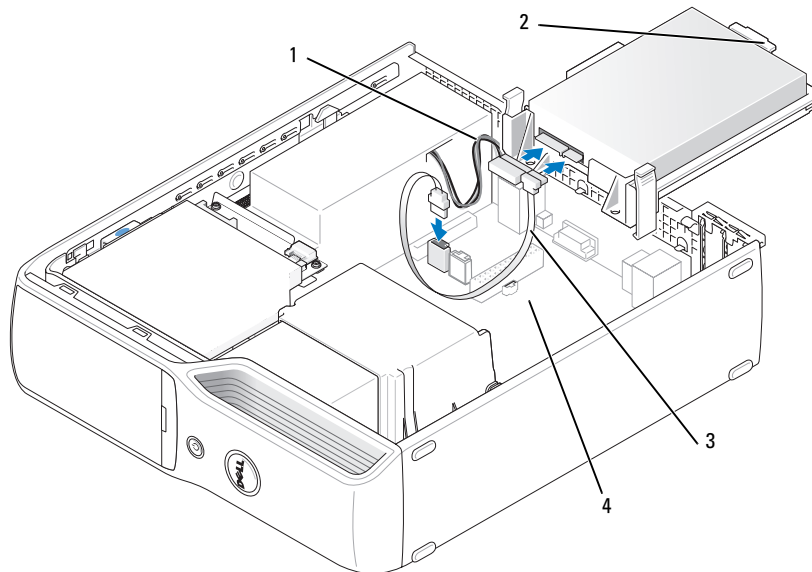
- 1 交換用のハードドライブを梱包から取り出して、取り付けの準備をします。
- 2 ドライブのマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っていることを確認します。

 **メモ：** 交換用のハードドライブにプラスチックのガイドブラケットが付いていない場合は、古いドライブからブラケットを取り外します。そのブラケットを新しいドライブにカチッとはめ込みます。



- 1 タブ(2) 2 ドライブ 3 ドライブのネジ穴
4 ドライブブラケット

3 電源ケーブルとハードドライブケーブルまたは SATA ケーブルをドライブに接続します。



- 1 電源ケーブル 2 ハードドライブのプラスチック製のラッチ 3 ハードドライブケーブルまたはシリアル ATA データケーブル
4 空のベイ

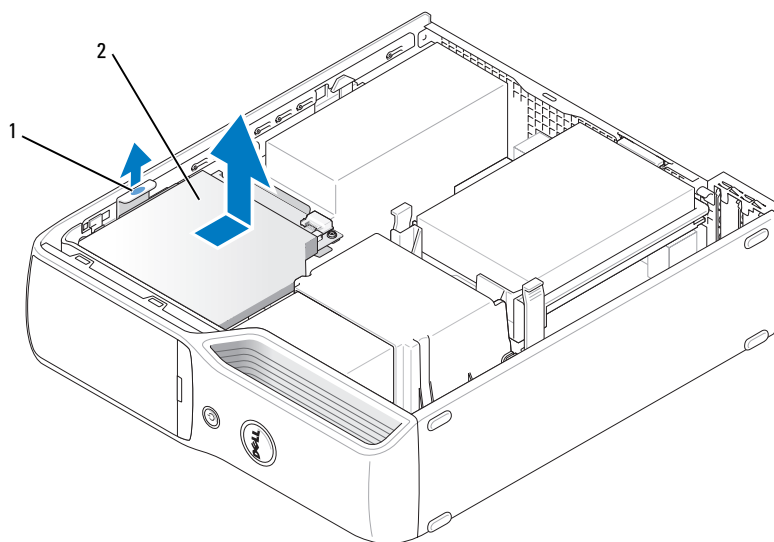
CD/DVD ドライブ

⚠ 警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

⚠ 警告：感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

CD/DVD ドライブの取り外し

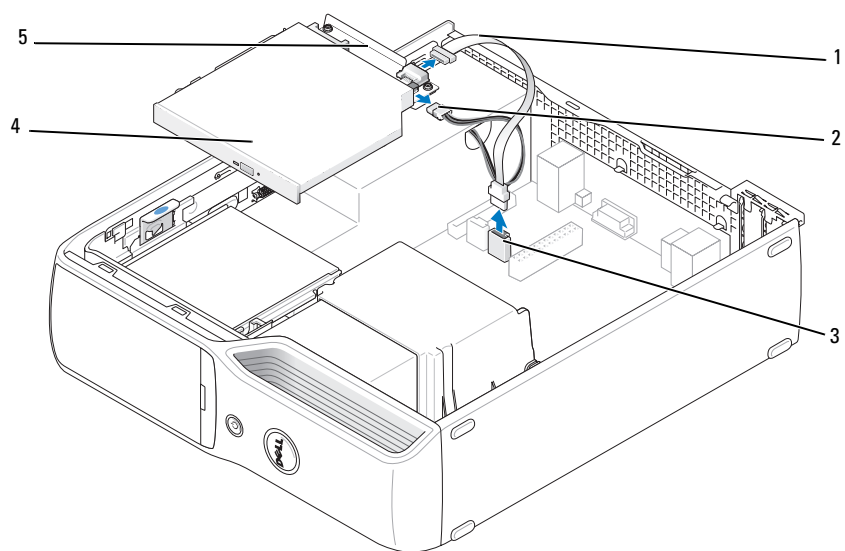
- 1 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。
- ➡ 注意：**ドライブをコンピュータから取り外すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ドライブケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタが損傷する場合があります。
- 3 ドライブリリースラッチを引き上げ、ドライブをコンピュータの背面へスライドさせます。
- 4 接続されているインタフェースケーブルを損傷しないように、ドライブを慎重に持ち上げてコンピュータから取り出します。



1 ドライブリリースラッチ 2 CD/DVD ドライブ

- 5 データケーブルをシステム基板コネクタから外します。

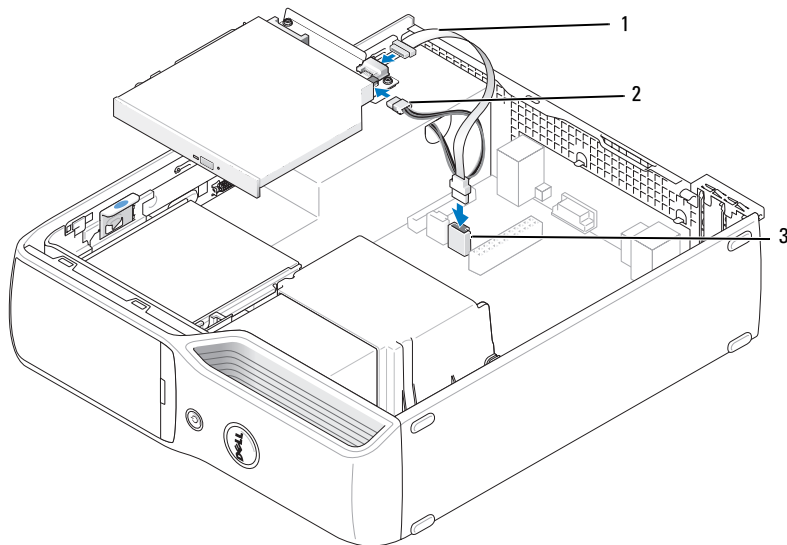
6 電源ケーブルとデータケーブルをドライブの背面から取り外します。



- | | | | | | |
|---|-------------|---|------------------|---|------------|
| 1 | データケーブル | 2 | 電源ケーブル | 3 | システム基板コネクタ |
| 4 | CD/DVD ドライブ | 5 | CD/DVD ドライブブラケット | | |

CD/DVD ドライブの取り付け

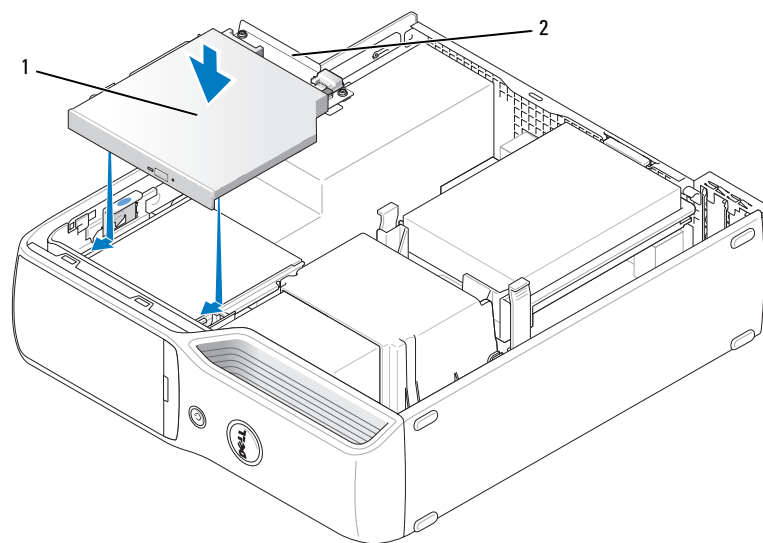
- 1 ドライブを箱から取り出して、取り付けの準備をします。
ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っていることを確認します。
- 2 電源ケーブルとデータケーブルをドライブに接続します。



1 データケーブル 2 電源ケーブル 3 システム基板コネクタ

- 3 データケーブルをシステム基板のシステム基板コネクタに接続します。

- 4 カチッと音がして固定されるまで、ドライブを慎重に押し込みます。



1 CD/DVD ドライブ 2 CD/DVD ドライブブラケット

- 5 すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通気孔の妨げにならないようにケーブルをまとめておきます。
- 6 コンピュータカバーを取り付けます（104 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
- 7 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
- 8 ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。
- 9 セットアップユーティリティを起動し（111 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、該当する **Drive**（ドライブ）オプションを選択します。
- 10 Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作することを確認します（58 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

メディアカードリーダー

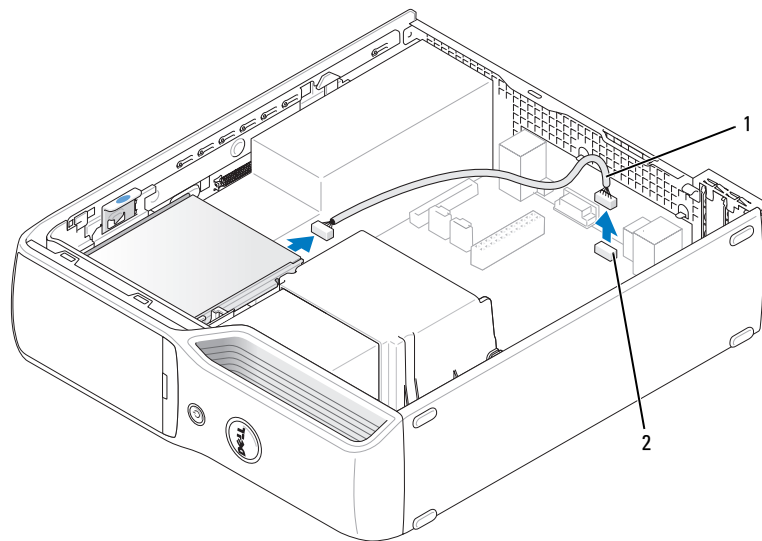
メディアカードリーダーの使い方の詳細については、18 ページの「メディアカードリーダー（オプション）の使い方」を参照してください。

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

注意：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

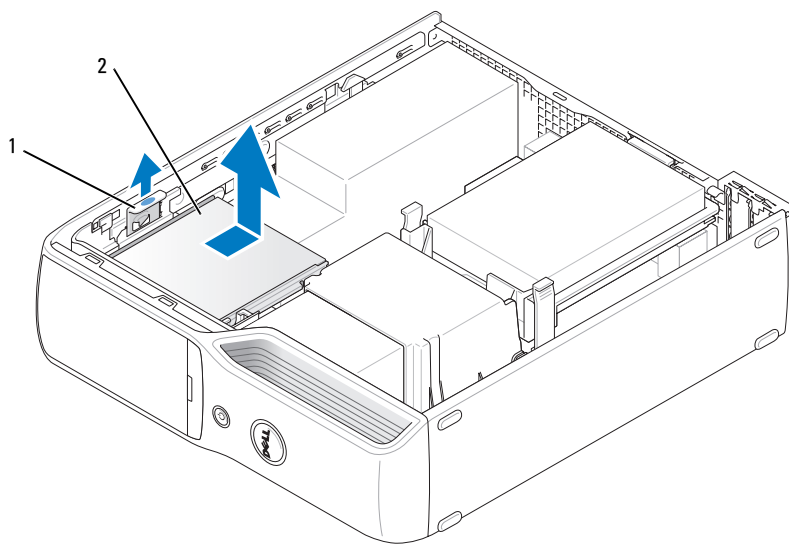
メディアカードリーダーの取り外し

- 1 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。
- 2 CD/DVD ドライブを取り外します（89 ページの「CD/DVD ドライブの取り外し」を参照）。
- 3 ハードドライブを取り外します（85 ページの「ハードドライブの取り外し」を参照）。
- 4 メディアカードリーダーの背面と、システム基板上のメディアカードリーダーコネクタから、インタフェースケーブルを取り外します（71 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。



1 インタフェースケーブル 2 メディアカードリーダーコネクタ

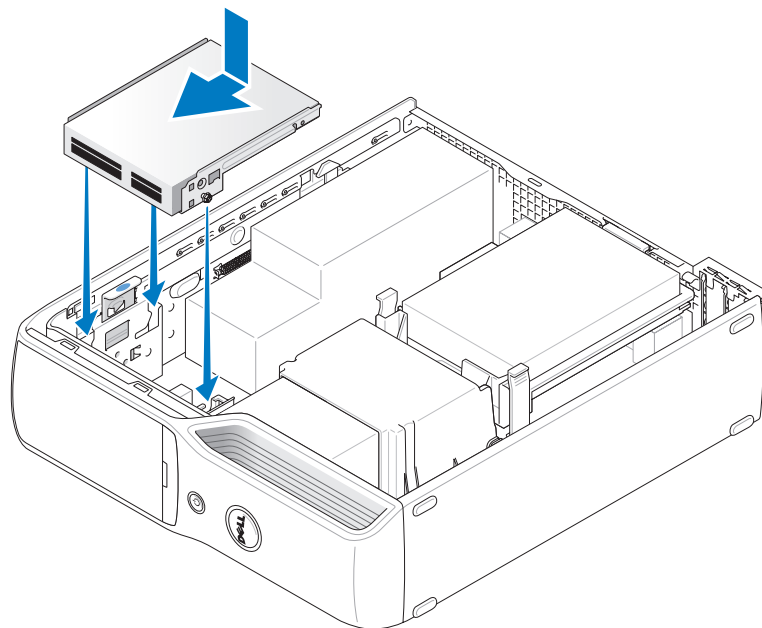
- 5 ドライブリリースラッチを引き上げ、メディアカードリーダーをコンピュータの背面方向にスライドさせ、ドライブを持ち上げてコンピュータから取り外します。



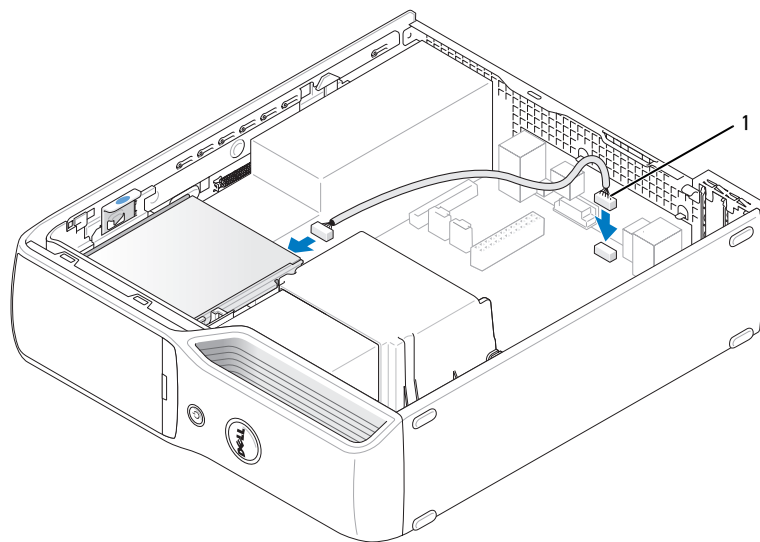
1 ドライブリリースラッチ 2 メディアカードリーダー

メディアカードリーダーの取り付け

- 1 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。
- 2 メディアカードリーダーをパッケージから取り出します。
- 3 ドライブが所定の位置に、カチッと音がするまで、または固定されたとわかるまで、ドライブを押し込みます。




- 4 インタフェースケーブルを、メディアカードリーダーの背面と、システム基板のメディアカードリーダーコネクタに接続します。




1 インタフェースケーブル

- 5 CD/DVD ドライブを取り付けます (91 ページの「CD/DVD ドライブの取り付け」を参照)。
 - 6 ハードドライブを取り付けます (86 ページの「ハードドライブの取り付け」を参照)。
 - 7 コンピュータカバーを取り付けます (104 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照)。
- ➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
- 8 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。
 - 9 セットアップユーティリティを起動し (111 ページの「セットアップユーティリティ」を参照)、該当する **Drive** (ドライブ) オプションを選択します。
 - 10 Dell Diagnostics (診断) プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作することを確認します (58 ページの「Dell Diagnostics (診断) プログラム」を参照)。

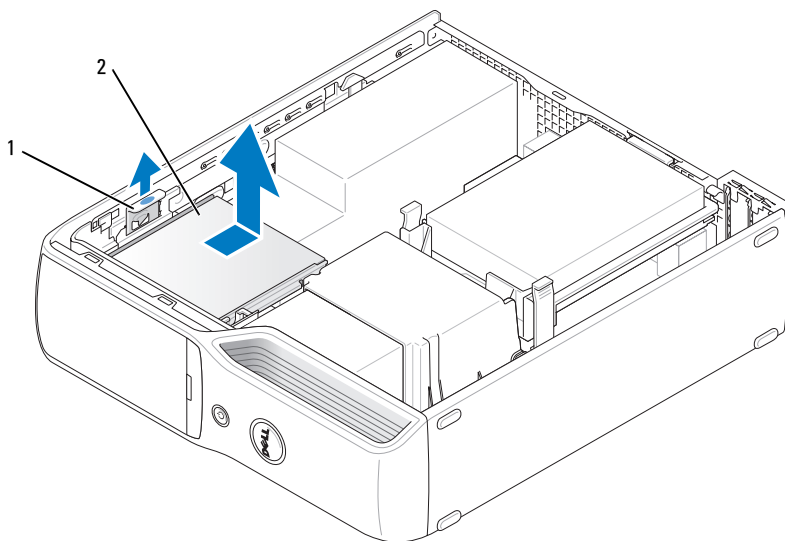
フロッピードライブ（オプション）

 警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

 警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。


フロッピードライブの取り外し

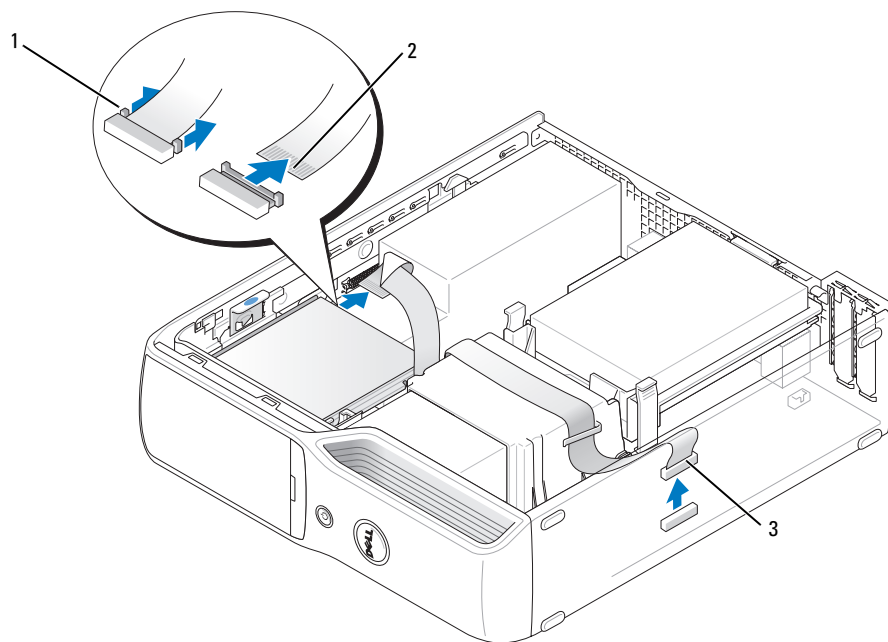
- 1 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。
- 2 CD/DVD ドライブを取り外します（89 ページの「CD/DVD ドライブの取り外し」を参照）。
- 3 ドライブリリースラッチを引き上げ、ドライブをコンピュータの背面へスライドさせます。
- 4 接続されているインタフェースケーブルを損傷しないように、ドライブを慎重に持ち上げてコンピュータから取り出します。



1 ドライブリリースラッチ 2 フロッピードライブ


- 5 システム基板からインタフェースケーブルを取り外します（71 ページの「システム基板のコ
ンポーネント」を参照）。

 **メモ**：インタフェースケーブルは金属製のドライブブラケットで固定されており、ドライブから取り
外す必要はありません。

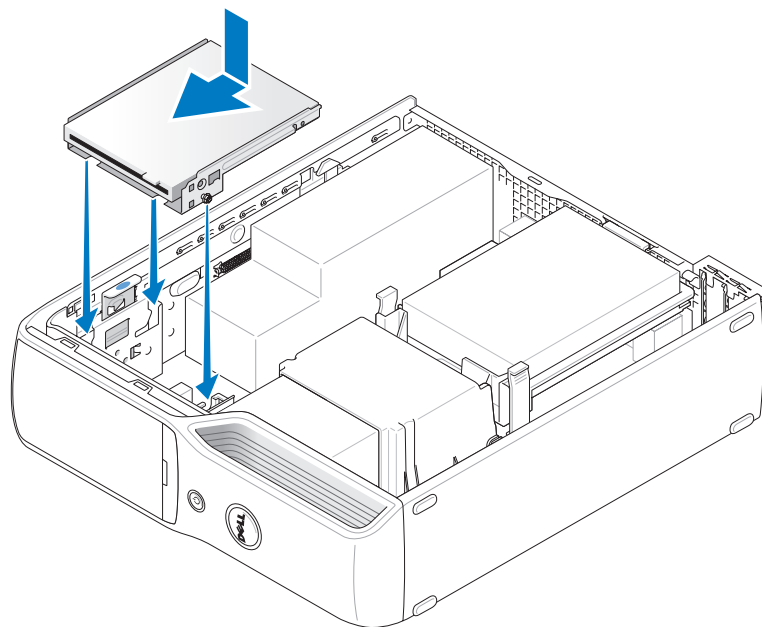


- 1 ケーブルリリースタブ 2 インタフェースケーブルエ
ッジコネクタ 3 インタフェースケーブル

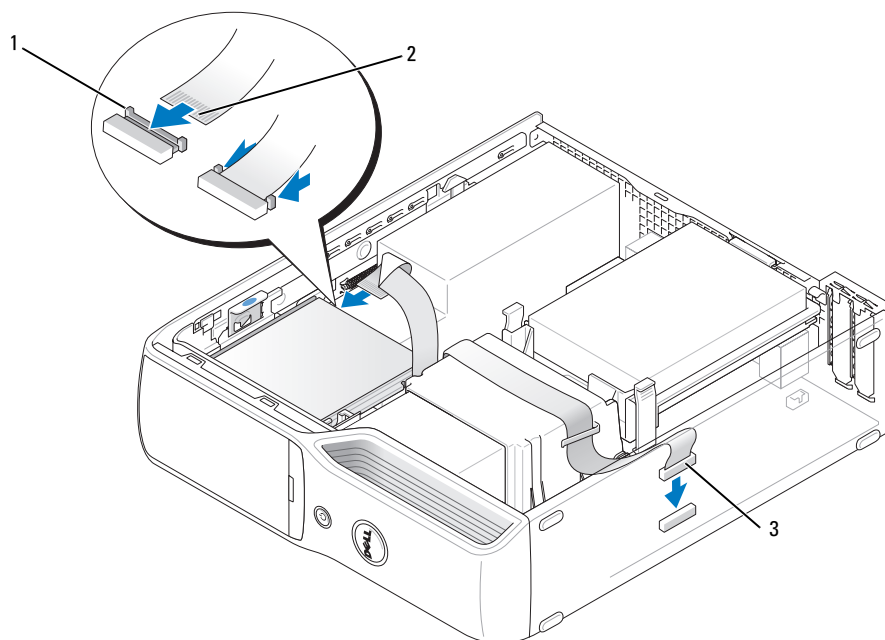
フロッピードライブの取り付け

 **メモ：** インタフェースケーブルは金属製のドライブブラケットで固定されており、ドライブから取り外す必要はありません。

- 1 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。
- 2 ドライブが所定の位置に、カチッと音がするまで、または固定されたとわかるまで、ドライブをゆっくり押し込みます。



- 3 インタフェースケーブルをシステム基板に接続します（71 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。



- 1 ケーブルリリースタブ 2 インタフェースケーブルエッジコネクタ 3 インタフェースケーブル

- 4 すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通気孔の妨げにならないようにケーブルをまとめおきます。
- 5 CD/DVD ドライブを取り付けます（91 ページの「CD/DVD ドライブの取り付け」を参照）。
- 6 コンピュータカバーを取り付けます（104 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
- ➡ 注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
- 7 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。
- 8 セットアップユーティリティを起動し（111 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、該当する **Diskette Drive**（ディスクドライブ）オプションを選択します。
- 9 Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作することを確認します（58 ページの「Dell Diagnostics（診断）プログラム」を参照）。

モデム

⚠ 警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意を参照してください。

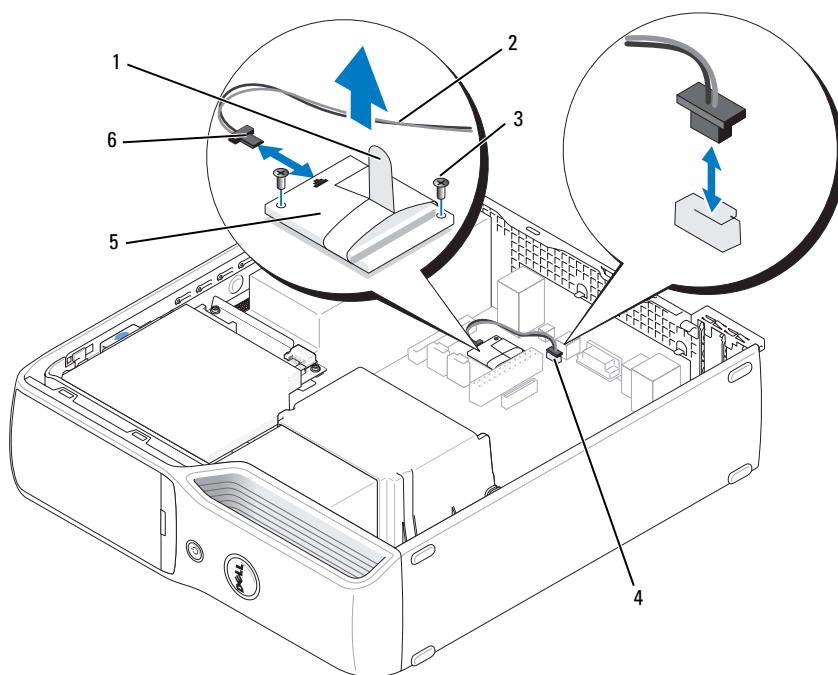
➡ 注意：モデムを取り外したり装着したりする前に、コンピュータからすべての電話ケーブルおよびネットワークケーブルを抜いてください。

➡ 注意：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。


モデムの交換

1 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従ってください。


📌 メモ：モデムを交換しやすくするために、場合によりシステム基板上の電源コネクタから電源ケーブルを取り外す必要があります（71 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。




- | | | | | | |
|---|-----------------------|---|---------|---|--------------------------|
| 1 | プルタブ | 2 | モデムケーブル | 3 | ネジ(2) |
| 4 | RJ11 内部コネクタ (RJ11INT) | 5 | モデム | 6 | モデムケーブルに取り付けられた T 字型コネクタ |


- 2 次の手順で、既存のモデムを取り外します。
 - a RJ11 内部コネクタからモデムケーブルを外します。
 - b 小さなプラスドライバを使用して、モデムをシステム基板に固定している 2 本のネジを取り外し、ネジを保管します。
 - c 付いているプルタブをまっすぐ上に引き上げて、システム基板のコネクタからモデムを取り外します。
 - d モデムからモデムケーブルを外します。
 - 3 次の手順で、新しいモデムを取り付けます。
 - a モデムケーブルの T 字型コネクタをモデムに取り付けます。
 - b モデムをネジ穴に合わせ、モデムをシステム基板のモデムコネクタに押し込みます。
-  **注意：**コネクタは、向きを合わせないと挿入できないようになっています。うまく挿入できない場合は、コネクタの向きを確認してから、もう一度挿入してください。
- c プラスのドライバを使用して、モデムをシステム基板に固定する 2 本のネジを取り付け、締めます。
 - d モデムケーブルのもう一方の端を RJ11 内部コネクタに接続します。
- 4 コンピュータカバーを取り付けます（104 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。

バッテリー

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

 **注意：**コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を逃がすことができます。

コイン型バッテリーは、コンピュータの設定、日付、時刻の情報を保持します。バッテリーの寿命は数年です。コンピュータを起動後に、何度も時刻と日付の情報をリセットしなければならないような場合は、バッテリーを交換します。

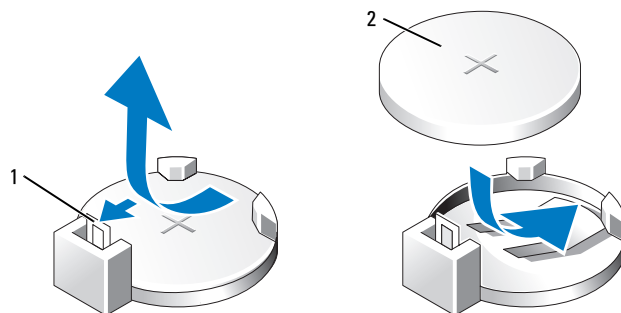
 **警告：**新しいバッテリーは、正しく装着しないと破裂するおそれがあります。交換するバッテリーは、デルが推奨する型、または同等の製品をご利用ください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

バッテリーの交換



メモ：コイン型バッテリーの種類については、110 ページの「電源」を参照してください。

- 1 手順 9 で正しい設定に戻すことができるように、セットアップユーティリティ画面をすべて記録します（111 ページの「セットアップユーティリティ」を参照してください）。
 - 2 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従います。
 - 3 コンピュータカバーを取り外します（68 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
 - 4 バッテリーソケットの位置を確認します（71 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。
- ➡ **注意：** 道具（先端の鋭くないもの）を使用して、バッテリーをソケットから取り出す場合は、道具がシステム基板に触れないよう注意してください。必ず、バッテリーとソケットの間に道具を確実に挿入してから、バッテリーを外してください。それを怠ると、バッテリーソケットが外れたり、システム基板の回路を切断するなど、システム基板に損傷を与えるおそれがあります。
- 5 システムバッテリーを取り外します。
 - a バッテリーリリースレバーを押して、バッテリーを少し斜めに持ち上げます。
 - b バッテリーコネクタを支えた状態で、バッテリーを固定タブから取り外します。




1 バッテリーリリースレバー 2 バッテリー(プラス側)



注意： バッテリーの取り付け、取り外しの際には、バッテリーコネクタが破損しないようにしっかり支えてください。

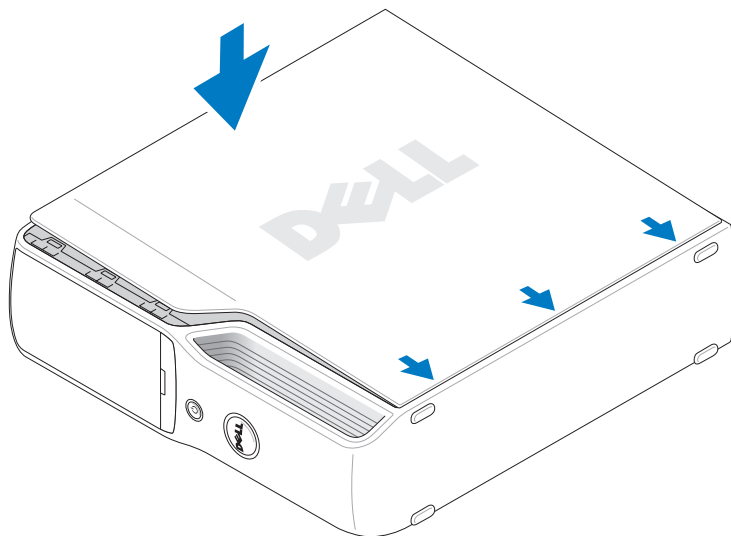
- 6 「+」の側を上向きにしてバッテリーを持ち、所定の位置にカチッと収まるまでコネクタに押し込みます。
- 7 コンピュータカバーを取り付けます（104 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
- ➡ **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
- 8 コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。
- 9 セットアップユーティリティを起動して（111 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、手順 1 で記録した設定に戻します。
- 10 古いバッテリーは適切に廃棄します。バッテリーの廃棄に関しては、『製品情報ガイド』を参照してください。

コンピュータカバーの取り付け

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

- 1 すべてのケーブルが確実に接続され、ケーブルが邪魔にならないように束ねられていることを確認します。
電源ケーブルがドライブの下に挟まらないように、電源ケーブルを慎重に手前に引きます。
- 2 コンピュータの内部に工具や余った部品が残っていないことを確認します。

- 3 カバーを装着するには、次の手順を実行します。
- a カバーの底部をコンピュータの端底部にあるタブに合わせます。
 - b タブをてこにして、カバーを下に回転します。



- c カバーリリースラッチを引き抜いてカバーをカチッと音がする場所にはめ込み、カバーを適切に装着したらラッチを放します。
- d コンピュータをまっすぐ立てる前に、カバーが正しく装着されていることを確認します。

➡ **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

- 4 コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

仕様

プロセッサ	
プロセッサタイプ	Intel® Pentium® 4、Pentium® D、Celeron® D、Intel Core™ プロセッサ
L2 (レベル 2) キャッシュ	<p>Pentium 4 5XX プロセッサの場合、1 MB (ハイパースレディング搭載)</p> <p>Pentium 4 6XX プロセッサの場合、2 MB (ハイパースレディング搭載)</p> <p>Pentium D 9XX プロセッサの場合、2 x 2 MB (デュアルコア搭載)</p> <p>Pentium D 8XX プロセッサの場合、2 x 1 MB (デュアルコア搭載)</p> <p>Celeron® D 3XX プロセッサの場合、256 K</p> <p>Intel Core™ E6400 プロセッサおよびこれ以前の プロセッサの場合、2 MB</p> <p>Intel Core™ E6600 プロセッサおよびこれ以降 のプロセッサの場合、4 MB</p>
メモリ	
タイプ	533、667、および 800 MHz DDR2
メモリコネクタ	4 個
メモリ容量	256 MB、512 MB、1 GB、または 2 GB
最小メモリ	256 MB
最大搭載メモリ	4 GB
	メモ ：OS で利用可能なメモリのサイズを確認する方法については、74 ページの「4 GB 構成でのメモリアドレスリング」を参照してください。
BIOS アドレス	F0000h
コンピュータ情報	
チップセット	Intel G965 Express
DMA チャンネル	8
割り込みレベル	24

コンピュータ情報（続き）

BIOS チップ (NVRAM)	4 Mb
NIC	10/100 Mbps の通信が可能なオンボード NIC
システムクロック	533, 800 または 1066 MHz データ転送速度 (プロセッサにより異なる)

ビデオ

タイプ	内蔵 Intel Graphics Media Accelerator X3000 または PCI Express x16 グラフィック拡張スロット
-----	--

オーディオ

タイプ	内部 7.1 チャンネル Intel ハイデフィニションオーディオ (Sigmatel STAC9227)
-----	---

拡張バス

バスのタイプ	PCI Express x1 および x16
バス速度	PCI Express x1 スロット双方向速度： 500 MB/ 秒 x16 スロット双方向速度： 8 GB/ 秒

PCI Express

コネクタ	x1、1 個
コネクタサイズ	36 ピン
コネクタデータ幅（最大）	PCI Express レーン× 1

PCI Express

コネクタ	x16、1 個
コネクタサイズ	164 ピン
コネクタデータ幅（最大）	PCI Express レーン× 16

ドライブ

外部アクセス用	3.5 インチのスリムラインメディアベイ× 1 5.25 インチのスリムラインドライブベイ× 1
利用可能なデバイス	シリアル ATA ドライブ、USB メモリデバイス、フロッピードライブ、CD ドライブ、DVD ドライブ、DVD+RW ドライブ、DVD/CD-RW コンボドライブ、DVD+/-RW ドライブ、およびメディアカードリーダー
内部アクセス可能	1 インチ高のハードドライブ用のベイ× 1

コネクタ

外付けコネクタ

IEEE 1394	6 ピンパワー背面パネルコネクタ 1 個 6 ピンパワー前面パネルコネクタ× 1
ビデオ	15 ピン D-SUB コネクタ (メス)
USB	オプションのメディアカードリーダー (3.5 インチベイデバイス) 用の 10 ピンヘッダー、および USB 2.0 対応コネクタ (前面パネルに 2 個、背面パネルに 6 個) メモ: オプションのメディアカードリーダー用の 10 ピンヘッダーコネクタは、誤挿入防止のためにピンが 9 本しか挿入されないようになっています。
オーディオ	6 個の背面パネルコネクタ (ライン入力、ライン出力/ヘッドフォン、リアサラウンドサウンド、マイク、サイドサラウンドサウンド、センター/LFE チャネル) 背面パネル S/PDIF コネクタ 前面パネルヘッドフォンミニコネクタ (ライン出力用) 前面パネルマイクコネクタ
ネットワークアダプタ	RJ45 コネクタ
モデム	RJ11 (MDC 1.5) コネクタ、およびモデムを RJ11 に接続する内部アクセス用 3 ピンヘッダー
温度センサー	2 ピンコネクタ 1 個
システム基板コネクタ	
シリアル ATA	7 ピンコネクタ 2 個
ファン	5 ピンコネクタ 2 個 (CPU ファン用およびオプションのハードディスクファン用に各 1)
PCI Express x1	36 ピンコネクタ
PCI Express x16	164 ピンコネクタ
USB	オプションのメディアカードリーダー用 10 ピンヘッダー (3.5 インチベイデバイス)
MDC	12 ピンコネクタ 1 個
フロッピーコネクタ	26 ピンコネクタ 1 個
前面パネル	40 ピンヘッダー 1 個
電源	2 x 12 コネクタ 1 個
プロセッサ電源	2 x 2 コネクタ 1 個
IEEE 1394	2 x 5 ヘッダー 1 個 — ケーブルで前面パネルに常時接続、前面パネル IEEE 1394 ポートをサポート

ボタンとライト

電源ボタン	押しボタン
電源ライト	緑色のライト — 緑色の点滅はスリープ状態、緑色の点灯は電源投入状態を示します。 黄色のライト — 黄色の点滅は取り付けられているデバイスに問題が発生していることを示します。黄色の点灯は内部電源の問題を示します（46 ページの「電源の問題」を参照）。
ハードドライブライト	緑色
リンク保全ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	緑色のライト — 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 橙色のライト — 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 オフ（消灯） — コンピュータがネットワークへの物理的な接続を検出していません。
アクティビティライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	黄色の点滅ライト
診断ライト	前面パネルのライト 4 個（診断ライトのコードについては 53 ページの「診断ライト」を参照）
スタンバイ電源ライト	システム基板上の STBYLED
アクティビティライト（オプションのメディアカードリーダー）	緑色の点滅ライト

電源

DC 電源ユニット

ワット数	275 W
熱消費	935 BTU / 時間
電圧（電圧設定に関する重要な情報については『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意を参照）	手動選択電源ユニット — 90 ~ 135 V（50/60 Hz）； 180 ~ 265 V（50/60 Hz）
バックアップバッテリー	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリー

サイズと重量

縦幅	31.8 cm
横幅	9.4 cm
長さ	36.8 cm
重量	6.89 kg

環境

温度

動作時 10 ~ 35 °C

保管時 -40 ~ 65 °C

相対湿度 20 ~ 80 % (結露しないこと)

最大振動

動作時 0.25 G (3 ~ 200 Hz、0.5 オクターブ/分)

保管時 0.5 G (3 ~ 200 Hz、1 オクターブ/分)

最大耐久衝撃

動作時 50.8 cm / 秒の速度変化でボトムハーフサインパルス

保管時 508 cm / 秒の速度変化で 27 G フェアードスクエアウェーブ

高度

動作時 -15.2 ~ 3,048 m

保管時 -15.2 ~ 10,668 m

セットアップユーティリティ

概要

セットアップユーティリティは以下の場合に使用します。

- ハードウェアを追加、変更、取り外した後に、システム設定情報を変更する場合
- ユーザーパスワードなどユーザー選択可能オプションを設定または変更する場合
- 現在のメモリの容量を調べたり、取り付けられたハードドライブの種類を設定する場合


セットアップユーティリティを使用する前に、セットアップユーティリティ画面情報を後で参照できるようにメモしておくことをお勧めします。



注意：コンピュータの操作に詳しい方以外は、セットアップユーティリティの設定を変更しないことをお勧めします。変更内容によっては、コンピュータが正しく動作しなくなることがあります。

セットアップユーティリティの起動

- 1 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
- 2 DELL ロゴが表示されたら、すぐに <F2> を押します。

 **メモ**：キーボードのキーを長時間押したままにすると、キーボードエラーが発生する場合があります。キーボードエラーを回避するには、セットアップユーティリティの画面が表示されるまで、<F2> を押して放す操作を等間隔で行ってください。


キーを押すタイミングが遅れて OS のロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまでそのまま待機し、コンピュータをシャットダウンして操作をやりなおしてください。

セットアップユーティリティ画面

セットアップユーティリティ画面には、お使いのコンピュータの現在の（または変更可能な）設定情報が表示されます。画面の情報は、オプションリスト、アクティブなオプションのフィールド、キー操作という 3 つの領域に分割されています。

<p>Options List（オプションリスト）— このフィールドは、セットアップユーティリティウィンドウの左側に表示されます。このフィールドは、スクロール付きのボックスで、お使いのコンピュータの設定（搭載しているハードウェア、省電力、およびセキュリティ機能など）を示す機能を一覧表示します。</p> <p>上下の矢印キーで、リストを上下にスクロールしてください。オプションをハイライト表示すると、Option Field（オプションフィールド）にオプションの詳細、現在の設定、および利用可能な設定が表示されます。</p> <p>各メインオプションフィールドを展開したり折りたたんだりするには、<Enter> を押します。</p>	<p>Option Field（オプションフィールド）— このフィールドには、各オプションの説明が表示されます。このフィールドでは、現在の設定を表示したり設定を変更したりできます。</p> <p>左右の矢印キーを使用して、オプションをハイライト表示します。選択をアクティブにするには、<Enter> を押します。</p> <p>Key Functions（キー操作）— このフィールドは Option Field（オプションフィールド）の下に表示され、キーに割り当てられた機能をアクティブなセットアップユーティリティフィールド内に一覧表示します。</p>
--	--

セットアップユーティリティのオプション

 **メモ**：コンピュータや BIOS のバージョン、取り付けられているデバイスによっては、このセクションに一覧表示されている項目が表示されなかったり、記載どおりに表示されないことがあります。

System (システム)

System Info (システム情報)	コンピュータ名、BIOS のバージョン番号と日付、システムタグ、その他のシステム固有情報などのシステム情報を表示します。 メモ ：BIOS で表示されるシステム名は、コンピュータ上の表示またはコンピュータのマニュアルの記載とはやや異なる場合があります。
CPU Info (CPU 情報)	コンピュータのプロセッサがハイパースレッディングをサポートしているかどうかを識別し、プロセッサバス速度、プロセッサ ID、クロック速度、および L2 キャッシュを一覧表示します。
Memory Info (メモリ情報)	搭載メモリのサイズ、メモリ速度、チャンネルモード (デュアルまたはシングル)、および搭載メモリのタイプを表示します。
Date/Time (日時)	現在の日付と時刻の設定を表示します。
Boot Sequence (起動順序)	この一覧で指定されたデバイス順序に従って、コンピュータを起動します。 メモ ：起動デバイスを挿入してコンピュータを再起動すると、デバイスがセットアップユーティリティメニューに表示されます。USB メモリデバイスから起動するには、USB デバイスを選択して、一覧の先頭に移動します。

Drives (ドライブ)

Diskette Drive (ディスケットドライブ)	システム基板の FLOPPY コネクタに接続されたフロッピードライブを識別して定義します。定義の種類は、 Off (オフ)、 USB 、 Internal (内蔵) または Read Only (読み取り専用) です。
Drives 0 through 1 (ドライブ 0 ~ 3)	システム基板の SATA コネクタに接続されたドライブを識別し、ドライブの容量を一覧表示します。
SATA Operation (SATA 動作)	SATA モードを識別して定義します。SATA コントローラは、 AHCI または ATA モードに設定できます。

Onboard Devices (オンボードデバイス)

NIC Controller (NIC コントローラ)	NIC は On (オン) (デフォルト)、 Off (オフ)、または On w/ PXE に設定できます。 On w/ PXE 設定がアクティブな場合は (以降の起動プロセスのみで有効)、<Ctrl><Alt> を押すように指示されます。このキーの組み合わせを押すと、ネットワークサーバーからの起動方法を選択できるメニューが表示されます。起動ルーチンがネットワークサーバーから使用できない場合、コンピュータは起動順序リスト内の次のデバイスからの起動を試みます。
1394 Controller (1394 コントローラ)	IEEE 1394 接続の有効 / 無効を切り替えます。

Card Reader (カードリーダー)	オプションのメディアカードリーダーの有効 / 無効を切り替えます。
Audio Controller (オーディオコントローラ)	オンボードオーディオコントローラの有効 / 無効を切り替えます。
USB Controller (USB コントローラ)	On (オン) (デフォルト) に設定すると、OS で USB デバイスが検出されてサポートされます。 No Boot (起動なし) オプションをオンにすると、USB コントローラが有効になりますが、USB ストレージデバイスは認識されません。

Video (ビデオ)

Primary Video (プライマリビデオ)	コンピュータ上に 2 つのビデオコントローラが存在する場合、どちらがプライマリになるかを指定します。
Video Memory Size (ビデオメモリサイズ)	オンボードビデオコントローラ用に 8 MB (デフォルト) または 1 MB のシステムメモリを選択します。

Performance (パフォーマンス)

HyperThreading (ハイパースレッディング)	コンピュータのプロセッサがハイパースレッディングをサポートしている場合、 Options List (オプションリスト) にこのオプションが表示されます。
SpeedStep	このフィールドでは、コンピュータでサポートされる任意のプロセッサについて、Enhanced SpeedStep® Technology を有効にするかどうかを指定します。

HDD Acoustic Mode (HDD アコースティックモード)

- **Bypass** (バイパス) — お使いのコンピュータは、現在のアコースティックモードの設定をテストまたは変更しません。
- **Quiet** (静粛) (デフォルト) — ハードドライブは最も静かな設定で動作します。
- **Suggested** (推奨) — ハードドライブは、ドライブ製造元が推奨する速度レベルで動作します。
- **Performance** (パフォーマンス) — ハードドライブは最大速度で動作します。

メモ：Performance (パフォーマンス) モードへ切り替えると、ドライブはより大きなノイズを発生する場合がありますが、ドライブの動作に影響はありません。

メモ：アコースティック設定を変更しても、ハードドライブイメージは変わりません。

Security (セキュリティ)

DEP (Execute Disable) (DEP (実行防止))	<ul style="list-style-type: none">• Opt-In (デフォルト) — NX 対応プロセッサを搭載したコンピュータ上ではデフォルトで DEP が有効になっています。このオプションでは、Windows システムバイナリのみが DEP の対象となります。アプリケーションについては、アプリケーション互換シムを作成しアプリケーションとともにそのシムをインストールすることで、DEP 保護を有効にできます。• Opt-Out — DEP はすべてのプロセスに対して有効です。ユーザーは、システムのプロパティで特定のアプリケーションについての例外を手動で作成できます。または、IT 担当者や ISV は Application Compatibility Toolkit を使用して opt-out 設定を行うことができます。• Always On (常時オン) — 例外なく完全に DEP を適用します。• Always Off (常時オフ) — ユーザーモードでの DEP の適用を行いません。ドライバおよび Windows コアカーネルバイナリは DEP の対象ですが、その他のバイナリは対象アプリケーションのセットに含まれません。
---------------------------------------	--

Unlock Setup (セットアップのアンロック)	このオプションで Admin Password (管理者パスワード) を使用すると、セットアップオプションをアンロックできます。 メモ ：このオプションは、Admin Password (管理者パスワード) のオプションが有効になっている場合のみ表示されます。
-----------------------------	---

Admin Password (管理者パスワード)	コンピュータのセットアップユーティリティへのアクセスを制限できません。これは、 System Password (システムパスワード) オプションでシステムへのアクセスを制限するのと同様のオプションです。 メモ ：パスワードを削除するには、古いパスワードを入力して <Enter> を 2 回押します。
------------------------------	--

System Password (システムパスワード)	システムのパスワードセキュリティ機能の現在のステータスを表示し、新しいシステムパスワードの設定と確認ができます。
--------------------------------	--

Password Status (パスワードのステータス)	セットアップパスワードを使用して、システムパスワードフィールドをロックします。このフィールドをロックすると、コンピュータの起動時に <Ctrl><Enter> を押してもパスワードセキュリティを無効にできません。
----------------------------------	--

Power Management (電力の管理)

AC Recovery (AC リカバリ)	コンピュータに AC 電源が回復した場合にどうするかを設定します。
--------------------------	-----------------------------------

Auto Power On (自動電源オン)	コンピュータに自動的に電源を入れるよう設定します。選択可能なオプションは、 every day (毎日)、または毎週 Monday through Friday (月～金) です。 デフォルト設定は Off (オフ) です。 この機能は、電源タップやサージプロテクタでコンピュータをシャットダウンした場合は動作しません。
---------------------------	---

Auto Power Time (自動電源投入時刻)	<p>コンピュータに自動的に電源を入れる時刻を設定します。</p> <p>時刻は 24 時間形式 (時:分) で表示されます。左右の矢印キーを押して数値を増減するか、日付と時刻のフィールドの両方に数値を入力して、起動する時刻を変更します。</p> <p>この機能は、電源タップやサージプロテクタでコンピュータをシャットダウンした場合は動作しません。</p>
Suspend Mode (サスペンドモード)	<p>選択可能なオプションは、S1 (コンピュータが低電力モードで動作するサスペンド状態) と S3 (ほとんどのコンポーネントへの供給電力を抑制または停止するスタンバイ状態) です。ただし、システムメモリはアクティブなままです。</p>
Quick Resume (クイックレジューム)	<p>この機能により、Intel Viiv Quick Resume Technology を有効または無効にできます。</p> <p>デフォルト設定は off (オフ) です。</p>
Maintenance (メンテナンス)	
Event Log (イベントログ)	<p>システムのイベントログを表示します。</p>
POST Behavior (POST 動作)	
Fastboot (高速起動)	<p>On (オン) (デフォルト) に設定すると、一部の設定とテストがスキップされるため、コンピュータが高速に起動します。</p>
Numlock Key (Numlock キー)	<p>このオプションは、キーボードの一番右側にあるキーに関係します。 On (オン) (デフォルト) に設定すると、各キートップに表示されている数字と演算記号が有効になります。 Off (オフ) に設定すると、各キーの側面に表示されているカーソル制御機能が有効になります。</p>
POST Hotkeys (POST ホットキー)	<p>このオプションを使用すると、コンピュータの起動時に表示されるファンクションキーを指定できます。</p>
Keyboard Errors (キーボードエラー)	<p>このオプションを使用すると、コンピュータの起動時にキーボードエラーを報告するかどうかを指定できます。</p>


Boot Sequence (起動順序)

この機能を使って、デバイスの起動順序を変更します。

 **注意：**起動順序の設定を変更したときは、新しい設定を保存しないと変更内容が失われます。

オプション設定


- **Diskette Drive** (ディスクドライブ) — コンピュータがフロッピードライブからの起動を試みます。ドライブ内のフロッピーディスクが起動用でない場合は、エラーメッセージが生成されます。フロッピードライブにフロッピーが挿入されていない場合、またはフロッピードライブが取り付けられていない場合、コンピュータは起動順序内で次に起動可能なデバイスからの起動を試みます。
- **Hard Drive** (ハードドライブ) — コンピュータはプライマリハードドライブからの起動を試みます。そのドライブ上に OS が存在しない場合は、コンピュータは起動順序内で次に起動可能なデバイスからの起動を試みます。
- **CD Drive** (CD ドライブ) — コンピュータは CD ドライブからの起動を試みます。そのドライブに CD が挿入されていない場合、または CD に OS が含まれていない場合、コンピュータは起動順序内で次に起動可能なデバイスからの起動を試みます。
- **USB Flash Device** (USB フラッシュデバイス) — USB ポートにメモリデバイスを挿入し、コンピュータを再起動します。画面の右上隅に F12 = Boot Menu と表示されたら、<F12> を押します。BIOS がデバイスを認識し、USB flash (USB フラッシュ) オプションを起動メニューに追加します。

 **メモ：**USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能デバイスである必要があります。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能かどうかを確認してください。

一回のみの起動順序の変更

この機能は、フロッピードライブやメモリキーなどの USB デバイスからコンピュータを起動するときなどに使用します。


- 1 USB デバイスから起動する場合は、USB デバイスを USB コネクタに接続します (13 ページの「コンピュータの前面および背面」を参照)。
- 2 コンピュータの電源を入れます (または再起動します)。
- 3 DELL ロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

 **メモ：**キーボードのキーを長時間押したままにすると、キーボードエラーが発生する場合があります。キーボードエラーを回避するには、起動デバイスメニューが表示されるまで、<F12> を押して放す操作を等間隔で行ってください。

キーを押すタイミングが遅れて OS のロゴが表示されてしまったら、Microsoft Windows デスクトップが表示されるまでそのまま待機し、コンピュータをシャットダウンして操作をやりなおしてください。


- 4 **Boot Device Menu**（起動デバイスメニュー）で、上下の矢印キーを使用するか、キーボードの適切な数値キーを押して、今回の起動のみに使用するデバイスをハイライト表示し、<Enter> を押します。

たとえば、USB メモリキーから起動する場合は、**USB Flash Device**（USB フラッシュデバイス）をハイライト表示して <Enter> を押します。

 **メモ**：USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能デバイスである必要があります。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能であるか確認してください。

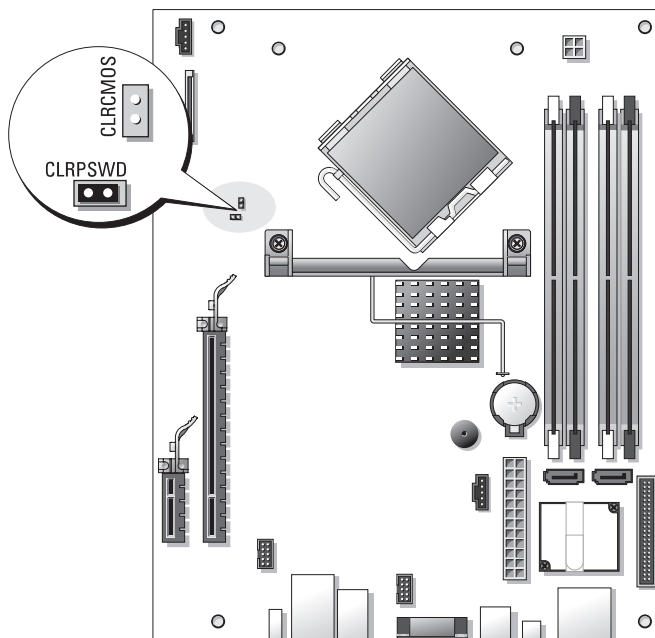
次回からの起動順序の変更

- 1 セットアップユーティリティを起動します（112 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照）。
- 2 矢印キーを押して **Boot Sequence**（起動順序）メニューオプションをハイライト表示し、<Enter> を押してメニューにアクセスします。

 **メモ**：後で元に戻すこともできるよう、現在の起動順序を控えておきます。


- 3 デバイスの一覧内を移動するには、上下矢印キーを押します。
- 4 デバイスを有効または無効にするには、スペースバーを押します（有効にしたデバイスにはチェックマークが付いています）。
- 5 選択したデバイスを一覧内で上下に移動するには、<U> キーまたは <D> キーを押します。

ジャンパ設定





ジャンパ	設定	説明	
CLRPSWD		パスワード機能が有効です（デフォルト設定）。	
		パスワード機能が無効です。	
CLRCMOS		リアルタイムクロックがリセットされていません。	
		リアルタイムクロックがリセットされています（一時的にジャンパありの状態）。	
	ジャンパあり		ジャンパなし


忘れたパスワードの取り消し

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

 **注意：**この手順を実行すると、システムパスワードと管理者パスワードの両方が消去されます。


- 1 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
 - 2 コンピュータカバーを取り外します（68 ページの「コンピュータカバーの取り外し」）。
 - 3 システム基板上にある 2 ピンパスワードジャンパ（CLRPSWD）の位置を確認し、ジャンパプラグを取り外してパスワードを取り消します（71 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。
 - 4 コンピュータカバーを取り付けます（104 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
 - 5 コンピュータとモニターをコンセントに接続して、電源を入れます。
 - 6 コンピュータに Microsoft® Windows® のデスクトップが表示されたら、コンピュータをシャットダウンします（67 ページの「コンピュータの電源を切るには」を参照）。
 - 7 モニターの電源を切って、コンセントから外します。
 - 8 コンピュータの電源ケーブルをコンセントから外し、電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。
 - 9 コンピュータカバーを取り外します（104 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
 - 10 システム基板上にある 2 ピンパスワードジャンパ（CLRPSWD）の位置を確認し（71 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）、ジャンパを取り付けてパスワード機能を有効にします。
 - 11 コンピュータカバーを取り付けます（104 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
-  **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
- 12 コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
-  **メモ：**セットアップユーティリティで（111 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、システムパスワードと管理者パスワードのオプションがどちらも **Not Set**（未設定）になっていることを確認します。パスワード機能は有効になっていますが、パスワードが設定されていません。
- 13 必要に応じて、新しいシステムパスワードおよび管理者パスワード（またはそのいずれか）を設定します。

CMOS 設定の取り消し


 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

 **メモ：**この手順を実行しても、システムパスワードとセットアップパスワードは取り消されず、リセットもされません。

- 1 67 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 コンピュータカバーを取り外します（68 ページの「コンピュータカバーの取り外し」）。
- 3 次の手順で、現在の CMOS 設定をリセットします。
- 4 システム基板上の 2 ピンパスワードジャンパ（CLRPSWD）と CMOS（CLRCMOS）ジャンパの位置を確認します（71 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。
- 5 パスワードジャンパプラグを取り外し、CLRCMOS ジャンパピンにプラグを取り付けて、約 5 秒待ちます。


 **注意：**パスワード機能を有効にするには、パスワードジャンパピンにパスワードジャンパプラグを取り付ける必要があります。

- 6 ジャンパプラグを CLRCMOS ピンから取り外して、パスワードジャンパピンに取り付けなおします。
- 7 コンピュータカバーを取り付けます（104 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。


 **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

- 8 コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。


コンピュータのクリーニング

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

コンピュータ、キーボード、およびモニター

 **警告：**コンピュータを清掃する際は、コンピュータをコンセントから取り外してください。コンピュータのクリーニングには、水で湿らせた柔らかい布をお使いください。液体クリーナーやエアゾールクリーナーは使用しないでください。可燃性物質を含んでいる場合があります。

- ブラシの付いた掃除機を使って、コンピュータのスロット部分や開口部、およびキーとキーボードの間から慎重にほこりを取り除きます。

 **注意：**モニター画面を石鹼またはアルコール溶液で拭かないでください。反射防止コーティングが損傷するおそれがあります。


- モニター画面をクリーニングするには、水で軽く湿らした柔らかくて清潔な布を使います。可能であれば、画面クリーニング専用ティッシュまたはモニターの静電気防止コーティング用の溶液をお使いください。
- キーボード、コンピュータ、およびモニターのプラスチック部分は、水と中性液体洗剤を3対1で混ぜ合わせた溶液で湿らした柔らかくて清潔なクリーニング布を使って拭きます。この溶液に布を浸さないでください。また、コンピュータやキーボードの内部に溶液が入らないようにしてください。

マウス

画面のカーソルが飛んだり、異常な動きをする場合は、マウスをクリーニングします。光学式以外のマウスをクリーニングするには、次の手順を実行します。


- 1 マウスの底部にある固定リングを左に回して、ボールを取り出します。
- 2 清潔な、糸くずの出ない布でボールを拭き取ります。
- 3 ボールケースを軽く吹いて、ほこりや糸くずを取り除きます。
- 4 ボールが入っているケースのローラーが汚れている場合は、消毒用アルコール（イソプロピルアルコール）を軽く浸した綿棒を使ってローラーの汚れを拭き取ります。
- 5 ローラーが溝からずれてしまった場合は、中央になおします。綿棒の綿毛がローラーに残っていないか確認します。
- 6 ボールと保持リングを取り付けます。カチッと所定の位置に収まるまで、保持リングを時計回りに回します。

CD と DVD

-  **注意：**CD/DVDドライブのレンズの手入れには、必ず圧縮空気を使用して、圧縮空気に付属しているマニュアルの手順に従ってください。ドライブのレンズには絶対に触れないでください。

CD や DVD がスキップしたり、音質や画質が低下したりする場合は、ディスクを掃除します。

- 1 ディスクの外側の縁を持ちます。中央の穴の縁にも触ることができます。

-  **注意：**円を描くようにディスクを拭くと、ディスク表面に傷をつけるおそれがあります。
- 2 やわらかく、糸くずの出ない布でディスクの裏面（ラベルのない側）を中央から外側の縁に向かって放射状にそっと拭きます。

頑固な汚れは、水、または水と刺激性の少ない石鹼の希釈溶液で試してください。ディスクの汚れを落とし、ほこりや指紋、ひっかき傷などからディスクを保護する市販のディスククリーナーもあります。CD用のクリーニング製品は、DVDにも使用できます。

デルテクニカルサポートポリシー（米国内のみ）

サポート担当者によるテクニカルサポートでは、トラブルシューティングの過程で、お客様のご協力のご参加が不可欠です。このテクニカルサポートでは、OS、ソフトウェアプログラム、ハードウェアドライバを出荷時のデフォルト設定に復元したり、ご使用のコンピュータや工場出荷時に取り付け済みのすべてのハードウェアが適切に機能しているかどうかを検証したりできます。サポート担当者によるテクニカルサポートだけでなく、support.jp.dell.com でオンラインテクニカルサポートを利用することもできます。また、有料で利用できるテクニカルサポートオプションもあります。

デルでは、コンピュータおよび「プリインストールされている」ソフトウェアや周辺機器に対して限定的なテクニカルサポートを提供しています¹。サードパーティ製のソフトウェアや周辺機器に対するサポートは、製品の製造元によって提供されます。それらの製品には、Dell Software and Peripherals、Readyware、カスタムファクトリー統合を通じて購入、インストールされたソフトウェアや周辺機器も含まれます²。

- ¹ 修理サービスは、製品保証の契約条項およびコンピュータ購入に際して交わした任意のサポートサービス契約に従って提供されます。
- ² カスタムファクトリー統合 (CFI) プロジェクトに含まれているすべてのデル標準コンポーネントは、お使いのコンピュータに適用されるデルの標準製品保証の対象となっています。一方で、デルでは、コンピュータのサービス契約期間中、部品交換プログラムを拡張し、CFI で組み込まれたすべての非標準サードパーティ製ハードウェアコンポーネントに対応します。

「プリインストールされている」ソフトウェアと周辺機器の定義

プリインストールされているソフトウェアとは、コンピュータの製造過程でインストールされる OS やソフトウェアプログラム（Microsoft[®] Office、Norton Antivirus など）を指します。

工場出荷時に取り付け済みの周辺機器には、内蔵拡張カードやデルブランドのモジュールベイ、PC カードアクセサリが含まれます。また、デルブランドのモニター、キーボード、マウス、スピーカー、電話モデム用のマイク、ドッキングステーションやポートリプリケータ、ネットワーク製品、およびすべての関連ケーブルも含まれます。

「サードパーティ製」ソフトウェアと周辺機器の定義

サードパーティ製ソフトウェアと周辺機器には、デルが販売し、かつデルブランドでない周辺機器、アクセサリ、ソフトウェアプログラムが含まれます（プリンタ、スキャナ、カメラ、ゲームなど）。サードパーティ製のソフトウェアや周辺機器に対するサポートは、これらの製品の製造元によって提供されます。


FCC に関する注意事項（米国内のみ）

FCC クラス B

本装置は、無線周波エネルギーを発生、使用し、放射することがあります。製造者の取扱説明書に従って設置および使用されない場合、無線通信の受信障害を引き起こすことがあります。この装置はテストの結果、FCC 規定の第 15 条に準拠したクラス B のデジタルデバイスに対する制限を満たすことが確認されています。

このデバイスは FCC 規定の第 15 条に準拠しています。デバイスの操作は、次の 2 つの条件の対象になります。

- 1 このデバイスが有害な電波障害を生じさせないこと。
- 2 好ましくない操作を引き起こす可能性のある電波障害を含め、このデバイスが受信した電波障害を受け入れること。

 **注意：**FCC 規定には、デルによる明示的な承認のない変更や修正を行うと、この装置を操作する権限が取り消されることがあると定められています。

これらの制限は、この装置が住宅地域に設置された場合、有害な電波障害から適切に保護されるように設定されたものです。特定の設置方法で電波障害が発生しないという保証はありません。この装置がラジオやテレビの受信に電波障害を引き起こすかどうかはその装置の電源をオンまたはオフにすることによって判定できますので、以下の方法を 1 つ、またはそれ以上実行して問題を解決してください。

- 受信アンテナの方向を変える。
- 受信機に対するシステムの位置を変える。
- システムを受信機から離す。
- システムを別のコンセントに接続し、システムと受信機が別々の分岐回路に接続されている状態にする。

必要に応じて、弊社のカスタマーケアまたはラジオ / テレビの経験を積んだ技術者に連絡し、アドバイスをもらってください。

次の情報は、本書で扱っているデバイスに対して、FCC 規定に従って提供されるものです。

製品名：	Dell™ Dimension™ 9200C
モデル番号：	DCCY
会社名：	Dell Inc. Worldwide Regulatory Compliance & Environmental Affairs One Dell Way Round Rock, TX 78682 USA 512-338-4400

デルへのお問い合わせ

インターネット上でのデルへのアクセスには、次のアドレスをご利用ください。

- www.dell.com/jp
- support.jp.dell.com (サポート)

デルへお問い合わせになる際には、次の表の E- メールアドレス、電話番号、およびコードをご利用ください。国際電話のかけ方に関しては、国内または国際電話会社にお問い合わせください。



メモ：以下の連絡先は本書を印刷する時点のものであり、変更されることがあります。

国 (市) 国際電話アクセスコード 国番号市外局番	部署名またはサービス内容、 ウェブサイトおよび E- メールアドレス	市外局番 市内番号、または フリーダイヤル
日本 (川崎)	ウェブサイト： support.jp.dell.com	
国際電話アクセスコード： 001	テクニカルサポート (サーバー)	フリーダイヤル： 0120-198-498
国番号： 81	テクニカルサポート (海外から) (サーバー)	81-44-556-4162
市外局番： 44	テクニカルサポート (Dimension および Inspiron)	フリーダイヤル： 0120-198-226
	テクニカルサポート (海外から) (Dimension および Inspiron)	81-44-520-1435
	テクニカルサポート (Dell Precision、 OptiPlex、Latitude)	フリーダイヤル： 0120-198-433
	テクニカルサポート (海外から) (Dell Precision、OptiPlex、Latitude)	81-44-556-3894
	テクニカルサポート (PDA、 プロジェクタ、プリンタ、ルーター)	フリーダイヤル： 0120-981-690
	テクニカルサポート (海外から) (PDA、プロジェクタ、プリンタ、ルーター)	81-44-556-3468
	FAX 情報サービス	044-556-3490
	24 時間納期情報案内サービス	044-556-3801
	カスタマーケア	044-556-4240
	ビジネスセールス本部 (従業員数 400 人未満)	044-556-1465
	法人営業本部 (従業員数 400 人以上)	044-556-3433
	官公庁 / 研究・教育機関 / 医療機関セールス	044-556-5963
	デルグローバルジャパン	044-556-3469
	個人のお客様	044-556-1760
	代表	044-556-4300

索引

B

BIOS, 111

C

CD

OS, 12
再生, 24

CD/DVD-RW ドライブ
問題, 37

CD/DVD ドライブ
問題, 37

CD のコピー
一般情報, 26
便利なヒント, 28
方法, 27

CMOS 設定
取り消し, 121

D

Drivers and Utilities CD, 9

DVD
再生, 24

DVD ドライブ
問題, 37

DVD のコピー
一般情報, 26
便利なヒント, 28
方法, 27

E

E-メール
問題, 38

I

IEEE 1394
問題, 40

M

Microsoft Windows
ラベル, 10

O

OS
再インストール, 12
復元, 62-63

P

PCI Express カード
取り外し, 81
取り付け, 78

PC リストア, 62-63

S

SATA 「シリアル ATA」
を参照

T

TV
コンピュータへの接続, 20

U

USB
デバイスからの起動, 117

W

Windows XP
再インストール, 12
システムの復元, 62-63
スキャナー, 48
デバイスドライバのロール
バック, 61
ネットワークセットアップ
ウィザード, 22
ハイパースレッディング,
33
ハードウェアに関するトラ
ブルシューティン
グ, 62
復元, 62-63
プログラム互換性ウ
ィザード, 42
ヘルプとサポートセン
ター, 11

あ

安全にお使いいただくための
注意, 9

い

インターネット
接続、オプション, 22
接続、セットアップ, 23
接続、説明, 22
問題, 38

う

ウィザード
ネットワークセットアップ
ウィザード, 22
プログラム互換性ウ
ィザード, 42

え

エラーメッセージ
診断ライト, 53
エンドユーザーライセ
ンス契約, 9

お

オーディオ 「サウンド」
を参照

か

カード
サポートされる種類, 77
スロット, 77
取り外し, 81
取り付け, 78

快適な使い方, 9

カバー
カバーの取り付け, 104
取り外し, 68

画面 「モニター」を参照

き

キーボード
問題, 41
起動
USB デバイスから, 117
起動順序
オプション設定, 117
変更, 117-118

休止状態モード, 29, 31

こ

コンピュータ
以前の動作状態の
復元, 62-63
クラッシュ, 41-43
クリーニング, 121
内部, 70
反応が停止した場合, 41-42

さ

サービスタグ, 10
再インストール用 CD, 12

再生
CD, 24
DVD, 24

サウンド
音量, 49
問題, 49

サポート
デルの連絡先, 124-125
ポリシー, 123

サポートサイト, 11

し

システム基板, 71
システムの復元, 62-63
仕様
オーディオ, 108
拡張バス, 108
環境, 111
技術, 107
コネクタ, 109
コンピュータ情報, 107
サイズと重量, 110
電源, 110
ドライブ, 108
ビデオ, 108
プロセッサ, 107
ボタンとライト, 110
メモリ, 107
シリアル ATA, 84

診断

- デル, 58
- ライト, 53

診断ライト, 53

す

- スキャナー
問題, 48
- スタンバイモード, 29
- スピーカー
音量, 49
問題, 49

せ

- 製品情報ガイド, 9
- 設定
セットアップユーティリティ, 111
- セットアップユーティリティ
オプション, 113
画面, 112
起動, 112

そ

- ソフトウェア
ハイパースレッディング, 33
問題, 42-43

ち

チェックディスク, 37

て

ディスプレイ「モニター」
を参照

テクニカルサポート
ポリシー, 123

デル

- Dell Diagnostics (診断)
プログラム, 58
- サポートポリシー, 123
- 連絡先, 124-125

デルサポートサイト, 11

電源

- オプション, 30
- オプション、スキーム, 30
- オプション、休止状態, 31
- オプション、詳細設定, 31
- 休止状態モード, 31
問題, 46

電源オプションのプロパ
ティ, 30

電源ライト
状態, 46

電力

- 管理, 29
- 休止状態モード, 29
- スタンバイモード, 29
- 節約, 29

と

- トラブルシューティング
Dell Diagnostics (診断)
プログラム, 58
- 以前の動作状態の
復元, 62-63
- 診断ライト, 53
- ハードウェアに関するトラ
ブルシューティン
グ, 62
- ヘルプとサポートセン
ター, 11

ドライバ

- 識別, 60
- 説明, 60

ドライブ

- シリアル ATA, 84
- ハードドライブ, 84
- ハードドライブの取り外
し, 85
- ハードドライブの取り付
け, 86
- フロッピーの取り外し, 97
- フロッピーの取り付け, 99
問題, 36

トラブルシューティング
ヒント, 35

に

認可機関の情報, 9

ね

- ネットワーク
 - セットアップ, 21
 - ネットワークセットアップウィザード, 22
 - 問題, 45
- ネットワークセットアップウィザード, 22

は

- ハードウェア
 - Dell Diagnostics (診断)プログラム, 58
- ハードウェアに関するトラブルシューティング, 62
- ハードドライブ
 - 取り外し, 85
 - 取り付け, 86
 - 問題, 37
- ハイパースレッディング, 33
- パスワード
 - ジャンパ, 120
 - 取り消し, 120
- バッテリー
 - 交換, 102
 - 問題, 35

ひ

- ビデオ
 - 問題, 50

ふ

- 復元
 - Windows XP, 62-63
- 部品の取り付け
 - コンピュータの電源切断, 67
 - 作業を開始する前に, 67
 - 推奨するツール, 67
- プリンタ
 - USB, 18
 - ケーブル, 17
 - セットアップ, 17
 - 接続, 17
 - 問題, 47

- プログラム互換性ウィザード, 42

- フロッピードライブ
 - 取り外し, 97
 - 取り付け, 99

へ

- ヘルプとサポートセンター, 11
- ヘルプファイル
 - Windows ヘルプとサポートセンター, 11

ほ

- 保証に関する情報, 9
- ボリューム
 - 調整, 49

ま

- マウス
 - 問題, 44
- マザーボード「システム基板」を参照
- マニュアル
 - 安全について, 9
 - エンドユーザーライセンス契約, 9
 - オンライン, 11
 - 快適な使い方, 9
 - 規制, 9
 - 製品情報ガイド, 9
 - 保証, 9

め

- メッセージ
 - エラー, 39
- メディアカードリーダー
 - 使い方, 18
 - 取り外し, 93
 - 取り付け, 95
 - 問題, 40
- メモリ
 - 4 GB 構成, 74
 - DDR2 の概要, 72
 - サポートされる種類, 72
 - 取り外し, 76
 - 取り付け, 74
 - 取り付けのガイドライン, 72
 - 問題, 44

も

モデム

- 追加, 101
- 問題, 38

モニター

- TVの接続, 20
- 拡張デスクトップモード, 20
- クローンモード, 20
- ディスプレイ設定, 20
- 何も表示されない場合, 50
- 見づらい場合, 51
- 問題, 50

問題

- CDドライブ, 37
- CD/DVD-RWドライブ, 37
- Dell Diagnostics (診断) プログラム, 58
- DVDドライブ, 37
- E-メール, 38
- IEEE 1394, 40
- 青色の画面, 43
- インターネット, 38
- 以前の動作状態の復元, 62-63
- 一般的な注意, 41
- エラーメッセージ, 39
- 画面が見づらい場合, 51
- 画面に何も表示されない場合, 50
- キーボード, 41
- コンピュータがクラッシュした場合, 41-43
- コンピュータの反応が停止した場合, 41-42

問題 (続き)

- サウンドとスピーカー, 49
- 診断ライト, 53
- スキャナー, 48
- ソフトウェア, 42-43
- テクニカルサポートポリシー, 123
- 電源, 46
- 電源ライトの状態, 46
- トラブルシューティングのヒント, 35
- ドライブ, 36
- ネットワーク, 45
- ハードドライブ, 37
- バッテリー, 35
- ビデオとモニター, 50
- プリンタ, 47
- プログラムがクラッシュする場合, 42
- プログラムが応答しなくなった場合, 42
- プログラムとWindowsの互換性, 42
- ボリュームの調整, 49
- マウス, 44
- メディアカードリーダー, 40
- メモリ, 44
- モデム, 38
- モニターが見づらい場合, 51
- モニターに何も表示されない場合, 50

ら

ライト

- コンピュータの背面, 53
- 診断, 53

ラベル

- Microsoft Windows, 10
- サービスタグ, 10

